

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ
プロジェクト報告書 2012.04-2020.12

本書について

本報告書は、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（以下、デザイン・ラウンジ）における2012年4月-2020年12月（1-3期）までの9年間の活動を総括することを目的として作成しました。なお本書記載の肩書き、学年、年齢等はイベント開催時のものです。

また、表紙に使用しているデザイン・ラウンジのVI（ビジュアル・アイデンティティ）デザインは、本学基礎デザイン学科の原研哉教授（現・主任教授）が担当しました。社会の中に新しいデザインを求めていく時代、多くの人との出会いの中で新しいデザインが発見される時代に、マークのデザインにも人の対話が丸くなるように、人の出会いが円滑になるようにという気楽さが込められています。



はじめに—武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジと美術大学のこれから

長澤 忠徳
武蔵野美術大学 学長

拠点としてのデザイン・ラウンジ

公益財団法人日本デザイン振興会と公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会事務局がある、東京ミッドタウン・デザインハブの施設の一部を借りるという話が持ち上がったのは、2010年のことでした。当時私は本学の企画部長であったため、連絡を受けたその夜にはすぐ、かつて日本産業デザイン振興会におられ関係の深い本学の井口博美先生（当時・本学デザイン情報学科/現・クリエイティブイノベーション学科 主任教授）、また当時、本学企画担当だった千羽一郎氏と相談したことを覚えています。その頃、都心に出て大学をアピールするための拠点の必要性を感じていました。また本学は2009年に80周年を迎えていましたが、そこで打ち出した「ムサビを世界のコンテクストに乗せる」というグローバルな視点が私の中に残っていました。その後、紆余曲折もありましたが、最終的には理事会が入居を決定し、学内の先生たちがチームをつくり1年間の準備の末、2012年4月に「武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ」が開所しました。ディレクターは、井口博美先生が担当されることになりました。

本学はこの新しいスペースを「デザイン・ラウンジ」と名付けました。命名をしたのは津村耕佑先生（本学空間演出デザイン学科 教授）でした。ホテルのロビーをラウンジと呼んだりしますが、特定の目的は持っていません。それゆえ、この名称をつけたことにより、非常に多彩な活動が出来たのだと感じています。

もう一つの拠点「gallery α M」

本学は現在、現代美術のギャラリー「gallery α M」を東京・馬喰町で運営しています。もともとは1988年より「ギャラリーαM」を吉祥寺に構えていましたが、2002年3月に閉廊しました。その後は「αMプロジェクト」として特定のスペースを持たずにギャラリーを借りて活動をしていましたが、本学専有の拠点の必要性を感じ、当時、本学日本画学科の内田あぐり教授の尽力により2009年から現在の場所で活動を開始しました。

「gallery α M」は、ムサビということを出さないコンセプトで運営して来ていますが、実は昔から日本のコンテンポラリーアートを展開してきたのは本学でした。本学の学生や卒業生だけではなく、全ての若手アーティストとキュレーターに発表の機会を提供し、社会運動としてコンテンポラリーアートを社会に打ち出していった歴史があります。



gallery α M

2009年に「gallery α M」が開設されたとき、ファインアートの拠点があるならば、デザインの拠点もあっていいのではないかという思いがありました。

構想ありきではない。

都心の結節点（タッチポイント）としてのデザイン・ラウンジ

デザインの分野でも、美大と社会が接触する活動拠点を都心に持ちたいと考えていました。また、コンセプトに合わせて活動することが世の中の常かもしれませんが、その場所ではある固定したコンセプトに則っていくというよりは、活動しながら構想を積み上げていくという考えがありました。

もう一つ。ハブ空港という言葉がありますが「デザインハブ」の空間の横にある部屋という意味では、「デザイン・ラウンジ」というネーミングはとてもよかったです。この名前がついた時「みんなが集い、何かを得て帰るラウンジのようなもの」というイメージがありました。そして、ここは人と人との交流や新しい概念が生まれる場所であるということ、みんなで理解し運営してきました。

デザイン・ラウンジでの活動

デザイン・ラウンジのスペースは、本学が入居する以前は九州大学が使用していました。これを本学が引き継いだ時、私は新しいスペースには新しい匂いをつけ、温度を与えなければならぬと考えていました。また、貸しスペースのようにいつも違った人が使用して、使用後は部屋を閉め活動していないということも面白くないと考えていました。いつも必ず何かをしていて、何かが起こっている状態があったら、デザインハブのスペースも含めて場所が生きてくだろうと考えていました。

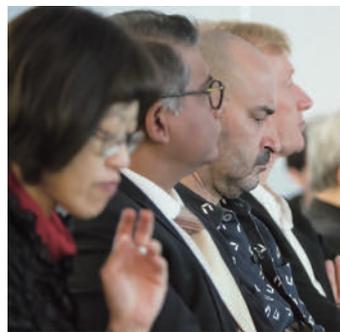
そこで2012年に、開室して最初のイベント「PROVOKE デザイン・インフォマティクス・フォーラム2012」を企画し4回シリーズで開催しました。当時、私は本学デザイン情報学科の主任教授を務めており、この企画は大学院を新しく作り直すプログラムを考える意図がありました。初回は、森山明子先生（本学デザイン情報学科 教授）がコーディネーターとなり、ゲストにはなんと多摩美術大学情報デザイン学科で当時教授をされていた須永剛司先生をお呼びしました。このように、いろいろな人がいろいろなかたちで出入りするような場所に使うことが、一つの匂いの付け方でした。

「PROVOKE」の2回目のゲストは、ジェームス・アーガー氏（RCAデザインインタラクショナルコース チューター）と田川欣哉氏（takram 代表）でした。考えてみますと2012年のこのフォーラムですでに「クリエイティブリーダーシップ」というキーワードを出しているのですが、これが本学の市ヶ谷キャンパスでの大学院「クリエイティブリーダーシップコース」の発端になっています。

2012年に、本学は美大では初めてとなる文部科学省による「グローバル人



PROVOKE デザイン・インフォマティクス・フォーラム2012
PROVOKE_00: Design x Informatics
(2012年)



グローバル・デザイン教育フォーラム
2014 東京-グローバル・デザイン教育ファカルティの創成にむけて- (2014年)

材育成事業（特色型）」に採択されました。その助成で「グローバル・デザイン教育フォーラム 2014 東京-グローバル・デザイン教育ファカルティの創成にむけて-」を2014年2月に開催しましたが、このイベントもデザイン・ラウンジおよび、デザインハブ内にあるインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターで行いました。

また、この国際フォーラムで「Global Design Initiative (GDI)」が発案、合意されました。GDIとは、ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン（ドイツ）、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校（英国）、ラサール・カレッジ・オブ・アート（シンガポール）、実践大学（台湾）に本学を加えた5校が行う国際ワークショップです。翌年2015年度にラサール・カレッジ・オブ・アートからスタートし、1年毎に各大学がホストとなり、現在でもその活動は続いています。2017年の本学がホストとなったGDIワークショップのプレゼンテーションも、デザイン・ラウンジで行いました。

デザイン・ラウンジの1期目の最初の3年間が終わり、2期目の2015年に私は本学学長に就任しました。そこで「WEEKEND 学長トーク」シリーズ、「vol.1 -美術大学は誤解されている?-」「vol.2 -もともと美大はグローバル?-」「vol.3 -今、だからムサビ.-」をデザイン・ラウンジで展開しました。

六本木から市ヶ谷へ。新しいタイプの教育へ

本学は2019年4月に市ヶ谷キャンパスと、造形構想学部、大学院造形構想研究科を開設し、同時にソーシャルクリエイティブ研究所を併設しました。この新たな拠点を形成していく中で、デザイン・ラウンジの機能を市ヶ谷キャンパスへ集約し、デザインハブ内の施設であったデザイン・ラウンジを2020年12月に閉所することにしました。この新たな拠点形成の一連のプロジェクトは、私の学長当選後すぐに始まりました。デザイン・ラウンジディレクターの井口先生へは、デザイン・ラウンジで行っている実験を、このプロジェクトで発展的に展開する考えを伝えました。

デザイン・ラウンジにおける、どこまでが教室でどこまでが教室ではないのか、どこまでが大学教育でどこまでが社会教育なのかという見境がつかない部分は、実はとても魅力的な部分なのです。そういうものが街の真ん中に存在して活動することは、社会にとって創造的な思考力の何たるかを身をもって示すことではないかと考え、そのひな型になるようなことをデザイン・ラウンジで行なってきました。ここはある意味においては、防波堤で仕切られた護岸の海岸だったのかもしれませんが、市ヶ谷キャンパスではそれを本当の干潟にしてしまう。そうすればおそらく新しいタイプの学び方が生まれてくるのではないかと考えています。どこまでが授業で、どこまでがプロジェクトなのか、どれだけデザインメソドロジーを学ばなければいけないのか、その戸惑いもまた学びです。今、市ヶ谷キャンパスで試行していることは、新たな学び方のチャレンジなのだと考えています。



武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス
(2019年開設)

そういった意味でデザイン・ラウンジは、私たち自身のインキュベーターでした。ここで生まれた空気感や、どのようにプロジェクトをデザインするかという模索と実験の積み重ねが引き継がれ、市ヶ谷キャンパスは生まれることができたのだと思っています。

美術大学のこれからの姿

この9年間にデザイン・ラウンジでは、600件以上のイベントや展示を開催してきました。また本学のほとんどの学科が、一度はこの場所でイベントを開催しています。ここでのさまざまな試みによって、美大の本当の姿を多くの方に伝えることが出来ました。「どこまでがデザインなのか?」「これはデザインではないのでは…?」、そう思う人たちが大勢生まれることが私たちの企みでした。新しいものがたくさん生まれて、それが市ヶ谷キャンパスという次のステージに移りました。私は、大学とはこのようにして成長していくものなのだろうと思います。

市ヶ谷キャンパスの先生たちとの出会いもこの場所でした。私は新たに着任される先生たちに「なにか事件を起こそう」とお話ししました。事件とは美大に対する誤解と闘うこと。そういう事件を起こしていくムサビでありたいいつも思っています。社会的には本学が東京ミッドタウンという商業施設に入ったこと自体、一つの事件だったと思います。きっとこのデザインハブのフロアは、賑わいを得たのだろうと思います。お隣の日本グラフィックデザイナー協会や日本デザイン振興会の皆さんも嬉しかったのではないかと思います。なぜなら、そこには私たちがいたからです。ムサビはここで賑やかでした。そういう活気が社会に力を与えていくと信じて、さらに頑張らなくてはいけないと思っています。今度は市ヶ谷で、そして、それはもう始まっています。

デザイン・ラウンジは「小さなポート」でしたが、今は完全な「出島」として市ヶ谷にキャンパスを構えています。私はこのきっかけをつくってくれたデザイン・ラウンジと、これを支えてくれた多くの方々から感謝しています。本学は、次に向けてここを去り、新たなステージに上がっていきます。



東京ミッドタウン・デザインハブ
第89回企画展「見えてないデザイン
- 社会に問い続けるムサビ -」
デザイン・ラウンジクロージング
トークイベント「見えてないデザイン、
社会に問い続けるムサビ」(2020年)



長澤 忠徳

武蔵野美術大学 学長

専門は、デザインプロデュース、デザインコンサルティング、カルチュラル・エンジニアリング、デザイン評論、デザイン教育、デザイン戦略立案。これまでに民間企業、地方自治体、政府のデザイン顧問や行政広報、オリンピック関連の各種委員、グッドデザイン選定審査員等、デザイン振興活動や国際デザイン情報ネットワーク構築等に尽力。

1953年 富山県生まれ。1978年 武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業。1981年 Royal College of Art, London 修士課程修了 MA (RCA) 取得。帰国して、長澤忠徳事務所/デザイン研究所を開設。1986年 事務所を法人化、有限会社長澤忠徳事務所設立、代表取締役就任(2019年まで)。1987年 国際デザイン・シンクタンク Design Analysis International Limited (本部ロンドン) 設立に参画、ディレクター、日本代表を歴任。1993年 東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科助教授に就任(1999年退任)。1999年 武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科教授に就任、現在に至る。2003年 武蔵野美術大学国際部長に就任、以降学長補佐、企画部長等を歴任。2011年 学校法人武蔵野美術大学評議員に就任、現在に至る。2015年 武蔵野美術大学学長、学校法人武蔵野美術大学理事に就任、現在に至る。2016年 Royal College of Artより美術・デザイン教育の国際化を先駆的に推進し、世界に影響を与えた功績が認められ、日本人初のシニアフェローの称号を授与。

15	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジについて	板橋孝浩	本学大学企画グループ社会連携チーム
21	デザイン・ラウンジの代表的な活動		
22	武蔵野美術大学、デザイン・ラウンジの取り組み		
23	DESIGN LOUNGE PROJECT ARCHIVES 産官学共同プロジェクト		
24	面白法人カヤック	デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ	
25	株式会社ラナエクストラクティブ	{ SMART <(?) } を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ	
26	ランドーアソシエイツ	『日本のリ・ブランディング』with ランドーアソシエイツ/ 「キッズ・エンジョイ・スポーツプロジェクト」with MIZUNO	
27	ヤフー株式会社 株式会社コロプラ	ムサビ×ヤフー主催「Hack U at 武蔵野美術大学」/ アートで届けるプレゼント	
28	株式会社コンセント 日本集成材工業協同組合	SERVICE DESIGN LOUNGE/ 懇親力のデザイン (Conviviality Design) ～和文化で集う“多目的ユニット (集成材)”の提案	
29	千葉県いすみ市	いすみ市発房総ライフスタイル・プロジェクト	
30	株式会社OFFICE HALO Xデザイン学校	WEデザインスクール/ Xデザイン学校公開講座	
31	チームラボ株式会社	チームラボ&武蔵野美術大学 チームで考えてチームでつくるワークショップ/ チームラボのデザイナーとつくる「人に伝わるポートフォリオサイト」/	
32	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ 東京工業大学	LINK OF LIFE 東京工業大学との合同ワークショップ「コンセプト・デザインング」	
33	EVENT ARCHIVES イベント		
34	武蔵野美術大学	公開講座「トップデザインセミナー」「Explore the Design」「Creative Innovation」 「クリエイティブを学ぶ!～デザイン、アートの力って?」	
35	東京ミッドタウン	六本木アートナイト	
36	東京ミッドタウン	MIDTOWN LOVES SUMMER TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS デザイン&アートで遊ぼう! /みんなでつくろう日本の夏	
37	東京ミッドタウン・デザインハブ	デザイナー、アーティストらによる子ども向けワークショップ 「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク」	
38	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ企画「GOOD な DESIGN LOUNGE」	
39	武蔵野美術大学デザイン情報学科	PROVOKE デザイン・インフォマティクス・フォーラム 2012	
40	Global Design Initiative (GDI)	文部科学省採択事業 グローバル・デザイン教育フォーラム 2014 / 2017 東京 -グローバル・デザイン教育ファカルティの創成にむけて-/ グローバル・デザイン・イニシアチブ・ワークショップ2017	
41	武蔵野美術大学	WEEKEND 学長トーク vol.1 -美術大学は誤解されている?- vol.2 -もともと美大はグローバル!- vol.3 -今、だからムサビ。-/ クラブデザインコース陶磁専攻 うつわと和菓子/ うつわと夜の梅-とらやの羊羹から生まれた11人のうつわ-	
42	東京ミッドタウン×武蔵野美術大学 武蔵野美術大学	東京ミッドタウン&デザインハブ関連 コンペ等説明会/ 旅するムサビプロジェクト展	

43	EXHIBITION ARCHIVES 東京ミッドタウン・デザインハブ企画展		
44	東京ミッドタウン・デザインハブ第36回企画展「ムサビのデザイン 武蔵野美術大学のデザインコレクションと教育」		
45	東京ミッドタウン・デザインハブ第43回企画展「ものづくり」の本質と可能性を探る展覧会 『これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形』		
46	東京ミッドタウン・デザインハブ第49回企画展「いろは展」		
47	東京ミッドタウン・デザインハブ第54回企画展「ラーニング・アーキテクチャー 2015 建築、学びの冒険—大学の建築設計課題の動向展」		
48	東京ミッドタウン・デザインハブ第62回企画展「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」		
49	東京ミッドタウン・デザインハブ第70回企画展「ハブとマンガース」		
50	東京ミッドタウン・デザインハブ第76回企画展「企(たくらみ)展」-ちよつと先の社会を作るデザイン-		
51	東京ミッドタウン・デザインハブ第83回企画展「ヴァジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」		
52	東京ミッドタウン・デザインハブ第89回企画展「見えてないデザイナー社会に問い続けるムサビ」		
53	スペシャルインタビュー 2020		
54	デザイン・ラウンジ スペシャルインタビュー 2020		
56	デザイン・ラウンジと津村耕佑	津村耕佑	ファッションデザイナー/本学空間演出デザイン学科 教授
60	デザイン・ラウンジと美術大学の社会連携	宮島慎吾	本学 名誉教授/NPO法人わらアートJAPAN 主宰・理事
64	デザイン・ラウンジと学生ワークショップ	一森加奈子	アートディレクター/グラフィックデザイナー
68	デザイン・ラウンジの成り立ち	山下 亮	クリエイティブストラテジスト/アートディレクター/ クリエイティブディレクター 千羽一郎 本学専任職員
74	デザイン・ラウンジとこれからの集まる場	「折詰め会」の発起人及びコアメンバー 佐久間奈々恵 UIデザイナー 松林景子 UIデザイナー 川合啓介 エクスペリエンスデザイナー 日置浩司 フロントエンドエンジニア	
78	東京ミッドタウン・デザインハブと デザイン・ラウンジ	矢島進二	公益財団法人日本デザイン振興会 理事 事業部長 近藤直樹 公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 事務局長代行
86	東京ミッドタウンとデザイン・ラウンジ	井上ルミ子	東京ミッドタウンマネジメント株式会社タウンマネジメント部 プロモーティンググループ シニアマネージャー
92	新しいデザイン教育とデザイン・ラウンジ	稲葉裕美	OFFICE HALO 代表取締役/WEデザインスクール 主宰
96	大学から社会への繋がりとデザイン・ラウンジ	滝澤幸子	OFFICE HALO チーフクリエイティブオフィサー
		加藤晃央	世界株式会社 共同代表/株式会社モーフイング 代表取締役
		井口皓太	映像デザイナー/クリエイティブディレクター
		小松健太郎	プロデューサー

101	デザイン・ラウンジ 活動一覧2012-2020
133	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 活動の考察 加倉井美香 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジアシスタントディレクター
141	武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジの3期9年間を振り返って 井口博美 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジディレクター
149	デザイン・ラウンジ 施設/設備/web コンテンツ
150	デザイン・ラウンジ 施設 東京ミッドタウン/東京ミッドタウン・デザインハブ
151	デザイン・ラウンジ 設備
153	デザイン・ラウンジ web コンテンツ
157	謝 辞 澤野誠人 武蔵野美術大学大学企画グループ社会連携チーム



武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジについて

板橋 孝浩 本学大学企画グループ社会連携チーム

はじめに

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（以下、デザイン・ラウンジ）は、東京ミッドタウン・デザインハブ（以下、デザインハブ）内に美術大学として初めて参画した、デザインの情報発信拠点です。

2012年4月の開設以降、約9年間に渡り、これからのデザイン、これからのデザイン教育について議論しながら、美術大学の社会貢献力を高め、企業・社会と大学がつながりを持てる場を目指してきました。

デザイン・ラウンジでは、3年間を活動1期として設定しており、閉室を迎えた2020年12月で活動3期目が終了したことになります。

私自身が担当職員として関わるようになったのは2016年からであり、成り立ちや初期の活動については伝え聞いた話が多いのですが、本章では、これまでに発行された2冊の報告書などをもとに第1期、第2期を振り返りながら、第3期を中心とした活動内容と、今後の展開について報告します。

デザイン・ラウンジの活動目的

デザイン・ラウンジは、開設当初に設定した以下3つの活動目的をもとに、公開講座やワークショップなどのイベント、地域や企業との連携活動、デザイナーアーカイブ作成、展示活動などを実施してきました。

- (1) つくる人を増やす
- (2) 新しい関係をつくる
- (3) 美大のアイデンティティを問う

「つくる人を増やす」というのは、デザイン活動への関心を幅広く持ってもらい、つくることへの挑戦を促そうという意味があります。また、「新しい関係をつくる」は、デザインへの参画・賛同者同士が新たな関係をつくっていき、その中で様々な活動をしていくことです。さらに、「美大のアイデンティティを問う」は、美術大学及び美術教育がこれからどうなっていくべきかを模索するというものです。

デザイン・ラウンジの活動理念

つくる人を増やす

デザイン活動への関心を幅広く
持ってもらい、つくることへの挑戦を促す

新しい関係をつくる

デザインへの参画・
賛同者同士が新たな関係をつくる

美大のアイデンティティを問う

美術大学及び美術教育がこれから
どうなっていくべきかを模索する

デザイン情報プラットフォームとしての役割

デザイン・ラウンジが参画したデザインハブは、公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）、インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターから構成されているデザインのネットワーク拠点です。

デザインハブは、デザインのプロモーション・職能・研究教育という3つの異なる役割を担う機関が連携し、デザインによって「人」「ビジネス」「知識」を結びつけ、展覧会やセミナーの開催、出版などで情報を発信しています。

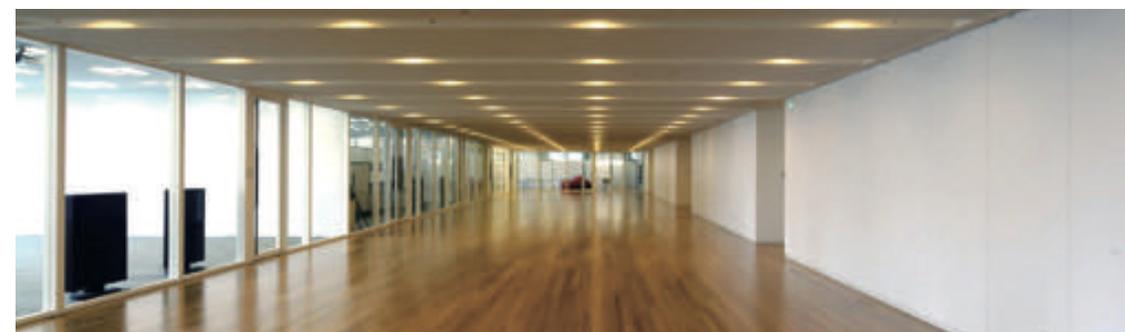
デザイン・ラウンジは、都心・六本木という立地、デザイン機関が集まる周辺環境、教育機関によって設置された施設としての中立的な立ち位置、明確な数値での結果を目的としない活動の展開という、デザインの情報が集まりやすく、社会に共有しやすい構造や活動スタンスをとってきました。

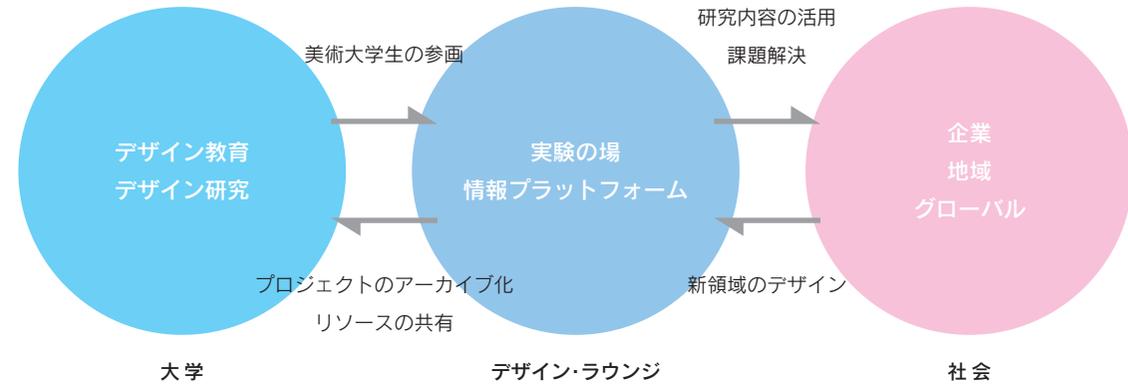
このような、デザイン情報のプラットフォームとしての役割、社会の中で美術大学は何ができるのかという考えから生まれた数多くの活動は、社会へと還元され、少しずつ広がり続けてきました。

新しいデザインの実験場所

第1期（2012-2014年）は、期間目標として、デザイン・ラウンジの「認知」「話題づくり」「活用モデル」の確立というステップアップの基本計画を立て、アートやデザインの概念をできるだけ広く捉えたプロジェクトやワークショップ、公開講座や展示等、200本を超えるイベントを企画・運営しました。

ディレクターを務めた本学クリエイティブイノベーション学科の井口博美教授は、「何もない空間からのスタートだった」とよく話していますが、この時点で、ヤフー株式会社や株式会社コンセントと「デザイン思考」「サービスデザイン」といった新たな領域のデザインプロジェクトを実施しており、まさに実験的な期間であったことがわかります。





デザインの広がり

これらの実績をもとに、第2期（2015-2017年）は、「リソースの本格的なビジネスプロジェクト」への導入を目標にしました。

活動の幅や領域も広がり、実施したプロジェクトの数は300本を超えています。また、プロジェクトの協働先は企業だけではなく、地方自治体、大学、デザインスクールなど、更なる展開を見せました。

この時期に始まったプロジェクトの中には、千葉県いすみ市との「いすみ市発房総ライフスタイル・プロジェクト」や、東京工業大学との合同ワークショップ「コンセプト・デザイン」など、デザイン・ラウンジでの試験的な実施を経て、全学的なプログラムへと発展し、現在も継続しているものがあります。また、東京ミッドタウンで実施している「六本木アートナイト」や「TOKYO MIDTOWN KIDSWEEK」には毎年本学の学生が参加し、大学としても恒例のイベントとなっています。

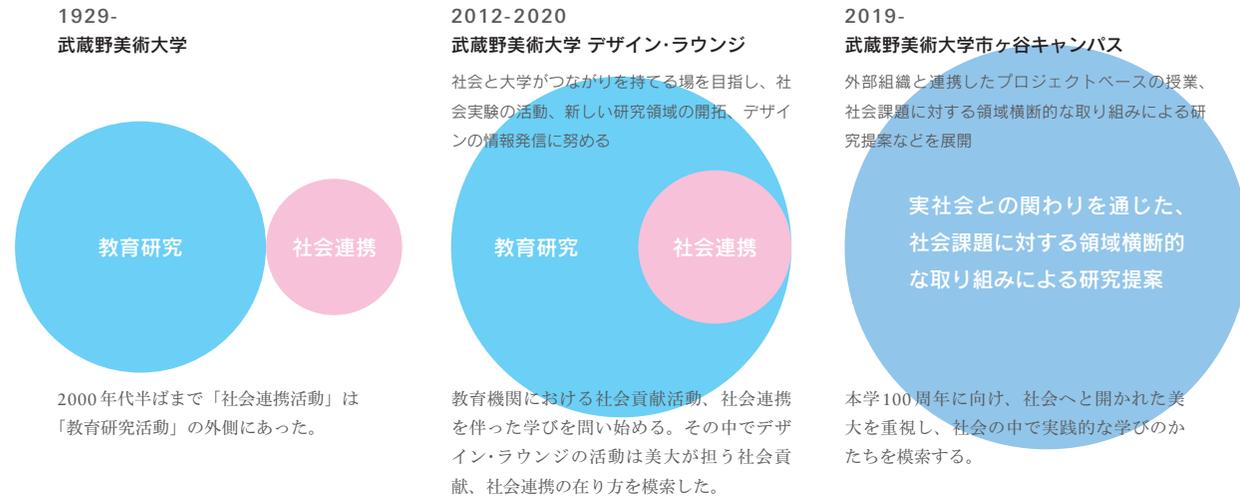
実社会とのつながり

第3期（2018-2020年）は、デザイン・ラウンジ開設当初から実施してきた、デザイナー・エンジニアなど専門性を持つ人が集う勉強会である「折詰め会」の開催回数が100回を超えるなど、これまでの実績を継続しつつ、より実社会とのつながりを意識したプロジェクトやイベントが行われました。

例えば、2018年に開催された東京ミッドタウン・デザインハブ第76回企画展『「企(たくらみ)展」-ちょっと先の社会を作るデザイン-』は、デザインの軸が「意匠」や「造形」といった「形のあるもの」から、コミュニケーション、サービスや仕組みといった「形のないデザイン」に大きくシフトしている社会状況をふまえて企画されたものです。

また、同年に開催した公開講座「クリエイティブを学ぶ!～デザイン、アートの力って?」については、クリエイティブな思考を通じてリーダーシップを発揮する人材が求められているという社会的な背景から、講座の対象をこれまでよりもビジネスマンに特化させ、デザイン・アートの思考を活用して活躍する様々な方々をお招きしました。

この時期には運営方法自体も共創型に変化してきており、デザイン・ラウンジ単独ではなく、共同開催というかたちで実施するものが増えてきていたことが印象的です。



六本木から市ヶ谷への機能移転

一方、創立90周年を迎えた2019年、本学は、クリエイティブイノベーション学科を設立し、市ヶ谷キャンパスを開設しました。

学部、大学院で実施するカリキュラムは、企業・社会と大学がつながったプロジェクト実践型の教育プログラムを展開し、社会問題の解決や新たな仕組みづくりを行うことのできる人材の養成を目的としています。

また、これと同時に、市ヶ谷キャンパス内にソーシャルクリエイティブ研究所を設置しました。ここでは、現代が抱える課題に対して、ビジョンとプロトタイプを研究提案していくことができるよう、企業、地域、行政、教育の壁を越え、領域横断的に取り組めるような体制を整備しました。

これらを準備する際には、これまでデザイン・ラウンジで実施した多岐にわたる活動で得たデザイン、デザイン教育の動向に関する実験結果、ノウハウ、コネクションが大きな基盤となっています。

社会における美術大学の役割が変化中、美術大学の社会貢献力を高め、実社会との関わりを通じて新たな未来を切り拓き、情報発信力を強化するため、デザイン・ラウンジの活動は、その機能を本学の新たな拠点となる市ヶ谷キャンパスへ集約することになりました。

見えてないデザイン展

デザイン・ラウンジ最後の取り組みとなったのは、東京ミッドタウン・デザインハブ第89回企画展「見えてないデザイン—社会に問い続けるムサビー—」です。

この展覧会では、「教育」「地域」「産業」「文化」「生活」「多様性」という6つのテーマを設定し、デザイン・ラウンジが取り組んできた活動をテーマごとに紹介しました。デザイン・ラウンジは、2012年以降、社会と大学がつながるための方法を問い続け、様々な活動を実施してきましたが、この問い続ける活動はまさにデザインのプロセスであったと言えます。

また、これと同時に、未来の社会における新しい学びのあり方を、企業、地方自治体、高校生、本学学生、本学教職員など、様々な方々と実施したワークショップの成果展示というかたちで紹介しました。

東京ミッドタウン・デザインハブ第89回企画展

「見えてないデザイン—社会に問い続けるムサビー—」：6つのキーワードをもとに、美術やデザインを通してまだ「見えてない」ものに気づき、「問い続け」、みんなで考えたこれからの未来と新たな学びを展示しました。また、本展覧会は全国各地での巡回展を予定しています。

これからの時代に向けて

この文章を書いている2021年2月2日現在、新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言が延長されようとしており、まさに将来の変化を予測することが困難な時代になっていることをあらためて感じています。

初等中等教育、ビジネス、地方自治体など、様々な分野でアート・デザイン領域の重要性が謳われていますが、社会全体にパラダイムシフトが迫られる中、本学としても、デザインの役割、デザイン教育のあり方は大きな課題となっています。

本学は2029年に創立100周年を迎えますが、これに向けて、多様な拡がりを持った「新しい美術大学の姿」を提示するためにも、デザイン・ラウンジ開設当初からの「社会の中で美術大学は何ができるのか」という問いを持ち続けていきたいと思っています。



武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス（2019年開設）



東京ミッドタウン・デザインハブ第89回企画展
「見えてないデザイナー—社会に問い続けるムサビー—」（2020年）



板橋 孝浩

本学大学企画グループ社会連携チーム

本学にて、「房総発ライフデザインプロジェクト」「旅するムサビー」「わらアートまつり」「西浦区PR映像制作」「MAU日本語学習支援プロジェクト」などの数多くの産官学共同プロジェクトに、大学職員として従事し、教員と学生とともに長期にわたりプロジェクトを運営する。それは本学および各研究室と、他大学や高等学校等の教育機関、地方自治体、企業とのコミュニケーションの要となり、事務作業全般を含め多角的にその活動を支えてきた。また学科を横断した多くの学生や院生との学内外での協働の中、プロジェクトをベースとした社会へと拓かれた新たな学びと研究、美術大学の社会貢献の可能性を模索し続けている。デザイン・ラウンジでは、六本木を拠点として実現したプロジェクト、ワークショップ等のイベント、また特に9年間続く公開講座や、多くの繋がりをつくった懇親会、デザインハブの企画展の企画・運営を自らも実践してきた。その活動は、大学と学内外の協力者やスタッフ、そしてなにより学生たちの良き架け橋として、鷹の台と六本木、そして市ヶ谷の空間的な距離を献身的に縮め、円滑な研究・教育活動の推進力として大学の運営と発展に貢献している。

デザイン・ラウンジの代表的な活動

武蔵野美術大学、デザイン・ラウンジの取り組み

既存の価値観の再考や新たな価値の創出が求められる時代の中、武蔵野美術大学では、美術・デザインの教育機関として、企業や地方自治体等との協力体制のもと、多彩なテーマによる様々な活動に取り組んでいます。

2012年4月、東京ミッドタウン・デザインハブ内に開所した「武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ」は、美術大学として初参画した情報発信拠点です。公開講座やワークショップなどのイベントや、地域や企業との連携活動、デザイナーアーカイブ作成、展示活動などを実施し、これからのデザイン、これからのデザイン教育を議論しながら、美術大学の社会貢献力を強め、「企業・社会と大学がつながりを持てる場」「デザインの社会実験の場」を目指してきました。



太刀川英輔 / NOSIGNER レクチャー+ワークショップシリーズ「デザインの文法—ひらめきを生み出す思考」(2012年度)

デザインの社会実験の場として、デザイン・ラウンジは様々な企業・団体などと協働でプロジェクトを進めてきました。内容は、最終的なアウトプットデザインの検証から根幹のサービス提案など、多岐にわたります。「新しいデザイン」のかたちを模索するデザイン・ラウンジには、様々な知恵が集まり情報が集約されてきました。そしてそこから、多くの有益なデザイン情報を発信し続けてきました。

デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ

自社ウェブ上でも実験的なウェブサイトによるパブリックプロモーションを行う面白法人カヤックとの、アイデアの出し方を探求する協働プロジェクトでした。

「アイデアの出し方の探求」と「クリエイターの交流とつながりの場」をテーマに、2013年4月より2シーズン全9回のイベントを開催しました。1stシーズン「面白法人カヤックにまつわるアイデアの話」は、アイデアを実現したゲストによる「アイデアの実践・トーク」と、参加者がアイデアの種を発表する「ライトニング・トーク」の二部形式で行い、クリエイティブの仕事に関わる方、美大に通っている学生、自分のアイデアを発表して一緒に形にするパートナーとの出会いを求める方を対象に実施しました。

2ndシーズン「面白法人カヤック流バズるアイデアの話」は、「バズるアイデア」に焦点を当て、バズらせるための「企画」「デザイン」「技術」そして最終回に「実践」と連続して行うことで、「アイデア」をきっかけとしてクリエイター同士がつながり、新たな創作が生まれる場を目指したプロジェクトでした。毎回、テーマに関係するゲストを様々な産業・専門領域から呼び、見地の拡大を図るとともに「面白いこと=まわりを巻き込む力があること」の普遍性を体験し、人やものを動かすことについてのケーススタディを検証していきました。また、ライトニング・トークでは、カヤックの社員を中心として、実際に世の中に出たウェブプロモーション企画の背景や、その中で使用された技術、新たに試みようとしていることなどを参加者と共有していくことで、面白法人カヤックのユニークな業務内容の紹介とクリエイターの新たな可能性を提示しました。

面白法人カヤックとの広報連携を図ることにより、異なる2つの分野（教育とウェブ）への情報発信が可能となり、相互の普段訴求できないターゲットを取り込むことができ、普段は交流がない分野・領域の参加者同士の交流が行われたプロジェクトでした。

期間：1stシーズン 2013年4-9月

レクチャー+ワークショップ 全5回/

2stシーズン 2014年1-4月 ワークショップ 全4回

主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック



司会の林真由美氏（面白法人カヤック）



2ndシーズン 第1回「バズらせるための企画」

(2014年1月29日[水] 19:30-20:50) ゲストのBUTCH氏

(通称・ビッグウェブ男)

スピーカー全員参加によるバズ大喜利。お題に沿ってそれぞれの方法論が語られました。

{ SMART < (?) } を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ

インタラクティブメディアでのプロモーション企画を得意とする株式会社ラナエクストラクティブと、デジタルデバイス上での「スマート以上の概念」を組み入れた企画を提案していくプロジェクトでした。

日常的に使用されているデジタルデバイスの新しい使用方法の可能性と重要性を探ることを目的とし、2013年5月から全4回、学生を中心として参加者を集めたワークショップ形式で実施しました。プロジェクトの背景として、便利さ（スマートさ）や使いやすさを目指してデジタルデバイスは日々進化してきましたが、インターネットを中心として情報が溢れる中、画一的に情報の整理や選別までプログラムに組み込まれてしまい、能動的な情報活用が欠落していることへの危惧がありました。

美大生やデザイナーは、何も無いところから世界観を作り上げ、ものとして完成させることが得意な人たちが多い集団であり、そこが一番の強みでもあります。本プロジェクト内でも、デジタルデバイスを一つの「道具」として活用し新たな可能性を模索するためには、デザイン思考を必要とし既存の領域内での課題に対する解決方法ではない企画立案が求められました。

利便性や効率化へのベクトルは、必ず誰かにより操作され編集されることで保たれています。生の情報や編集されていない出来事は、第三者に伝えるために言語編集され、その編集された事実は、更に選択者によって選別されています。わかりやすく伝えるために、大半の情報は削がれて核心のみ伝達されるため、何度も編集を重ねられた情報を日常で続けていると、誰かによって操作された情報の受信者（消費者）にしかたれないのです。

能動的な真の情報の発信者（クリエイター）になるためには、人の行動パターンを応用したブランディングの企画・デザインが一つのアプローチになると本プロジェクトでは想定をし、検証をしていきました。

また、株式会社ラナエクストラクティブのメンバーによる各職種ごとの視点を毎回プラスαとして交えなが

ら、異なった視点のアプローチ方法を考えることで、様々なパターンの実験を行いました。

期間：2013年5月-2014年3月

レクチャー+ワークショップ 全4回

講師：太田伸志

(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)

主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/

株式会社ラナエクストラクティブ



各机にランタンが置かれた落ち着いた雰囲気ワークショップ



最後に学生が作ったアイデアを講評する講師の太田伸志氏

ランドーアソシエイツ

『日本のリ・ブランディング』 with ランドーアソシエイツ

Rebranding Japan は、日本の地域や社会が今以上に活気にあふれるために、現代の日本における産業や文化、地域などにおける課題や問題を発見し、ブランディングを含むデザイン行為による解決提案や問題提起をし、企業や団体等と共に考え実践していく、デザイン・ラウンジとランドーアソシエイツが協業する社会実験プロジェクトでした。

デザイン・ラウンジでは、イベント「これからの日本のデザイン」と題したトップ・デザインセミナーをシリーズ展開してきました。そこでは有識者から転換期を迎えているデザインに対して様々なメッセージが寄せられました。それを受けてデザイン・ラウンジが社会実験につながるプロジェクトを企画運営し具体的な社会運動につなげていくトリガーを設置していこうというのが本プロジェクトでした。そのパートナーとして、40周年を迎えたランドーアソシエイツ（東京）が特別参加しコラボレーションを展開しました。

ブレインストーミングから始まり、様々な「デザインでも解決ができる課題」を検討していく中で、商品、サービス、地域や政策など、100を超える様々なモノに対してのデザイン提言を作成し、ウェブ上で発表しました。

期間：2013年6-9月 プロジェクト研究会 全3回/イベント
(Rebranding Japan ボーディングセレモニー) 全1回
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/ランドー



Rebranding Japan ボーディングセレモニー
(2013年9月13日 [金] 19:00-20:30) プレゼンテーションを中心に、ランドーアソシエイツのオリジンである船になぞらえて「乗船スタイル」で行われました。

ミズノ株式会社

「キッズ・エンジョイ・スポーツ プロジェクト」 with MIZUNO

総合スポーツメーカーのミズノ株式会社と協働し、近年体力低下が懸念される子供たちに向けて、「カラダを動かす楽しさ」が実感できるイベントをデザインするプロジェクトでした。

ミズノ株式会社提供のスポーツの価値は「より速く、より遠くへ」といった、記録や成果だけではありません。産学連携の本プロジェクトでは、得意・不得意に関わらず「カラダを動かす楽しさ」が実感できるイベントのデザインを目指しました。イベントでは実際に体験会として実施し、イベントの効果について検証しました。

また、本学との連携を通じてソーシャルデザインやコトデザインの視点から、これからのミズノ株式会社が子供たちに提供できる新たな価値やその提供方法を探りました。

期間：2013年7-12月 キックオフオリエンテーション/
「ヘキサスロン」イベント視察/イベント本番（「Mau Adventure World」）/最終プレゼンテーション 各全1回
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/ミズノ株式会社



イベント本番「Mau Adventure World」武蔵野美術大学
鷹の台キャンパス（2013年10月18日 [金] 13:00-）

ヤフー株式会社

ムサビ×ヤフー主催 「Hack U at 武蔵野美術大学」

ヤフー株式会社とともに、エンジニア祭典Hack Dayを大学生向けにしたイベント「Hack U at 武蔵野美術大学」を開催しました。

自分のアイデアが画面上で動くコンテンツを、Yahoo! JAPAN エンジニアチームのサポートで制作しました。新しいデバイスでの表現の可能性を参加学生に体験してもらい、今後の制作活動の幅を広げるワークショップでした。

Hack Day：Yahoo! JAPANで年に2回開催されている開発イベント。Hack Dayは24時間で作品を完成させるルールですが、Hack U at 武蔵野美術大学では4日間で制作しました。

期間：2014年1-2月 説明会/発表会 各全1回/制作期間4日間
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/Yahoo! JAPAN



写真上：制作期間（2014年2月17日 [月]-2月20日 [木] 11:00-19:00 *2/19 [水]のみ11:00-16:00）会場にはヤフースタッフが常駐
写真下：最終プレゼンテーション（2014年2月21日 [金] 15:00-17:00）

株式会社コロブラ

アートで届けるプレゼント

ソーシャルゲームメーカー株式会社コロブラの『クイズRPG 魔法使いと黒猫のウィズ』創設デザイナー3名と、ゲームコンテンツの価値はどのようにして決まるのかを模索したワークショップを開催しました。

「キャラクターデザイン」「効果（背景）デザイン」「コンテンツディレクション」という3つの視点から、一つのゲームタイトルに対して、デザイン力をどのように引き出しているのかレクチャーをしていただきました。またワークショップでは、実際に参加者とコンセプトの設計やキャラクターの仕様、演出効果などの実践的なデザインについて学びました。

本イベントはご好評をいただき『白猫プロジェクト』創設デザイナー3名を講師に、バージョンアップしたのも開催しました。

期間：『クイズRPG 魔法使いと黒猫のウィズ』2014年1-2月
『白猫プロジェクト』2015年6-9月
ワークショップ各3・全6回
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/株式会社コロブラ



アートで届けるプレゼント：【大学生限定】『我が子をアイドルデビューさせるまで』（2014年1月22日 [水] 18:00-19:30）
メイン講師は多摩美術大学油画専攻出身2Dデザイナー

SERVICE DESIGN LOUNGE

従来の造形的発想のデザインと新領域の「サービスデザイン」をハイブリットで提供する株式会社コンセントと協働し、デザインの視点から見るサービスデザインの試みを、トークセッションとワークショップを併せて実施しました。

「サービスデザイン」とは、単一のプロダクトや個別の情報伝達だけではなく、それらを含みカスタマー（顧客）に最適な体験を与えるためのアプローチのことです。カスタマーとの接点をどうデザインし運用するのか、それらの達成のために企業の組織構造や経営手段をどう最適化するかなど、デザイナーが解決すべき問題は広大なものとなってきています。

日本においてサービスデザインの取り組みを数多く行っている株式会社コンセントから3人の講師をお招きし、「サービスデザインの教室」と「Design KAIZEN Lounge」の2つのプログラムを開催しました。

サービスデザインの基礎から実情までを紹介するレクチャーと、サービスデザインプロセスを実際に体験する実戦講座の、必要に応じて楽しめる充実した内容でした。

期間：2014年11月-2015年2月

レクチャー（サービスデザインの教室）全3回/

ワークショップ（Design KAIZEN Lounge）全4回

主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/株式会社コンセント



Design KAIZEN Lounge 第2回
(2014年12月3日[水] 19:00-21:00) 講師は株式会社コンセント Service Design Team

懇親力のデザイン (Conviviality Design)

～和文化で集う“多目的ユニット（集成材）”の提案

本学と日本集成材工業協同組合との産学共同プロジェクトの最終成果物発表展示を行いました。

本学学生が国産集成材を利用した新しい「多目的ユニット」を、提供サービス等を含めた総合的なかたちで提案しました。国産材の活用方法の一つとしての集成材の可能性と、日本の住環境や商業利用を考慮したユニット設計の中でのサービス（懇親力）の提案展示を行いました。

また本展覧会では、訪日外国人に日本の和文化を伝えることを目的の一つとして掲げました。「和のおもてなし」を表現するものとして、多目的ユニット（=ハード）とコンテンツ（=ソフト）さらに懇親力（=コンセプト）の3つの要素が取り入れられました。「デザイン」によりこれらを融合することで、展示空間が生み出されました。

なお期間中には、和菓子やお茶、おむすびなどを振る舞う屋台サービスデモンストレーションや、ユニットのギャラリーとしての活用方法を提案するフィギュア作家のタカハシカオリ氏による作品展示など、さまざまなイベントが開催されました。

日時：2015年3月21日(土)-26日(木) 11:00-19:00

* 23日(火)のみ18:00まで

主催：武蔵野美術大学/日本集成材工業協同組合

共催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

協力：株式会社内田洋行/パワープレイス株式会社/

武蔵野美術大学デザイン情報学科研究室

入場料：無料



国産集成材を利用した新しい「多目的ユニット」

いすみ市発房総ライフスタイル・プロジェクト

千葉県いすみ市とデザイン・ラウンジと共同で「いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト」を行いました。

本プロジェクトは、いすみ市の魅力の発掘・発信と課題発見・解決策を抽出していくための産官学民共同プロジェクトであり、いすみ市の活性化に繋がるデザイン分野からのアプローチの可能性を、株式会社コンセント、NPO法人いすみライフスタイル研究所、いすみ市地域おこし協力隊の協力のもとで試験的に実施してきたものです。

いすみ市民へのインタビューやワークショップなど、ソーシャルデザインの取り組みにおける、教材開発、基礎研究開発が半年に渡って行われ、市内外の様々な人々に関わることにより、いすみ市とデザイン・ラウンジ双方にとって、一定の成果を得ることができました。



「農業、自給自足」「子育て」いすみ市インタビュー
(2015年12月15日[火]/16日[水])

本プロジェクトをきっかけとして、いすみ市と本学は2016年6月に、地方創生に関する分野での連携交流の推進を目的とした域学連携に関する協定を締結し、武蔵野美術大学・2016年度共同研究助成プロジェクト「地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究～房総ライフデザインプロジェクト」へと展開しました。

その他にも、本学といすみ市との地域活性化事業として広がり、いすみ市にてイベントを多数開催しています。

期間：2015年10月-2017年12月

主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市

協力：株式会社コンセント/NPO法人いすみライフスタイル研究所/いすみ市地域おこし協力隊



いすみ未来会議-これからの地域の暮らしをいすみから考える-
(2017年3月24日[金] 14:00-18:00)



武蔵野美術大学・2016年度共同研究助成プロジェクト

「地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究～房総ライフデザインプロジェクト」

いすみ×むさ MAU COLLECTION 2016 「DEN」

日時：2016年11月3日(木・祝)

開場10:50 / 12:50 開演11:00 / 13:00 (約20分・全2回公演)

会場：いすみ市 大原漁港荷捌場

主催：武蔵野美術大学

企画・運営：武蔵野美術大学 研究支援チーム / 本学空間演出
デザイン学科/いすみ市役所 水産商工観光課

地元協力団体：NPO法人いすみライフスタイル研究所

株式会社OFFICE HALO
WE デザインスクール

「WE デザインスクール」は、社会人がビジネスに活きるデザインを学ぶ学校です。

美術大学出身メンバーによる、社会人を対象とした芸術文化教育の研究開発を行う株式会社OFFICE HALOが、デザイン・ラウンジと共に社会とデザインの新しい関係をつくりだした、これまでにない学校です。デザインをビジネスに活かす社会人が、基礎から体系的にデザインを学ぶためのオリジナルプログラム・教材を授業開発チームが開発、提供しています。

WE デザインスクールは、デザイナーになるための技術を習得するのではなく、ビジネスパーソンが日々の仕事に活用できる「デザインセンス」を学ぶ、ノンデザイナーのための学校です。ビジネスにおけるデザイン課題を解決するための基礎的なデザイン理論やスキルが学べる、短期集中型のプログラムを提供しました。

WE デザインスクール：2016年にデザイン・ラウンジと共同で開校した学び場です。自らビジョンデザインしチームを率いてデザイン経営できるクリエイティブリーダーを育てます。

期間：2016年5月-2019年1月
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/
株式会社OFFICE HALO / WE デザインスクール



WE デザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」2017年 第二期講座（2017年6月15日[木]-7月20日[木] 19:00-21:00）講師の稲葉裕美氏（OFFICE HALO 代表取締役/WE デザインスクール 主宰）、渡邊 翔氏（WE デザインスクール 講師）

Xデザイン学校
X デザイン学校公開講座

「Xデザイン学校」は、社会をよくするデザインの学びと研究する楽しさを追求する、社会人のための未来の学校です。2017年5月、浅野 智氏（経験デザイン研究所代表）と山崎和彦氏（Smile Experience Design Studio 代表）により開始しました。

デザイン・ラウンジでは共同で、「Xデザイン学校公開講座」を開催しました。クリエイティブファシリテーションやサービスデザインの未来など、あるテーマを集中的に考えることを目的とする講座でした。実践者や研究者である講師数名によるライトニングトークを話題提供として、参加者とともに考えるディスカッションを行いました。

ユーザー体験、人間中心設計、デザイン思考、サービスデザインなどを基礎にしながらも、これにこだわらず、誰もがデザインを活用する社会に向けてのデザインの学びと、研究を推進しました。

期間：2017年9月-2019年11月
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校



Xデザイン学校公開講座「デザイン思考の次にくるもの」（2018年5月17日[木]18:30-20:30）講師のケビン・クラーク氏（Content Evolution 代表）、柴田英喜氏（日本IBM）、澤谷由里子氏（名古屋商科大学）、山崎和彦氏（Xデザイン学校）

チームラボ株式会社
チームラボ&武蔵野美術大学
チームで考えてチームでつくるワークショップ
チームラボのデザイナーとつくる
「人に伝わるポートフォリオサイト」

チームラボ株式会社による、大学生・大学院生を対象とした、ものづくりワークショップを開催しました。

「チームで考えてチームでつくるワークショップ」では、チームを組み用意された部品のみを使って車を制作し、走行タイムとデザイン性を競い合いました。また「チームラボのデザイナーとつくる人に伝わるポートフォリオサイト」では、自己分析から始めて自分の作品に適したWEBサイトのデザインを考え、実際にポートフォリオサイトを作成しました。

チームラボのものづくりを通じて、新しい視点やものづくりの発見を提供しました。

チームラボ株式会社：情報社会において、サイエンス・テクノロジー・デザイン・アートなどの境界を曖昧にしながら、『実験と革新』をテーマにものを創ることによって、もしくは創るプロセスを通して、ものごとのソリューションを提供しています。

開催日：チームで考えてチームでつくるワークショップ
2016年6月24日（金）/
「人に伝わるポートフォリオサイト」
2016年12月20日（火）
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/チームラボ株式会社



チームで考えてチームでつくるワークショップ
講演者の堺 大輔氏（チームラボ株式会社 取締役）

株式会社資生堂
株式会社ラナデザインアソシエイツ
LINK OF LIFE

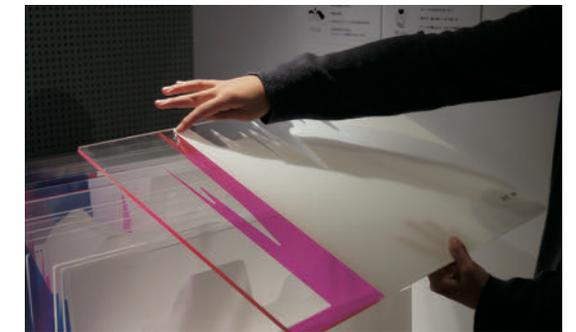
株式会社ラナデザインアソシエイツとデザイン・ラウンジは、株式会社資生堂主催「LINK OF LIFE エイジングは未来だ展」に「THE AGING BOX」を出展しました。

2016年7月から9月にかけて、数回の学生ワークショップを通し、「LINK OF LIFE」プロデューサーの石井美加氏、デジタルコミュニケーションディレクターの木下謙一氏の指導のもと、展覧会テーマ「サクセスフルエイジング=美しく年を重ねる」について議論してきました。

その集大成として、学生がサクセスフルエイジングに取り組む過程を作品化することに挑戦しました。3つのチームが考え抜いた「時間の経過」とのセッションが、3つの未来への答えとして展示されました。

株式会社ラナデザインアソシエイツ：Web黎明期より、ウェブサイトの構築・運営、メディア戦略のコンサルティング、映像制作、インスタレーションおよびサイネージの企画・実装、アプリ開発など、グラフィックやプロダクトを含めたトータルなソリューションを提供しています。

期間：2016年7-9月/「LINK OF LIFE エイジングは未来だ展」
同年10月28日（金）-11月3日（木・祝）
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/株式会社資生堂/
株式会社ラナデザインアソシエイツ



「LINK OF LIFE エイジングは未来だ展」資生堂銀座ビル1-3階・花椿ホールにて開催

東京工業大学との合同ワークショップ「コンセプト・デザイン」

東京工業大学と本学は、2013年6月、教育研究交流に係る連携協定を締結しており、美術（アートとデザイン）と科学技術の連携をコンセプトにプロジェクトを積み重ねています。

「コンセプト・デザイン」は、東京工業大学と本学の大学混合編成で進めるグループ型の造形ワークショップです。2011年8月にスタートし、以降毎年実施しています。2校から集まった学生はグループに分かれ、5日間で、与えられたお題（問い）から、あらゆるコミュニケーション方法を使って独自のコンセプトを構築し、なんらかの造形デザイン（モックアップ）を作り、プレゼンテーションを行います。なお、東京工業大学と本学に共通するねらいは以下の3つです。

- 言葉やビジュアルを駆使した議論やモデル作りを通して、両者の得意とする視点を学び合い、相互の専門性を活かした力の補完を目指す
- これまでに無かった発想の転換を体験する
- 理工系と美術系では何が違うのか、もしくは違わないのかを知る

また2018年度は、美容を通してEmpowermentすること（力づける、活気づける）ことをミッションとするサロン検索&予約サイト『楽天ビューティ』に協賛していただきました。

楽天ビューティ：楽天株式会社の中でも比較的新しい中規模の事業で、大企業の安定感がありつつも、スピード感やボトムアップアプローチを重視するベンチャースピリットを兼ね備える事業部です。

期間：2012-2018年度 [「コンセプト・デザイン」3-9回の期間]

主催：武蔵野美術大学デザイン情報学科/武蔵野美術大学
社会連携チーム/東京工業大学 サイエンス&アートLab
Creative Flow/ものづくり教育研究支援センター

担当：野原佳代子(東京工業大学 教授)/井口博美(本学デザイン情報学科 教授)/
袴田京太郎(本学油絵学科 教授)/古堅真彦(本学視覚伝達デザイン学科 教授)

講師：中野豪雄(本学視覚伝達デザイン学科 教授)/千羽一郎(本学 専任職員)



武蔵野美術大学×東京工業大学 協定締結式
(2013年6月28日[金]16:15-) デザイン・ラウンジにて開催



「コンセプト・デザイン」公開プレゼンテーション
(2012年8月1日[水]15:00-17:00)
この2012年の3回目のワークショップより、デザイン・ラウンジにて、ワークショップや公開プレゼンテーションが開催されるようになりました。



「コンセプト・デザイン2018」 by 楽天ビューティ (2018年)
ワークショップ内で行われた袴田京太郎教授のレクチャー

イベント



「水はデザインできるか?」毛利 衛氏 (宇宙飛行士/日本水大賞委員会委員長/日本科学未来館館長) (2015年)
日本水大賞委員会が主催する「日本水大賞」「ストックホルム青少年水大賞」のポスターデザインコンペティションが東京の美術大学を参加対象として行われ、その募集に先立ち地球の「水」と「環境」の「今」を知ってもらうためのイベントを開催。

デザイン情報を発信していくプラットフォームを目指して、デザイン・ラウンジでは社会実験の場として数々のデザイン関連イベントを実施してきました。講師を招いてのレクチャーをはじめ、ワークショップ、勉強会、研究会などを、子供から高校生、社会人、地域の方たちを対象に幅広く開催してきました。そこではデザインを通して見た視点からの気づきを紹介するため、多岐にわたるテーマが設定されてきました。

公開講座「トップデザインセミナー」「Explore the Design」「Creative Innovation」「クリエイティブを学ぶ!～デザイン、アートの力って?」

デザイン・ラウンジの全活動期間にわたり公開講座を開講し、異なる分野で活躍するフロントランナーの方々と、これからの新しい美大の可能性を発信しました。

2012-2014年度に開講した「トップデザインセミナー」[2012年度 第1-8回/2013年度 第1-5回/2014年度 第1-5回+特別版1回]は、「これからの日本のデザイン」をテーマに、日本を支える企業やデザイン団体のデザイナー、各分野のリーダー、地域デザインのトップ、教育分野に広く関わる方々にメッセージを発信していただく場を設け、領域を超えたデザインの醸成の場としての展開を試みました。

2015-2016年度の「Explore the Design」[2015年度 第1-5回/2016年度 第6-8回]は、広大なデザインの世界を探求しそのコアを見出すことをテーマとしました。デザインに様々なかたちで関わるフロントランナーの方々からメッセージを発信して頂くことにより、デザインが果たす役割を知り、今後の更なる可能性を多くの方々と共に考え共有しました。

2017年度は「Creative Innovation」[2017年度 第1-2回]を開講しました。これまでに6万人以上のクリエイティブな人材を社会に輩出してきた本学では、第四次産業革命のような新しい技術革新とどのように向き合い、イノベーションを生み出していくのかを重要な課題として捉えています。日本の産業界の動向、今日に求められている人材、先端的な技術など様々な角度から今後の新しい美大の姿を模索していく情報発信型の講座でした。

2019年度は「クリエイティブを学ぶ!～デザイン、アートの力って?」[2019年度 第1-5回+プレトーク1回]を開講しました。「新しい価値を生み出すとはどういうことか?ビジネスの領域でも注目が集まるアートやデザインの力とは一体、何か?」という問いから、今後のクリエイティブ教育のあり方を模索しました。なお本講座では、社会人向け教育デザインファームOFFICE HALO代表の稲葉裕美氏をモデレーターとしてお招きし、対話を通してこれからの時代の創造的リーダー像を探求しました。

期間：2012-2019年度
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ [2012-2017年度]
武蔵野美術大学 [2019年度]
運営：武蔵野美術大学企画部研究支援センター [2012-2016年度]
武蔵野美術大学社会連携チーム [2017-2019年度]
株式会社OFFICE HALO [2019年度]
協力：東京ミッドタウン・デザインハブ [2012-2017年度]
公益社団法人日本デザイン振興会 [2019年度]
後援：港区 [2014-2015年度]
*開講講座は「デザイン・ラウンジ 活動一覧」を参照ください。



公開講座「トップデザインセミナー」第3回
勝井三雄 (本学 名誉教授) (2012年7月27日 [金] 18:00-19:30)



武蔵野美術大学公開講座2019
「クリエイティブを学ぶ!～デザイン、アートの力って?」
第5回「『役に立つ』から『意味がある』へのシフト」を学ぶ!
講師の山口 周氏 (独立研究者/著作家/パブリックスピーカー)
モデレーターの稲葉裕美氏 (OFFICE HALO 代表取締役/
WEデザインスクール 主宰) (2019年11月6日 [水] 19:00-21:00)

六本木アートナイト

デザイン・ラウンジのある六本木では「六本木アートナイト」が開催されており、毎年東京ミッドタウンのプログラムとして参加しました。六本木アートナイトは、六本木の街に多様な作品を点在させて非日常的な体験をつくり出し、生活の中でアートを楽しむというライフスタイルを提案することが基本理念です。コアタイムと呼ばれるイベントが集積する時間帯、日没から日の出の間の時間帯にかけて商業施設の敷地内でイベントを実施する機会はいへん貴重で、毎回異なるテーマに沿った作品を展覧しました。

2012年は学生有志が観客参加型インタラクティブアート作品「Mr.アートナイトTV」を、2013年は本学映像学科によるインスタレーション・パフォーマンス「環境も、自分も、アートになる」、2014年はライブパフォーマンス「とりじんあんさんぶる ArtnighTorijin!!」を出品しました。

2015年はノガミカツキ氏のパフォーマンスアート「山田太郎プロジェクト～六本木アートナイトスペシャル～」、2016年は本学空間演出デザイン学科学生チームDENのファッションショー「MAU COLLECTION 「IMIN」～六本木アートナイト2016～」、2017年は本学空間演出デザイン学科の津村耕佑教授の山車のかたちをした作品「^{だし}夢神社～六本木アートナイト2017～」を展覧しました。

2018年は、本学学生による舞台制作グループepa!によるパフォーマンスショー「Colorized Night～六本木アートナイト2018～」、2019年は中村悠一郎氏の参加型のアート作品「ガチャむらやII-六本木アートナイト2019-」を出品しました。

六本木アートナイト：商業・文化施設が集積する六本木を舞台に、大都市東京における街づくりの先駆的なモデル創出を目的に開催する一夜限りのアートの饗宴です。東京を代表するアートの祭典として2009年3月にスタートし、年々発展を続けています。

期間：2012-2019年
(2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催取止め)
企画：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 等
会場：東京ミッドタウン [2015年は東京ミッドタウン全域/国立新美術館]
料金：無料



とりじんあんさんぶる ArtnighTorijin!! (2014年4月19日 [土])



MAU COLLECTION 「IMIN」～六本木アートナイト2016～
(2016年10月21日 [金]/10月22日 [土])



Colorized Night～六本木アートナイト2018～(2018年5月26日 [土])

MIDTOWN LOVES SUMMER TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS デザイン&アートで遊ぼう！ / みんなでつくろう日本の夏

東京ミッドタウンの夏イベント「MIDTOWN LOVES SUMMER」において、夏を楽しみながらデザイン・アートを体感できる子供向けのモノづくりワークショップを出版しました。プログラム内容は、2013年は本学空間演出デザイン学科の津村耕佑教授(ファッションデザイナー)に企画していただき、2014年以降は本学学生を対象に企画を募集し、審査を通過した学生チームが主体となって企画をブラッシュアップしました。作品制作フローや運営体制を考えるだけでなく、会場レイアウトのデザインから作品を持ち帰るためのパッケージデザインまで、美大生ならではの細やかな工夫をするように心がけました。会場は、東京ミッドタウン館内のアトリウムやプラザB1Fなど、多くのお客様が通る賑わいのある場所でした。夏休み期間でもあり、列が途切れることはほとんどなく、たくさんのご家族にご参加頂きました。

期間：2013-2019年

テーマ：デザイン&アートで遊ぼう！(2013)

みんなで作ろう日本の夏(2014-)

主催：東京ミッドタウンマネジメント株式会社

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

会場：東京ミッドタウン

アトリウム(2013-16)/プラザB1F「無印良品」前(2017-)

2013：

「プチプチ・タングル™であそぼう！」

実施主体：東京ミッドタウン・デザインハブ/

協力：A-net Inc. FINAL HOME・川上産業株式会社 プチプチ文化研究所

2014：

「ムシコレ ～つくろう！ My虫My図鑑～」実施主体：むさび虫とり隊

「日本ごしごし水族館 こすりだしてカラフルなおさかなをつくろう！」

実施主体：おさかなJAPAN / 素材協力：株式会社プリチストン

2015：

「船を作って、ミッドタウンへとびだそう！」実施主体：MAU セイラース

「親子でなぞっ手サマー」実施主体：むさびてなぞり隊

2016：

「忍法うつしとりの術！～集めた景色でハンカチを染めよう～」

実施主体：ムサビ忍術開発班

「ブクブクもようをつくろう！」実施主体：君とシャボンでハブリ隊

2017：

「あおいで泳いでおさかなくん！」実施主体：泳げおさかなくん

「親子でつくろう！あつめてべったんサマーリース」

実施主体：年中無休のサンタクロース

2018：

「見つけよう！世界にひとつだけの星空を」実施主体：桃色めがね

2019：

「キラキラ！まわるクラゲくんを作ろう」

実施主体：まわれ！クラゲくん(武蔵野美術大学学生有志)



プチプチ・タングル™であそぼう！(2013年8月15日

[木]11:00-19:00) 緩衝剤エアパッキンが素材の絡み合うことで

組み合わせることが出来るパズル「プチプチ・タングル」で

部屋や墓地、服やロボットをつくるワークショップ



ムシコレ ～つくろう！ My虫My図鑑～(2014年8月11日[月]

11:00-18:00) 本学学生のむさび虫とり隊による、オリジナルの昆虫

を作るペーパークラフトのワークショップ

デザイナー、アーティストらによる子ども向けワークショップ 「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク」

「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク」は、デザイナーやアーティストが先生となって実施する子ども向けワークショップで、2017年で10回目を迎えています。毎年、たくさんの方々にご参加頂いており、リピーターの方も多くおられます。デザイン・ラウンジもデザインハブの構成機関として毎年ワークショップを開催しています。

デザイン・ラウンジでは、学校教育において図画・工作の授業時間数が削られている昨今、子どもたちへのデザイン、アート教育の一助となるようなプログラム作りを意識しています。またそれが、美術教育の普及に繋がれることを強く信じています。

様々な分野で活躍する、企業のデザイナーやアーティストといったプロからのレクチャーを近い距離で受けることで、子どもたちにとって豊かな造形体験となりました。また、成果物もクオリティの高いものが仕上がるため、子どもたちだけではなく保護者の方も一緒に学びながら楽しむことができました。夏休みの短い期間ではありますが、造形活動の面白さ・自由さを提供する貴重な機会となりました。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、一部のワークショップをZOOMを活用したオンライン授業にて開催しました。事前に、参加のためのURLをメールなどでお送りし材料も郵送し、参加者をご自宅にしながらワークショップに参加できるプログラムを提供しました。

期間：2012-2020年

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ

(一部、アトリウム [ミッドタウン・ガレリアB1F])

主催・企画・運営：東京ミッドタウン・デザインハブ

*開催日時・定員・対象年齢・参加料などはプログラムによって異なります

*2020年は「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ 2020」として週末のみ開催



粘土でフィギュアをつくろう！盆踊り編 2015夏(2015年8月9日[日]

13:00-16:00) 講師はタカハシカオリ氏(フィギュア作家)

タカハシ氏のワークショップは、デザイン・ラウンジがデザインハブ

にて活動した2012-2020年の9年間、毎年行われました。

粘土でオリジナルの「宇宙人」「正義のヒーロー」「未確認飛行物体」

などを制作し、人気ワークショップとなりました。



発泡スチロールで作ろう！ピカピカマジカルタウン(2015年8月5日[水]

13:00-16:00) 実施主体は株式会社コロプラの方々



活版印刷でオリジナルのノートをデザインする(2018年8月10日[金]

14:00- / 15:00- / 16:00-) 講師のまんまる〇の方々

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ企画 「GOOD な DESIGN LOUNGE」

「GOODなDESIGN LOUNGE」は「これからのデザイン、これからのデザイン教育」をテーマに、美術大学の社会貢献力の強化、企業・社会と大学のつながりをもつことをコンセプトとして開催したデザインのイベントでした。展示、ワークショップ、トークイベント、ディスカッション、パフォーマンスなど様々な活動形態で展開しました。

展示では、前年度に行われた本学産学連携活動を振り返り紹介しました。また「一般入試 実技合格作品」の展示も行い、受験生が実際に描いた課題（合格作品）の美術物をデザイン系学科中心に公開しました。

ワークショップでは、クリエイターの特性を生かした造形教育の基本となるようなワークショップを多数行いました。大人でも楽しめる内容で、同時期に東京ミッドタウン各所で開催されていた「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」や「GOOD DESIGN EXHIBITION グッドデザイン賞受賞展」等の展示を見に来られた方にもご参加頂きました。

トークイベントでは、「サービスをデザインする」「デザイナー平野甲賀とフォトグラファー平野太呂 ーふたりのはなしを聞こうー」「“ライフデザイン研究” からみるデザインのヒント ～生活環境の多様化とデザイン～」等を、ディスカッションでは「折詰め会 拡大版」「たまびよりの「美大ってなんだろう。」」等、多数開催しました。

パフォーマンスでは、本学に通う学生が日常生活で忘れてしまいがちな「あいさつ」にスポットを当てた企画「みんなで踊ろう！あいさつランデブー」を立ち上げ、子供から大人まで誰でも参加可能な参加型イベントを開催しました。そこでは、新しい関係性を築いたり、コミュニケーションを潤滑にしたりと、現実の日常をロールプレイすることで、社会性の第一歩としての「あいさつ」がいかに重要であるかということストーリー仕立てに表現しました。

期間：2013-2016年度

* 2017年度は「旅するムサビプロジェクト」2017年度グッドデザイン賞受賞に合わせ同期間「旅するムサビプロジェクト展」を開催
実施：武蔵野美術大学 研究支援センター
主催：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 入場料：無料



武蔵野美術大学産学共同プロジェクト成果パネル展示（2015年）



デザイナー平野甲賀とフォトグラファー平野太呂
ーふたりのはなしを聞こうー（2013年11月4日[月・振休] 14:00-16:00）



みんなで踊ろう！あいさつランデブー
(2014年11月2日[日] 14:00-14:15 / 16:45-17:00)

PROVOKE デザイン・インフォマティクス・フォーラム 2012

「デザイン・インフォマティクス・フォーラム2012」は、問題意識の覚醒を意図して[連続討議：PROVOKE]と題し、本学大学院デザイン専攻デザイン情報学コースでこれから始まる新しい教育プログラムに、その考え方を反映することを目指し、最新のデザイン教育に対する問題意識とそのビジョンをオープンに議論する試みでした。2012年4月から7月まで毎月一回の計4回の連続討議で、問題意識の深化をはかりました。

PROVOKE_00: Design x Informatics

「デザイン情報学」「情報デザイン学」という、20世紀末に出現した新しいデザイン教育のこれまでとこれからを徹底討論し、21世紀の発展的展開の志向性を探りました。

スピーチ：「DIフォーラムー連続討議PROVOKE、その趣旨と期待ー」
長澤忠徳（本学デザイン情報学科 主任教授）

パネリスト：
須永剛司（多摩美術大学情報デザイン学科 教授）
今泉 洋（本学デザイン情報学科 教授）

モデレーター：森山明子（本学デザイン情報学科 教授）
日時：2012年4月18日（水）18:30-20:30

PROVOKE_01: Creative Leadership

デザインインタラクションやデザインエンジニアリングといった、従来のデザイン手法と近接する領域を組み合わせた新しい手法で活動を展開するパネリストを招き、次世代のデザイン効用論への展望、クリエイティブリーダーシップの在り方、今後のデザイン教育、研究の方向性を議論しました。

パネリスト：
James Auger（RCAデザインインタラクションコース チューター）
田川欣哉（takram design engineering 代表）

モデレーター：江下就介（本学デザイン情報学科 准教授）
日時：2012年5月17日（木）18:30-20:30

PROVOKE_02: Augmented Experience

ネットワークとデザイン表現の今・未来をテーマに、美術大学として今後のデザイン教育、研究分野がどのような方向に向かうべきなのかを議論しました。

パネリスト：
竹中直純（株式会社ディジティ・ミニミ 代表取締役）
菊地玄摩（ユニバ株式会社 共同創設者）
モデレーター：白石 学（本学デザイン情報学科 准教授）
日時：2012年6月20日（水）18:30-20:30

PROVOKE_03: Innovative Administration

新たなる世界規模での市場の変化に立ち向かうには、デザインを生かしたクリエイティブな企業活動のイノベーションが喫緊の課題となっています。デザインはこの状況にどう役立てるか、可能性とその課題を討議しました。

パネリスト：
加藤公敏（富士通デザイン 代表取締役社長）
牧野克己（日産自動車グローバルデザイン本部 部長）
川田 学（ヤマハデザイン研究所 所長）

モデレーター：井口博美（本学デザイン情報学科 教授）
日時：2012年7月18日（水）18:30-20:30

*上記すべて
参加料：無料
主催：武蔵野美術大学デザイン情報学科研究室
協力：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ



PROVOKE_00: Design x Informatics

Global Design Initiative (GDI)

文部科学省採択事業 グローバル・デザイン教育フォーラム2014 / 2017 東京

-グローバル・デザイン教育ファカルティの創成にむけて-

グローバル・デザイン・イニシアチブ・ワークショップ2017

「グローバル・デザイン教育フォーラム 東京」は、本学がホストとなり、国際交流プロジェクトを連携し実施してきた協定校を中心に、ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン（ドイツ）、ロンドン芸術大学セントラル・セントマーチンズ・カレッジ（英国）、実践大学（台湾）、ラサール・カレッジ・オブ・アート（シンガポール）の参加を得て、グローバル化に対応した新しいデザイン教育の諸課題とあり方を討議し、さらなる国際コラボレーションと具体的な教育プログラム展開およびその実施の可能性について意見交換を目的とし、2014と2017年の2回、東京ミッドタウン・デザインハブ インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターにて開催しました。

2014年のフォーラムで「グローバル・デザイン・イニシアチブ (GDI)」の発案・合意がされ、5大学が協働、持ち回りで主催する国際的な大学横断型連携デザインワークショップ「グローバル・デザイン・イニシアチブ・ワークショップ」が翌年（シンガポール）からスタートしました。2017年は本学がホスト校となり、小平市をフィールドとしたワークショップを行い、最終プレゼンテーションをデザイン・ラウンジにて開催しました。

グローバル・デザイン教育フォーラム2014 / 2017 東京

日時：2014年2月24日（月）13:30-18:00 / 25日（火）10:30-18:00
2017年3月11日（土）10:30-18:30

会場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

パネリスト：

フィリップ・ハイデカンブ (Köln International School of Design)
ニコラス・ローズ (Central Saint Martins, University of the Arts London)
ベンカ・ブルジョサーマン (Lasalle College of the Arts)
ワンルー・チョウ (実践大学)

長澤 忠徳 (武蔵野美術大学)

鈴木 明 (武蔵野美術大学) [2017年のみ]

司会：今泉 洋 (武蔵野美術大学)

主催：武蔵野美術大学

協力：公益財団法人日本デザイン振興会

Global Design Initiative Workshop 2017

最終プレゼンテーション

参加校：Köln International School of Design / Central Saint Martins, University of the Arts London / Lasalle College of the Arts / 実践大学 / 武蔵野美術大学

日時：2017年3月10日（金）17:30-19:00

会場：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

主催：武蔵野美術大学



グローバル・デザイン教育フォーラム2014 東京 (2014年)
「グローバル・デザイン・イニシアチブ (GDI)」の発案・合意がされました。



Global Design Initiative Workshop 2017
最終プレゼンテーション (2017年)

武蔵野美術大学

WEEKEND 学長トーク

vol.1 - 美術大学は誤解されている? -

vol.2 - もともと美大はグローバル! -

vol.3 - 今、だからムサビ。 -

2015年度より本学学長に就任した長澤忠徳教授が、デザイン・ラウンジを拠点に「WEEKEND 学長トーク」を開催しました。美術大学の誤解されがちどころや、推進しているグローバル教育についてなど、受験生や保護者はもちろん、一般の方にもぜひ聞いてもらいたい「美大の本当の姿」を学長自らが、金曜日の夜に3回にわたり語りました。

vol.1では、「美大は絵ばかりを描いているのか」「美大にうちの子を送り込んで大丈夫なのか」などの声に対し、美大が持たれている誤解を解くため「生きるをつくる、つくるを生きる」、「堅い意志と柔らかい頭脳を鍛える場としての美大」などをテーマにお話をしました。vol.2では、大学のグローバル教育について、本学が取り組んでいるプログラムから見えてくる成果をお話しました。vol.3では、1929年の創立以来、教養を備え、人格的にも優れた造形各分野の専門家養成を掲げるムサビについて、とことん語りました。

日時：2015年7月10日 [vol.1] / 7月24日 [vol.2] / 8月7日 [vol.3]

(すべて金曜日) 18:30-20:30 全3回

登壇者：長澤忠徳 (本学 学長)

受講料：無料

主催：武蔵野美術大学法人企画グループ



vol.2 - もともと美大はグローバル! -

株式会社 虎屋×武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科

クラフトデザインコース陶磁専攻

うつわと和菓子

うつわと夜の梅 -とらやの羊羹から生まれた11人のうつわ-

株式会社 虎屋と本学による展示会「うつわと和菓子」を開催しました。本学工芸工業デザイン学科陶磁専攻の学生が、和菓子を盛ることをテーマに制作したうつわを制作過程の記録などとともに展示しました。

株式会社 虎屋の協力のもと、前提講義や職人の方による和菓子作りのデモンストレーションを学生自らが体験し、和菓子の菓銘や意匠にこめられた日本の多彩な季節感や心情を学ぶことで、うつわに対する発想を広げられました。この取り組みは2015年から行われ、2016年よりデザイン・ラウンジでの展示・イベントが始まりました。展示期間中には、実際に和菓子を好きなうつわに盛り付けて味わって頂く参加型イベント（お茶会）も開催しました。なお2019年は、とらやを代表する和菓子のひとつ小倉羊羹『夜の梅』に題材を絞って制作した作品を展示しました。そして展示期間中には、作品の一部を虎屋菓寮 東京ミッドタウン店にてお使いいただきました。

期間：2016-2019年度 展示/イベント 各全4回

主催：武蔵野美術大学

企画・運営：武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科
クラフトデザインコース陶磁専攻/
武蔵野美術大学 社会連携チーム

協力：株式会社 虎屋/株式会社 木村硝子店 (2018-2019年度)



トークイベント『羊羹のおはなし』+和菓子の器と「夜の梅」でお茶会 (2019年6月1日 [土] 15:00-16:30)

東京ミッドタウン&デザインハブ 関連 コンペ等説明会

デザイン・ラウンジのある東京ミッドタウンは「Tokyo Midtown Award」「東京ミッドタウン主催夏キッズプログラム（ワークショップ）」を開催しており、「Tokyo Midtown Award」は2017年度に記念すべき10回目を迎えました。本学では、Tokyo Midtown Awardのアートコンペとデザインコンペの説明会を学生向けに、鷹の台キャンパスにて開催しています。応募から結果発表・展示までのプロセス、応募用紙の記載のコツ、受賞後のサポートといった内容について、Tokyo Midtown Award事務局より説明を頂きました。

また同時に、「東京ミッドタウン主催夏キッズプログラム（ワークショップ）」や、東京ミッドタウン・デザインハブの構成機関JAGDAが主催する「JAGDA学生グランプリ」の説明も行いました。

2014年度： 日時：2014年5月8日(木) 18:00-
問合せ：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ (山下)

2015年度： 日時：2015年4月28日(火) 18:00-19:30
学内窓口：武蔵野美術大学 企画部 研究支援センター

2016年度： 日時：2016年4月25日(月)16:30-18:20
ゲスト：Tokyo Midtown Award 2015アートコンペ準グランプリ
受賞 上坂 直 (大学院修士課程建築コース2年) 他
学内窓口：武蔵野美術大学 法人企画グループ社会連携チーム

2017年度： 日時：2017年4月26日(水)18:00-19:30
学内窓口：武蔵野美術大学 法人企画グループ社会連携チーム



東京ミッドタウン&デザインハブ関連 コンペ等説明会
武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス (2016年)

旅するムサビプロジェクト展

「旅するムサビプロジェクト」が、2017年度グッドデザイン賞を受賞しました。その受賞に合わせて、デザイン・ラウンジにて「旅するムサビプロジェクト展」を開催しました。

黒板ジャックの記録をまとめた映像や報告書、壁一面に記録写真を展示し、期間中にはプロジェクトに参加した本学学生による解説イベントも開催しました。学生自身が感じたこと・学んだことを実体験をもとに紹介しました。5日間で3,345名のお客様にご来場頂きました。旅するムサビプロジェクトの10年を振り返るとともに、様々な人々と協働し、関係者全員が共に学び合うという、これからの美術教育の可能性を提示しました。

旅するムサビプロジェクト：全国各地の小中学校で、美術に関する授業を実施する学生の自主的な活動です。またプロジェクト実施の際は、地域の大学生や作家ともコラボレーションしながら、様々な活動に取り組んでいます。

日時：2017年11月1日(水)-5日(日)11:00-19:00
入場料：無料

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/
武蔵野美術大学社会連携チーム

〈特別イベント〉『武蔵野美術大学学生による展示解説』
日時：2017年11月4日(土) 13:00-/15:00-(各回30分程度)
参加料：無料(予約不要)/実施主体：武蔵野美術大学学生有志



〈特別イベント〉『武蔵野美術大学学生による展示解説』
プロデューサーの三澤一実 (本学共通デザイン・教職課程 教授)

東京ミッドタウン・デザインハブ企画展



東京ミッドタウン・
デザインハブ第36回企画展
「ムサビのデザイン 武蔵野美術大学の
デザインコレクションと教育」
(2012年)

デザイン・ラウンジでは、東京ミッドタウン・デザインハブの展示空間にて、年1回のペースで全9回の単独開催の展覧会を企画・運営してきました。デザインネットワークの拠点であるデザインハブにて、デザインを通じたメッセージを発信し、同時に関連イベントを複数実施していくことで、本学のデザイン情報を発信する機会となりました。

*本企画展はすべて、主催および会場：東京ミッドタウン・デザインハブ、入場料：無料にて開催されました。

「ムサビのデザイン 武蔵野美術大学のデザインコレクションと教育」

武蔵野美術大学 美術館・図書館では1967年の開館以来、美術大学の教育、研究に資する目的で近代デザイン史において重要な意味を持つ作品の収集につとめ、現在では約40,000点を超え、国内でも屈指の規模を誇るデザインコレクションとして社会的に認知されています。また2011年からは、これらのデザインコレクションを駆使し様々な視点から近代デザイン史を見つめ直すシリーズ企画「ムサビのデザイン」を開始いたしました。「ムサビのデザイン」は、近代デザインの研究を支援し、啓蒙することを標榜する機関に相応しい企画として美術・デザイン関係分野から好評を得ています。

本学が2012年4月に東京ミッドタウン・デザインハブの構成機関に加わったことを記念して開催された本展もまた、「ムサビのデザイン」として企画されました。そして会場を本学鷹の台キャンパスから移して開催された本展は、1950年代から70年代までの30年間を、ポスター、椅子、雑誌、工業製品、椅子という時代を色濃く反映する媒体を通して見つめ直しました。この時代は、わが国においてデザインが人々に認知され、急速に隆盛していくなかでダイナミックに変化を遂げたことに並行し、日本でデザイン教育が誕生し、揺籃期を経てそれぞれの成長を辿った時期でもありました。

本学のデザインコレクションを通じて、様々な角度からこの時代を見つめ直し、同時にこれからのデザインのあり方について考える希少な機会となりました。

会期：2012年10月5日(金)-11月4日(日)

開館時間：11:00-19:00

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館/武蔵野美術大学 造形研究センター

〈同時開催〉ダイアグラム教育 太田徹也の教育の軌跡／明日を予測する情報のカタチとデザイン



オープニングトークセッション「ムサビのデザイン」展によせて (2012年10月5日 [金] 18:00-19:15)



『これからの「暮らし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形』

本企画展は、「ものづくり」の重要性や未来の可能性を考察することをテーマに開催されました。今、私たちを取り巻くさまざまな社会状況の変化が「ものづくり」に影響を与えている中、「ものづくり」の本質について考える機会を提供することが狙いでした。

約150の展示だけでなく、デザイナーや編集者、武蔵野美術大学の教員などによるトークイベントも行い、「ものづくり」に対する考察をより深いものへと導くことを目指しました。

〈本学工芸工業デザイン学科〉

本企画展の核となる工芸工業デザイン学科は、インダストリアルデザイン、インテリアデザイン、クラフトデザインの3つの領域からなる学科で、産業デザイン科として設立された1959年当時としては、新しいタイプのデザイナー養成教育機関として発足しました。工芸の世界を広く解釈して産業的な側面を考慮し、現代生活の中に活用できるものづくりを基軸にしたデザイン活動を展開しており、本企画展の取り組みにおいても、柔軟で斬新なデザインを世の中に送り出していくことを目標としました。

〈本学芸術文化学科〉

本企画展の企画・運営である芸術文化学科は、芸術文化学の視座に立ち、現代社会をアートとデザインの視点から広く見つめ直し、人が豊かに生きるための新たなビジョンを提案できるプロフェッショナルを育てています。

会期：2013年11月20日(水)-12月25日(水) [11月24日(日) 休館]

開館時間：11:00-19:00

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科/武蔵野美術大学芸術文化学科



トークイベント「ライフスタイルとものづくり」 (2013年11月29日 [金] 18:30-20:00)



「いろは展」

「いろは」は、習い事の「基本」や「手順」を表す言葉として親しまれてきました。その由来となった「いろは歌」は、中世以降さまざまな文献で多様な解釈がなされ、その真意はひとつに定まるものではありません。

一見、マニュアルのように受け取れる「いろは」ですが、その根底に流れる無常観にこそ、一人ひとりが予測できない現実と向き合い、生き抜いていくヒントが隠されているのではないのでしょうか。本展では、各分野で独自のものづくりの道を歩んできた10人がディレクターとなり、かたちのない「いろは」について来場者とともに考える場を生み出しました。



いろは展トークイベント「第一回 記憶のめぐり方」
(2014年11月30日[日] 18:00-19:30)

東京ミッドタウン・デザインハブ第49回企画展「いろは展」
Tokyo Midtown Design Hub 49th Exhibition: IROHA Exhibition
2014年11月21日(金)——12月25日(木)

会期：2014年11月21日(金)-12月25日(木)

開館時間：11:00-19:00

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/
武蔵野美術大学空間演出デザイン学科

総合ディレクション：津村耕佑 / 会場構成：五十嵐久枝 / アートディレクション：
鈴木康広 / ビジュアルデザイン：岡崎智弘 / 編集：上條柱子

「ラーニング・アーキテチャー 2015 | 建築、学びの冒険
—大学の建築設計課題の動向展—

大学建築系学科における「建築設計の課題」は、社会で展開する同時代の建築デザインや建設技術などの動向を反映し、つねに変化しています。近年、建築の領域にもコンピュータが普及することで造形の可能性が広がるだけでなく、生産・建設・完成後の運用までが設計段階で確認できるなど、さまざまな技術革新が進んでいます。また、設計と計画のプロセスに利用者や住民が参加することから、建築家の職能と主体にも変化が見られます。建築教育の現場では、建築そのものに対する捉え方や考えを学生に問いかけるという、多様な試みと冒険が始まっています。

本展では、このような建築教育の動向と潮流を、特に建築教育を総合する「建築設計課題」にスポットを当て、紹介しました。関東圏を中心とした建築系大学での建築設計課題の事例から、「課題とその意図」「設計の進め方と指導」、それに応えた「学生のエスキス(スケッチやスタディ模型)」および「最終成果物(模型・図面・グラフィック)」を一堂に集め、設計(教育と学び)のプロセスを制作の流れに沿って紹介し、わかりやすく展示・解説しました。



オープニングレセプション&プレス内覧会
布施 茂(本学建築学科 教授)(2015年11月20日[金] 18:00-)

〈本学建築学科〉

空間を構成する造形能力を身につけ、建築と、生活基盤である場所や地域との有機的関係の構築を学びます。また、社会の仕組みに働きかけ、新たな社会と価値の創造に関わる建築の現状把握や歴史的考察のための分析能力を習得し、文化やアート、デザインの教養も深めていきます。

会期：2015年11月20日(金)-12月26日(土)

開館時間：11:00-19:00 *初日は18:00まで

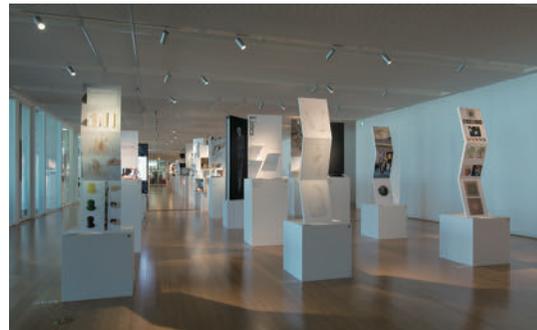
企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/
武蔵野美術大学建築学科

東京ミッドタウン・デザインハブ第54回企画展
ラーニング・アーキテチャー2015
建築、学びの冒険
大学の建築設計課題の動向展
Learning Architecture 2015

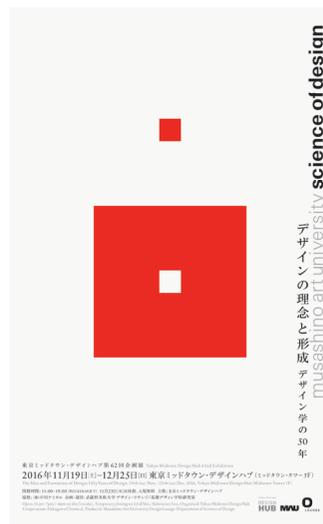
「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」

本展では、デザインの理念を基盤としたデザイン実践・実践を通して具現化するデザイン思想、批評や啓蒙活動へ拡張されたデザインを提示しました。デザイン実践には、社会の大きな変動に対して先見性に富むもの、独自のデザイン領域を拓くもの、新たな造形の役割を提起するもの等があり、それらを本学基礎デザイン学科卒業生を中心とした50名によって、社会の現実と向き合った50年のデザインを展示しました。

また、会期中にはビジュアルコミュニケーションデザイン、プロダクト環境デザイン、情報デザインの今と未来を考えるデザイン教育とデザイン実践のトーク・イベントやパネルディスカッションを開催し、デザインの専門家ばかりでなくデザインに関心をお持ちの方々にご来場頂きました。基礎デザイン学科の成果と足跡とともにデザインの50年の歴史を振り返り、また新たな50年へと理念を展望する契機となりました。



オープニングレセプション&内覧会 向井周太郎（本学 名誉教授）
(2016年11月19日[土]18:00-20:30)



〈本学基礎デザイン学科〉

デザインとは、生活者が本来あってほしいと願う「かたち」をつくり出すこと。そして、生活の中での行為やふるまいなどを考察し、おのずと「かたち」が浮かび上がってくる瞬間に立ち会うことです。すでにあるデザイン領域に対応する技術を教える場としてではなく、分化されたデザイナー養成のあり方を見直し、「かたち」の生成力を身につけるカリキュラムで、生活の中で本来あるべきデザイン、「かたちの本質」を構想し提案できるデザイナーを育成します。

会期：2016年11月19日(土)-12月25日(日) [11月23日(水)休館]

開館時間：11:00-19:00 *初日は18:00まで

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/

武蔵野美術大学基礎デザイン学科

「ハブとマンガース」

多様化が進む現代社会における、理想のクリエイティブスタイルとは何か。本展示では、グラフィックデザイン、映像、音楽、エンジニアリング、アート、ファッションなど、幅広い分野で活躍するクリエイティブチーム「TYMOTE (ティモテ)」のクリエイションを中心に、個を超えたチームが持つ可能性を提示しました。

デザインハブに着想を得たタイトルは、思いつきのアイデアから、デザインやアートを介させながら混沌を生み、創造力へと昇華させる彼らのチームスタイルを象徴するものです。コラボレーションでのクリエイティブプロセスを紐解く本展は、今後を担うクリエイターの新しい働き方や社会との関わり方、プラットフォームを思考する機会となりました。



東京ミッドタウン・デザイン部「ハブとマンガース」
夜のギャラリートツアー (2017年12月6日[水]19:00-20:00)

〈TYMOTE〉

TYMOTEは、グラフィックデザインを軸に、映像・CG・音楽・インターフェースデザイン・Webなどメンバー各々のクリエイティブを追求しながら、隔てなくデザインを提案。一つのプロジェクトをメンバー内で多様な方面から一度分解し再構築する事で、高い水準の作品、アイデア、企画を追求している。



会期：2017年11月27日(月)-12月24日(日)

開館時間：11:00-19:00

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/

株式会社モーフィング



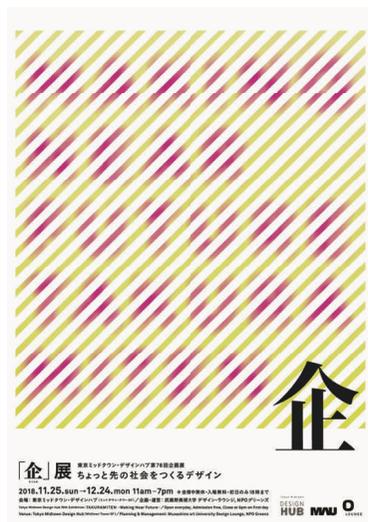
「企(たくらみ)展」-ちょっと先の社会を作るデザイン-

ビジネスや日々の暮らしの様々な場面で「デザイン」と聞くと、「意匠」や「造形」等、「形のあるもの」を思い浮かべることが多くあります。一方で、人と人との間に生まれるコミュニケーション、それらを円滑にするサービスや仕組みといった「形のないデザイン」も、わたしたちの身近な生活、ひいては大きな社会に溶け込んでいます。

本展では、社会課題や個人の課題解決のアプローチ手法「ソーシャルデザイン」の「ちょっと先」に焦点をあて、地域社会・ビジネス・個人の暮らしに寄り添う「デザイン」の新たなアプローチを提示しました。



企(たくらみ)展 関連企画：トークセッション「都市と地方、デザインができること」(2018年11月29日[木] 19:00-21:00)



会期：2018年11月25日(日)-12月24日(月・振休)

開館時間：11:00-19:00 *初日は18:00まで

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/

特定非営利活動法人グリーンズ

「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」

本学視覚伝達デザイン学科では、ヴィジュアル・コミュニケーションの未来を拓き、人と人・社会・情報を繋ぐ専門家の育成を教育目標に、これまで多彩な人材を社会に送り出してきました。その教育の特徴は身体性と感覚の覚醒を促し、クリエイティブ・リサーチを重視した基礎課程であり、加えて多様で高度なデザイン専門課程と、現在進行形の社会とその歴史を見据えた創発的デザインとの統合を目指す教育理念にあります。

本展は2002年以降の教育成果を公開すると共に、未来のヴィジュアル・コミュニケーション・デザインを展望する機会となりました。また会期中には、本学科教員が社会の様々な分野で活躍する卒業生とともにデザインの未来を考察するイベントを開催し、広くデザイン領域に関心をお持ちの方々にご参加いただきました。



トークイベント「既存の枠組みを超えて」Part 3 (2019年12月15日[日] 16:00-17:30)

〈本学視覚伝達デザイン学科〉

どのように「見るべきか」「見たか」「理解したか」といった対象と自身との関係を明確にして、ヴィジュアルコミュニケーションを成立させることのできる人材を育てます。そのために、コミュニケーションの基盤となる身体性と五感、そして、デザインに必要とされるメディアを操る技術力、造形力と知力、これらを駆使して社会の多様な要求に応えることのできるクリエイターを育てるための基礎課程と高度な専門領域の科目が用意されています。



会期：2019年11月25日(月)-12月25日(水)

開館時間：11:00-19:00

企画・運営：武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ/

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科

「見えてないデザイン—社会に問い続けるムサビー—」

美術やデザインを通してまだ「見えてない」もの気づき、「問い続け」、これからの未来、そして新たな学びをみんなで考えていくための展覧会を開催しました。将来の変化を予測することが困難な時代を前に、社会における新しい学びのあり方が求められています。その中では、美術やデザインの発想から問いを生み出し、未来を創造する力が必要とされています。本学では、美術・デザインの教育機関として、社会と大学がつながるための方法を問い続け、様々な活動に取り組んできましたが、この問い続ける活動はまさにデザインのプロセスであると言えます。

本展は、「教育」、「地域」、「産業」、「文化」、「生活」、「多様性」という6つのキーワードをもとに、美術やデザインを通してまだ「見えてない」もの気づき、「問い続け」、みんなで考えたこれからの未来と新たな学びを展示しました。

〈本学クリエイティブイノベーション学科〉

現代社会における諸問題に対して、既存の考え方にとらわれず、自ら課題を発見し、イノベティブな解決策を導き出す人材の養成を目的としています。本学独自の造形教育と教養教育で培われる「創造的思考力」を基盤に、ビジネス、テクノロジー、ヒューマンバリューの3つの領域を融合した学びで、「創造的思考力」を実社会で応用するための具体的な方法を修得します。

会期：2020年11月14日(土)-12月13日(日)

開館時間：11:00-19:00

企画・運営：武蔵野美術大学



トークイベント「社会のモヤモヤを見つめ、問い続ける」
(2020年12月6日[日]13:00-14:30)



デザイン・ラウンジ スペシャルインタビュー 2020

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（以下、デザイン・ラウンジ）は、2020年12月に東京ミッドタウン・デザインハブ内の拠点を閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行しました。この機に、これまでデザイン・ラウンジにご関係頂いた学内外の方からお話を伺いながら、これまでの研究・活動を振り返り検証を行いました。



- 01 **デザイン・ラウンジと津村耕佑**
津村耕佑（ファッションデザイナー / 本学空間演出デザイン学科 教授）
- 02 **デザイン・ラウンジと美術大学の社会連携**
宮島慎吾（本学 名誉教授 / NPO 法人わらアート JAPAN 主宰・理事）
- 03 **デザイン・ラウンジと学生ワークショップ**
一森加奈子（アートディレクター / グラフィックデザイナー）
- 04 **デザイン・ラウンジの成り立ち**
山下 亮（クリエイティブストラテジスト / アートディレクター /
クリエイティブディレクター）
千羽一郎（本学 専任職員）
- 05 **デザイン・ラウンジとこれからの集まる場**
「折詰め会」の発起人及びコアメンバー
佐久間奈々恵（UIデザイナー） / 松林景子（UIデザイナー） /
川合啓介（エクスペリエンスデザイナー） /
日置浩司（フロントエンドエンジニア）
- 06 **東京ミッドタウン・デザインハブとデザイン・ラウンジ**
矢島進二（公益財団法人日本デザイン振興会 理事 事業部長）
近藤直樹（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 事務局長代行）
- 07 **東京ミッドタウンとデザイン・ラウンジ**
井上ルミ子（東京ミッドタウンマネジメント株式会社タウンマネジメン
ト部プロモーショングループ シニアマネージャー）
- 08 **新しいデザイン教育とデザイン・ラウンジ**
稲葉裕美（OFFICE HALO 代表取締役 / WE デザインスクール 主宰）
滝澤幸子（OFFICE HALO チーフクリエイティブオフィサー）
- 09 **大学から社会への繋がり**とデザイン・ラウンジ
加藤晃央（世界株式会社 共同代表 / 株式会社モーフィング 代表取締役）
井口皓太（映像デザイナー / クリエイティブディレクター）
小松健太郎（プロデューサー）

文=武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（ディレクション: 杉田佳香）

*インタビューは2020年に実施しました。



スペシャルインタビュー 2020 01

デザイン・ラウンジと津村耕佑

今回は、デザイン・ラウンジの空間デザインをご担当頂いた津村耕佑先生（本学空間演出デザイン学科 教授）。開室当時の構想や、アーティストとして観測した六本木という街のアート・デザインの変化を伺い、デザイン・ラウンジのこれまでの役割やこれからの活動を考える。

デザイン・ラウンジの成り立ちについて

● デザイン・ラウンジの開室は2012年4月でしたが、開室準備段階での構想はどういうものだったのでしょうか？

六本木という街は、キャンパスがある鷹の台とは違う要素を持っているので、「ムサビの情報を鷹の台以外でも得ることができる」「都心に出た若者・学生が、気軽に立ち寄ることができる」「学生以外、一般の方にも開放された場を作る」そんな場所として運用しようという話がありました。

思い返せば、デザインという言葉がブームになってきた頃で、デザインが造形的なものだけでなく情報が大事になってくる時代だった。それに、かつては混沌としてアンダーグラウンドな印象のあった六本木が脱皮して、六本木ヒルズや森美術館、新国立美術館や東京ミッドタウンができてアート・デザインが合流してきた後に、さらにアカデミックな要素を取り入れていく動きもあったのかもしれないです。

● なるほど。それで、美術大学によるデザインを情報発信する拠点となっていたんですね。

デザイン・ラウンジのネーミングについてはどうでしょうか。

多様なデザインの姿を見せていくことに意味があったので、デザイン・ラウンジを単なる情報発信のみにカテゴライズしたくないという思いがありました。訪れる人、

関係する人達が醸し出す空気感で意味が作られていけばと考えて、「ラウンジ」を使いました。ラウンジという言葉には高級なイメージがあって、たとえば空港のラウンジは「クラス」を表す要素もありますが、そうではなくて「ボイドのもつ自由な空気」に近いものをイメージしていました。

しかし、内装に悩みました。本来、内装とは目的に基づいて設計されるものなので、「そこに集まる人によって変容していく空間」を作るというのは難しかった。考えた末、株式会社E&Y（ファニチャーレーベル）と相談してコンセプトに見合うインテリアを選定して、空間はできるだけ開放的に、フラットにしました。

自由な組み合わせが可能な仕子の簡素さと機能が重要で、敢えてのラウンジのようなゴージャス感を出さないようにしました。これを、〇〇風のようなスタイルにはめると人を選んでしまうので、テーブルや椅子、照明が似たようなコンセプトを持つけれど、あえてデザインを統一していません。

オフィススペースとオープンスペースの間のパーティーションも隙間が空いていて、ゆるやかに繋がった日本的な分割方法かもしれません。人の視線で人は行動を意識するので、ラウンジスタッフも存在として自覚的あるということは重要です。隠しすぎることは逆にタブーを感じさせるので、良くないという思いもありました。

● 工作中的スタッフの様子や、トークイベントやワークショップを開催中の様子が常に外から見えるので、日々のライブ感は発信できていたかなと思います。それに、「作られていく空間」というコンセプト通り、デザイン・ラウンジは企画に合わせて緩やかに形が変えられる自由な空間でした。

● デザイン・ラウンジのVI（ビジュアル・アイデンティティ）について、教えてください。

デザイン・ラウンジのVIは、原研哉先生（本学基礎デザイン学科 教授）が手掛けました。ロゴマークは、丸みを帯びた「D」の形をしています。DなのかOなのか、判別が難しい」という意見もありました。原さんは、「そ



デザイン・ラウンジ オープンスペース



デザイン・ラウンジ VI

こがいい。わからないのが、いいじゃん」と。見る人が、それぞれの解釈をしますよね。「O」は文字の形から「広がっている、丸い、繋がる」のようなイメージを持ちますが、「D」はデザインのDであるとすぐイメージできる。そこを曖昧にしておくことで見る人に考えさせるのは、素晴らしいコンセプトだなと思いました。

国旗やピクトグラムは瞬時に理解できないと機能しませんが、デザイン・ラウンジの場合はロゴマークの目的が

単なる判別ではないので、多様性というがよく表れていたのです。

あとは、デザイン・ラウンジの壁一面をホワイトマグネットボードにしました。工事は大変だったようですが…。プロジェクターによる投影ができるだけでなく、何か書くときに位置の制約がない状態で書けるのが良いですね。人類が壁画を描き始めた時のようなイメージです。

津村先生と六本木のアート・デザインについて

● 六本木の街とアート・デザインの関係についてお伺いします。津村先生は、デザイン・ラウンジ企画で六本木アートナイトに出展頂いただけでなく、初回である2009年開催の六本木アートナイトにも出展されていました。

初回から11年が経ちましたが、六本木の街におけるアート・デザインの変化を感じていることはありますか？

当時の出展アーティストは、とても多様でした。警察による取り締まりが発生することもありましたが、だからこそ解放の役割を担うアートという空気感もありました。面白そうだったので、ゆるい感じで初回の六本木アートナイトに参加しました。六本木の街は、クラブや飲食店はたくさんあるけれど、オープンに集まるような「お祭り」の場がなかったんですよね。非日常的刺激がある街だけど、コアなお店は路地や地下に隠れているのです。それも文化的な特徴と言えますが、人々がビジネス抜きで解放的なアートシーンに出会う機会が少なかった印象です。そこで、六本木アートナイトがその役割になっているようでした。言葉的にはアートを使っていますが、どちらかというとお祭りだろうなと。「ハレとケ」で言えば「ハレ」にあたる、特別な時間。夜を舞台に魑魅魍魎が現れて、明け方になって帰って行くみたいなイメージです。六本木アートナイトに限らず最近では多くのアートイベントが行われ、それに伴い地域とのトラブルも心配され監視の目も厳しくなっていますね。

● 六本木アートナイト2017で出展頂いた「夢夢神社」は夜間の設営で、津村先生だけでなく当時の空間演出デ

ザイン学科の研究室スタッフの皆さんにも大変お世話になりました。

その前の年は、空間演出デザイン学科の学生によるファッションショー MAU COLLECTION「IMIN」で出展頂きましたね。

こういったプロジェクトを学生たちに話す時は、伝え方を工夫します。課題の様に強制感を含めて伝えると学生たちのテンションが落ちるので、自主性に委ねる必要があるんです。「いすみ市の漁港で行われたファッションショー」のときに学生としてプロジェクト参加した卒業生がデザイン・ラウンジでスタッフとして現在働いていますが、彼女の代はそのチャンスを逃す事なく上手くハマったのではないかなと思います。そして、こういうことが毎年行われる訳では無いし、学生のモチベーションや学年の雰囲気もあるので一期一会の体験ですね。

● 「MAU COLLECTION」は、空間演出デザイン学科で初めての社会連携プロジェクトでした。オープンキャンパスでの公演をきっかけに、「六本木アートナイトと千葉県いすみ市の大原漁港、二つの機会があるけどやってみない？」というお話から始まった記憶があります。鷹の台キャンパスから始まって港区六本木、千葉県いすみ市にてファッションショーを開催しましたが、それぞれの機会におけるメリットや、出来上がってきた作品の違いはありましたか？



夢夢神社 ～六本木アートナイト2017～ (2017年)

まず、それぞれの場の雰囲気が違いますよね。本来の「MAU COLLECTION」は大学でのオープンキャンパスで開催するものなので、学生にとって慣れたホームで開催するんです。だから、やりやすいんですよ。しかし、そのままのパッケージで外に出ると全部が変わって見えます。「あれ?こんなはずじゃなかったのに。」と、自分の作品に対する見方が変わります。

六本木であれ千葉であれ、どこでもいいかもしれませんが、違うところに自分の作品を置いてみないと、客観的に作品を見ることができません。学内での調和に安住せず外の風に晒したほうが作品もより良いものになっていきます。

● デザイン・ラウンジでは対外的なプロジェクトも多く実施しましたが、鷹の台だけでは出来ない活動を意識していたので、その意味では間違っていなかったなと思いました。



MAU COLLECTION「IMIN」～六本木アートナイト2016～ (2016年)



いす×むさ MAU COLLECTION 2016「DEN」(2016年)

2020年の六本木アートナイトは、感染症予防のため中止になってしまいました…やむを得ないことですが、残念です。

この状況を逆手に取って社会全体で価値観の変換ができるかどうかという時期ですね。以前と同じ状況に戻そうと努力しても7割くらいしか戻りませんでしたというネガティブな感覚に囚われるより0からマインドセットを変えたほうがいいんじゃないかと思っています。

六本木から市ヶ谷へ、デザイン・ラウンジの機能を移行することについて

● 2020年12月に東京ミッドタウン・デザインハブ内の拠点を閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行します。六本木での情報発信拠点としての期間を経て、市ヶ谷は実際に社会を学びのフィールドとして捉えるイメージですが、今後の活動についてはどうでしょうか。

六本木にも地域・場所ならではの特性があるように、市ヶ谷にも場所の特性があるので、六本木にあるデザイン・ラウンジの空気感をそのまま移すというのは難しそうですね。ですが、市ヶ谷キャンパスには造形学部とは異なる目標をもつ学生もいると思うので教授たちも初めて向き合うシステムの活用に止まらず開発までしていく様な事が行われるといいですね。コンピューターが始めた頃の、何に使うのか分からないけどとにかく自分から始めようといったイメージです。

それに、走っている時には姿かたちが分からないものなので、のちに市ヶ谷と鷹の台と六本木を比較してみると、何かが見えてくるとと思います。

● そうですね。この先の2029年には武蔵野美術大学100周年を迎えますし、変化する社会の中で美術大学が何をすべきなのか考える良い機会なのかもしれません。津村先生、本日はありがとうございました。



宮島 慎吾

本学 名誉教授 /

NPO 法人わらアートJAPAN 主宰・理事

武蔵野美術大学卒業。GKインダストリアルデザイン研究所を経て、1986年に(有)ケイ・プロジェクトを設立。主な仕事として、流通小売業におけるブランド開発及び商品開発(西武百貨店、西友等)。地域産業におけるブランド開発及び商品開発。北海道/オホーツクの木工商品・十勝のバッグ、地域ブランド「キレイマメ」、埼玉県/埼玉の新日本酒ブランド・高齢者の衣料品、宮城県/間拔材の利用展開・日本酒グラス、滋賀県/陶器の新領域商品等多数。さらに大学での活動として、新潟市、笠間市での産学共同プロジェクト、そして現代GP「いわむろのみらい創生プロジェクト」、[EDS竹デザインプロジェクト]及び「わらアート」(新潟市、香川県小豆島、愛媛県今治市、埼玉県行田市、熊本県阿蘇地域、北海道十勝地域、岐阜県美濃加茂市)を推進。

スペシャルインタビュー 2020 02

デザイン・ラウンジと美術大学の社会連携

今回は、初期のデザイン・ラウンジの人気講座「トップデザインセミナー」を企画頂いた宮島慎吾先生(本学 名誉教授)より、学外に開かれた場所を持つことの意味を伺い、美術大学による地域・社会連携活動を振り返る。

美術大学による情報発信拠点としてのデザイン・ラウンジ

● 2012年、デザイン・ラウンジの開室一年目に、公開講座「トップデザインセミナー」を開催しました。デザインおよび各分野のリーダーから、「これからの日本のデザイン」を共通テーマにお話を伺い、デザイン分野の発展および醸成の場としての展開を試みる講座でした。この企画は、どのように生まれたのですか？

まず、「東京ミッドタウンという場所で、何をすれば美術大学の存在感を出せるだろうか?」と考えたのが始まりです。せっかく六本木という場所なのだから、学生のためだけでなく学外の方にもムサビに目を向けてもらうために何かしたいという思いがあり、「トップデザインセミナー」という思い切ったタイトルの講座を企画しました。鷹の台キャンパスには素晴らしい先生がたくさんいるし、図書館をはじめとする良い施設があるけど、大学にいたのでは「社会との関係の中でのデザイン」が見えづらい、という問題意識がありました。学外への情報発信という点においても、少し弱かったかもしれない。芸術祭や卒業制作展などの発表の場や印刷物の発行など、当時もたくさんあったんですけどね。

そんな中、ムサビが六本木という都心に拠点を構えたので、社会と美術大学の関係構築や交流を意識した企画にしたかったのです。さらに、それは単なる学外向けのデザイン系セミナーではなくて、「トップ」の方からお話を聞くという機会にしようと、少しずつ内容が決まっていきました。

● 挑戦的な企画だったのですね。「トップデザインセミナー」は4年にわたり全19回開催され、様々な分野のゲストにご登壇頂きましたが、企画を継続する中で、変わっていったことはありますか？

社会とデザインの関係の変化と共に、少しずつ話題も変わっていきました。初期は、グラフィックデザインやプロダクトデザイン、空間デザインなどの様々なデザイン分野のトップでご活躍されるゲストにお越し頂きました。それから少しずつデザイン分野が領域を広げて、地域活性やデザイン行政、アートディレクションの第一線で活躍するゲストに登壇頂きました。デザインを軸にして、広い領域・世界へ広がっていくような感じです。広い領域といえば、富山市長である森雅志氏にもご登壇頂いたんですよ。市長ご自身が地域デザインの実践者として、



公開講座「トップデザインセミナー」第1回
原 研哉 (本学基礎デザイン学科 教授) (2012年)



公開講座「トップデザインセミナー」第2回
深澤直人 (プロダクトデザイナー/本学基礎デザイン学科 教授[当時]) (2012年)



公開講座「トップデザインセミナー」懇親会
梅原 真 (本学基礎デザイン学科 客員教授) (2014年)

して、富山ライトレール(LRT)導入をはじめとする交通政策を軸としたまちづくりを進めたことや、高齢者の健康のために街をたくさん歩いてもらうための仕掛けなどを紹介して頂きました。とても新しく面白いことにチャレンジされていることをお話頂き、当時の学生にとって素晴らしい機会となりました。

● 「デザインの領域の変化」も背景にあったのですね。リピーターのお客様も多くいらっしゃいましたし、参加チケットは毎回完売になる人気講座でした。懇親会では学生たちがゲストと近い距離で話している姿が印象的でした。

懇親会も、良いものでしたね。ご登壇頂いたゲストの皆さんも懇親会までご参加頂けることが多かったので、とてもありがたかったです。ムサビの学生だけではなく、その分野の関係者やムサビ以外の学生もたくさんいて、鷹の台にいただけでは出会えなかったであろうたくさんの方が入り交じって、デザイン・ラウンジが「新しい関係の生まれていく場」になったのではないかなと思っています。

● 情報発信といえば、年に一度、デザインハブにてデザイン系の学科を中心にムサビの企画展を実施していました。2016年には基礎デザイン学科に、企画展「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」を企画頂きましたが、どうでしたか？



東京ミッドタウン・デザインハブ第62回企画展「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」(2016年) [写真:いしかわみちこ]



「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」
第1回 トークセッション「地域とデザイン」(2016年)

2016年までに、工芸工業デザイン学科と芸術文化学科、空間演出デザイン学科、建築学科などのデザイン系の学科が展示を企画していて、その流れで基礎デザイン学科が担当することになりました。ちょうど基礎デザイン学科が50周年を迎える年に、「基礎デザイン学」を振り返る展示を行うことにしたんです。

展示では、各期からそれぞれ一名の代表者に出席してもらったのですが、基礎デザイン学科の卒業生の活動の領域がとても広くて、様々なジャンルの作品が並びました。デザイナーとして活躍する人だけではなく、ホテルの社長さんになっている人がいたり。大学で基礎デザイン学を学んだ人たちがそれぞれ違う生き方をしていたことが見られて、良い機会となりました。展示だけでなく、オープニングレセプションやトークセッションにもたくさんの方にお越し頂き、嬉しかったです。ただ、当時在学中の学生も含めて、50名の卒業生と在校生が50作品

を出展するという展示方法だったので、一作品ずつ出展を依頼していく行為は大変でしたね。

● 展示では、基礎デザイン学の設立に携わった向井周太郎先生(本学 名誉教授)にも出展頂きましたし、宮島先生ご自身にも作品を出展頂きました。また、先生方だけでなく、当時の基礎デザイン学科の研究室スタッフの皆さんにも様々お世話になりました…

美術大学と社会がつながる 「産官学共同プロジェクト」について

● デザイン・ラウンジは、産官学共同プロジェクトを実施するための拠点の機能も持っていました。宮島先生は、地域・企業と大学が連携するプロジェクトを多く手掛けていましたが、ここをどのように活用をされておりましたか？

まず、ムサビでは「笠間市トータルデザイン研究」と「狭山茶ブランディング」など、色々な地域とのプロジェクトに取り組んでいました。デザイン・ラウンジでは、学生を含む参画メンバーによる意見交換会や、職員の方にもお越し頂き中間報告会などを実施しました。

壁一面のホワイトマグネットボードを使ってピンナップしたり映像を流したりして、やろうと思えば色々なことができました。地理的にデザイン・ラウンジが都心にあるから便利というだけではなく、連携先・大学のどちらのホームグラウンドでもない場所として、自由なことができました。



産学協同プロジェクト：笠間市トータル連携デザイン
プロジェクト意見交換会 (2015年)

● たしかに、そういう意味でも鷹の台から離れた場所に、ニュートラルな拠点を持っている意味があったかもしれません。

それに、一般の人が気軽にデザインの世界に入ってくる事ができる、入口みたいな場でもあったと思います。夏に、子供向けワークショップをたくさん実施していましたね。もしかしたら、参加した子供たちが10年後にムサビに入るきっかけになる思い出を残すというか、「デザインの種」を植え付けていたかもしれません。自分がどう生きるかは人それぞれ、各々のタイミングで意識するものですが、やっぱり小さい頃に触れていたものが、どこかでパッと芽を出すことがありますから。知性が刺激される楽しみ方は美術大学だと得やすいですし、付き添いで来て頂いた親御さんにも知ってもらえるのも大切なことだったでしょうね。

● 宮島先生が手掛けたプロジェクトの中で代表的な、「わらアート」について、質問があります。「わらアート」は、稲わらで巨大なオブジェを制作するとともに、新潟県西蒲区の魅力をPR、交流人口の拡大と区民の一体感の醸成を図るプロジェクトでした。このことは、地域の課題を解決するという意味で、デザイン領域のようにも感じますが、「わらデザイン」でなく「わらアート」という名称だったのは、何故ですか？(新潟市と本学との共同プロジェクトとして、2006年から新潟市にて学生たちが学科の枠を越えて「わらアート」の制作を行っています。)



わらアート 新潟市西蒲区・上堰瀧公園 (2016年)

アートと言うのもおこがましいけど、「わらアート」だと語呂が良いじゃないですか。それに、イメージの発端は「さっぽろ雪まつり」なんです。雪でオブジェを作る代わりに、岩室温泉にたくさんあるコシヒカリの藁を使おう、という発想から生まれたプロジェクトでした。もともと、日本には藁人形や、収穫祭で藁のオブジェを作ったり、大きな草履を作ったり、藁で何かを作るという風習がありますからね。豊作を祈るお祭りや、みんな太鼓を叩いたり、色々なお祭りがあるんです。そういうものの延長上にあることから、「アート」という言葉をつけたんだと思います。

六本木から市ヶ谷へ、デザイン・ラウンジの 機能を移行することについて

● 2020年12月に東京ミッドタウン・デザインハブ内の拠点を閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行します。六本木での情報発信拠点としての期間を経て、市ヶ谷は実際に社会を学びのフィールドとして捉えるイメージですが、今後の活動についてはどうでしょうか。

六本木には、美術館や賑やかなお店がたくさんあるので「人が集まる街」という印象が強いけど、市ヶ谷はちょっとそれとは違いますよね。他の大学のキャンパスもあるし、「アカデミックな街」という印象があります。じっくり組み立てていく組織や研究所など、そういう場には向いていそうですね。市ヶ谷キャンパスの1階にある無印良品の店舗へは一度行きましたよ。六本木のデザイン・ラウンジと同じにはしなないと思いますが、この雰囲気は引き継いで、人が集まるオープンな場所になると良いなと思います。デザイン・ラウンジのプロジェクトに関わらせてもらって、とても楽しかったです。

● 開室して間もないデザイン・ラウンジを、産官学共同プロジェクトや情報発信の場として活用して頂いたことで、社会への認知が広がっていったのではないかと感じます。宮島先生、本日はありがとうございました。



スペシャルインタビュー 2020 03

デザイン・ラウンジと学生ワークショップ

今回は、学生時代に、東京ミッドタウンでの子ども向けワークショップに企画参加された一森加奈子氏（本学視覚伝達デザイン学科 2018年卒業）より、当時のことを振り返りながら、美術大学の学生が造形活動を通して社会と繋がることの意味を考える。

学生時代のワークショップ企画と、一森氏の現在

● デザイン・ラウンジは、2014年夏より、東京ミッドタウンにて子ども向けワークショップを毎年開催していました。学生が主体となり企画・運営するワークショップで、一森さんは、初回企画の学生代表として参加していました。6年前のことですね。

現在の活動について、ご紹介をお願いします。

広告代理店で、アートディレクターをしています。社会人三年目で、広告のポスターやウェブサイトなど、様々な媒体のデザインを担当しています。

● 当時、子ども向けワークショップの企画募集に応募したきっかけは何ですか？

大学で、「TOKYO MIDTOWN AWARD」というコンペの説明会が開催されていて、その説明会に参加した時にもらった資料の中に、子ども向けワークショップ企画募集のチラシが入っていたので、応募することにしました。

● 東京ミッドタウンマネジメントの方に、来校頂いて実施している説明会ですね。

「TOKYO MIDTOWN AWARD」には、ムサビの在校生や卒業生が多く参加しています。

● 一森さんの企画は、みんなで作ろう日本の夏「ムシコレ ～つくろう！ My虫My図鑑～」というタイトルで、好きなパーツを組み合わせてオリジナルの昆虫を作るペーパークラフトのワークショップでした。

当時、ワークショップを実施する場所として東京ミッドタウンの館内や、お客さんの雰囲気をごどのように感じましたか？



「MIDTOWN ♥ SUMMER」説明会（2017年）



ムシコレ ～つくろう！ My虫My図鑑～（2014年）

東京ミッドタウンは、文化的な施設という印象がありました。良い店舗だけでなく美術館も入っていたりするので、こういったデザイン系のワークショップにも興味を持ってくださる感度の高いお客さんが多く、会話が弾んだ記憶があります。

企画に参加するまでは、六本木は自分たちに関わりのない街だと思っていました。美術館とかはあるけど、自分が何かできる場所とは思っていなかったの、ワークショップ開催の機会を頂けたのはありがたかったです。

● たしかに、親御さんご自身がデザインに興味があったり、作ることに意欲の高い方が多くいらっしゃいました。

それに、会場装飾のデザインや、ワークショップ終了後、参加者が作品を持って館内を歩くときに安全で見栄えが良い形状になるように工夫するなど、色々なことを考えながら制作していきました。ターゲットとなる客層など、細かいところまで考えて作ったのは初めてだったので、勉強になりました。

● 代表の一森さんは、スケジュールや予算の計画を立てたり、企画書にまとめて東京ミッドタウンマネジメントの方へ説明したり、制作以外の面でも考えることが多かったですね。

搬入出の面も、東京ミッドタウンの営業時間外に作業を行う必要がありましたし、人がたくさん集まる場所である分、配慮が必要になるシーンもありました。

確かに、ワークショップ前日は夜遅くの館内で設営をして、当日の朝は、東京ミッドタウンがオープン前の時間から準備していた記憶があります。営業時間外なので関係者専用口しか開いておらず、荷物を持ってすごく迂回したり。

でも、私以外のメンバーもモチベーションが高い状態で参加していたので、文化祭の準備みたいですがすごく楽しかったです。ムサビの学生はみんな、時間とか関係なく「作るのが好き」なんだと思います。

●なるほど。大変そうでしたが、楽しく参加されていたなら良かったです。

「ホスピタリティ研修」は覚えていますか?東京ミッドタウンのお客様担当の方から、おもてなしやお客様対応についてレクチャー頂くものでしたが、この研修も東京ミッドタウンで実施したこと特有の出来事だったかもしれません。

ホスピタリティ研修!ありましたね。ちょっとしたインターンに参加した気分で楽しかったです。たしかに、大学だけではこのような研修の機会も少ないですね。

●ワークショップの学生メンバーについて、聞かせてください。ワークショップ当日のスタッフを含む、学生メンバーの確保(20名程度)も参加条件の一つだったので、学部一年生だった一森さんは苦勞されたのではと思います。入学して間もない頃に、どのように集まったメンバーだったのですか?

学生メンバーの主体は、視覚伝達デザイン学科の同級生でした。入学したばかりの時期でしたが、その分みんな「何かやりたい」という気持ちだけは強かったので、声をかけたら反応してくれました。この企画で仲良くなった友達とは、未だによく会います。

●4月に入学、5月に説明会へ参加して、それからメンバーを集めて企画を考え、8月にはワークショップ本番



「ムシコレ〜つろう! My虫My図鑑〜」
ホスピタル研修の様子(2014年)

を東京ミッドタウンで実施…
授業もたくさんある中で、すごいスケジュールでしたね。

ワークショップを通して、美大生が社会とつながること

●高校生の頃から、デザインやワークショップなどのテーマに興味があったのですか?

高校3年生頃までは美術大学ではなくて、外国語系の大学へ行こうと思っていました。でも、デザインって楽しそうだし、絵を描くことは好きだったので、それを学問にできるのは面白いなと思って急に進路を変えてムサビの視覚伝達デザイン学科に入りました。

ただ、ワークショップは、「良いこと活動」とか「作品にならない。作品を作ることが一番偉い。」のように思われる雰囲気も一部であった気がします。しかし、ワークショップは単なるイベントではなくて、「作品を作って、さらにそれを誰かに体験してもらえ」大きな取り組みだと思うので、積極的にやってみてほしいなと思います。

●たしかに、一人では完結できない大きな取り組みだと思えます。それに、ワークショップに参加してくれた子ども達が、これをきっかけに美術やデザインに興味を持ってくれたりするかもと思うと、ちょっと先の誰かの未来に関わりを持つようで楽しいですね。

●東京ミッドタウンでのワークショップ企画以降も、ムサビの学外との企画に参加されていましたか?

食品系の会社とのプロジェクトに参加したり、大学の広報の方とも学外で活動しました。東京ミッドタウンでの企画を開催したことがあると伝えると、連携先の方に安心してもらったので、実績という意味でも良かったです。

●そうだったのですね。一森さんは、考えている企画のゴールがはっきり見えているというか、「想像したことを実際に形にする力」が長けているのに加え、提案のプ

ロセスもしっかりしていたので、大人たちからの信頼も厚かったのだと思います。

卒業生と大学がつながる場について

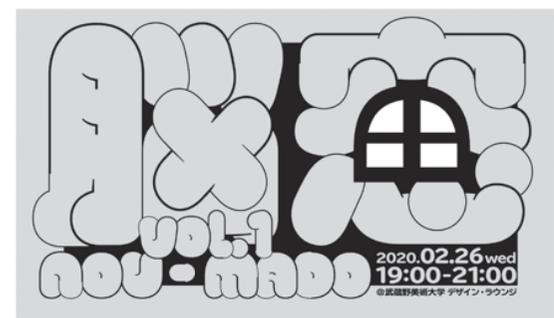
●一森さんは、デザイン・ラウンジにて勉強会「脳窓」を開催していますね。25歳以下のクリエイティブに関わる人が、自身の知識や技術を共有し学び合うことを目的とした勉強会ですが、どうですか?

社会人や大学生だけでなく、高校生の参加もあり、それぞれの情報やアイデアを喋ったりとかして結構楽しいです。今、みんな集まる場所がなくて困っているので、オンラインで集まることのできる場があって助かっていると思います。

●メインビジュアルは、一森さんがデザインされたのですよね。デザイン・ラウンジのSNSでお知らせすると、一森さんのファンが「あのビジュアル見て申込みました」と参加してくることがあり、人気ぶりが窺えます。

●ムサビの学生に、一森さんから伝えたい事はありますか?

学生の頃、美術大学を選んでよかったなと思った点は、「他の人の作品を見て、同じ世代のライバルが何を作っているか意識できる環境だったこと」です。新型コロナ禍で、なかなか学校で簡単に会える状況では



「脳窓」ヴィジュアル(2020年)

ないと思いますが、「最近何作ってる?」とか、みんなで話したりするだけでもかなり意味のあることだと思うので、ひとりにならないように制作を頑張ってほしいです。卒業後にムサビ出身の人と仕事をすることもあるので、学生の頃に色々なジャンルの人と知り合えたのも大切なことでした。大学でやってきたことの延長線上で仕事をしているので、「あの時にあの作品を作ってた人だな・・・」とか、作品をきっかけに卒業後でもつながる場合がありますね。

●在学中のつながりが、卒業後も生きてくるのですね。今大学では、企業、自治体、教育機関など、様々な方々とのつながりを増やしていきたいと考えています。その中にはもちろん卒業生も含まれていて、卒業後も大学と学生が関わり続けることができると良いなと思っています。クリエイティブ業界にいる卒業生の一森さんから見て、なにか大学に求めるものはありますか?

そうですね…卒業すると、同級生や上下というかたまりがなくなって、個人的なコミュニティしか見えなくなってしまうので、ネットワークになるような機能があると良いかもしれません。

同窓会や交流会だけをしたいわけではないのですが、「前後の世代の卒業生が、今どういう人として、どんな作品を作っているのか?」といった情報を純粋に知りたいなと思います。連絡を取りたいだけだったら、SNSで本人を探して直接メッセージを送っちゃうほうが早い可能性もあるんですけどね。

●なるほど。たしかに、活発に動く世代だからこそかもしれませんが、特に30-40代の卒業生同士で新しいつながりを作っていく機会が少ない印象はあります。働き方の変化でプロジェクトベースの仕事が増える中、卒業生同士、クリエイター同士のつながりがますます大切になっていきそうです。

一森さん、今日はありがとうございました。



山下 亮

クリエイティブストラテジスト/
アートディレクター/
クリエイティブディレクター

武蔵野美術大学卒業。ロンドン芸術大学 (UAL) 大学院終了。武蔵野美術大学助手、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ、メーカー等を経て現在外資系企業にてクリエイティブ業務に従事。



千羽 一郎

武蔵野美術大学 専任職員

デザイン・ラウンジ創設に関わり、2012年 研究支援センター (現・社会連携チーム) 着任後は運営・管理を行う。現総務グループ長。

スペシャルインタビュー 2020 04

デザイン・ラウンジの成り立ち

今回は、デザイン・ラウンジの初代アシスタントディレクター山下亮氏、開室時ご担当の千羽一郎氏より、デザイン・ラウンジが形作られていった過程や企画がどうやって生まれたのか、初期の状況を伺いながら、これからの活動を考える。

デザイン・ラウンジの成り立ち

● 2012年4月のデザイン・ラウンジ開室までの準備は、どのように進んでいったのでしょうか？

千羽： デザイン・ラウンジをどのような場所にするか検討・決定する「デザイン・ラウンジ運営推進検討委員会」の発足が2011年12月7日で、開室目標日が翌2012年4月1日とかなりタイトなスケジュールでした。名称や空間デザイン、サインやロゴマークのデザイン、スタッフの人選や什器の発注等、開室までに必要なことを実質3ヶ月程度で全て用意したんです。

開室ギリギリの頃まで机や椅子などが揃っていませんでしたので、家具が到着するまではキャンプ用の椅子で仕事したりしましたね。ネットワーク業者さんは、設定作業を床にPCを置いてやっていたくらいです…。当時、デザイン情報学科の助手だった山下くんに声をかけたのも、2月ぐらいだったと思います。

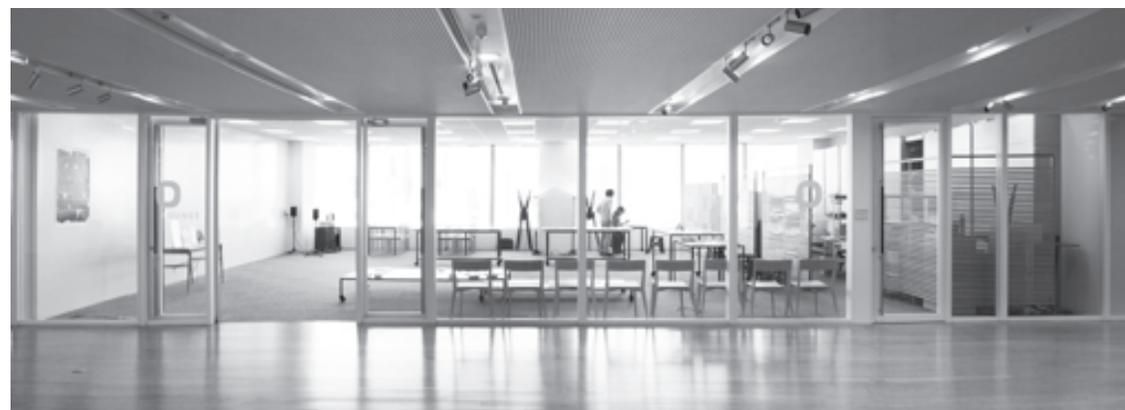
ただし、津村耕佑先生 (本学空間演出デザイン学科 教授) が語られているように (スペシャルインタビュー 2020 01 「デザイン・ラウンジと津村耕佑」)、「気軽に集まることができる開放した場」というデザイン・ラウンジ自体のコンセプトはかなり早い段階で決まっていたので、株式会社E&Yさんのご協力もあり、なんとか間に合いました。



デザイン・ラウンジ工事中の様子 (2012年)



デザインの文法一ひらめきを生み出す思考 (2012年)



● 短期間でたくさんの物事が準備されていったんですね。デザイン・ラウンジという名称は、どのように決まったのですか？

千羽： 名称については、色々な候補が出たんですよ。私は、六本木の「6」と、6つの活動趣旨を有する意味をかけて「ムサビシックス」という案を出しました。没になりましたが…。たしか、運営委員会の中での最初の有力候補は、「クリエイティブ・ラウンジ」だったと記憶しています。

2019年に新設した学科名は「クリエイティブイノベーション学科」ですが、この頃から「クリエイティブ」という言葉を意識していたのかもしれませんがね。最終的には、津村先生の案「デザイン・ラウンジ」に決定しました。

美術大学と社会がつながる、様々なプロジェクト

● 初期の頃のデザイン・ラウンジのプロジェクトは、どのように始動していったのですか？

千羽： 企業や自治体、個人から、色々な持ち込み企画の相談がありました。デザイン・ラウンジのような場所があると、やっぱり学外との繋がりが広がっていくんだなあと実感しました。初期の頃で言えば、ムサビ建築学科の卒業生から相談のあった、太刀川英輔氏による「デザインの文法一ひらめきを生み出す思考」や、多摩美術

大学の卒業生によって企画された勉強会「折詰め会」（スペシャルインタビュー 2020 05「デザイン・ラウンジとこれからの集まる場」）などの企画実施が代表的です。当時、デザイン・ラウンジのディレクターだった井口博美先生（元・本学デザイン情報学科/現・本学クリエイティブイノベーション学科 教授）は、「ここでは社会と大学のつながりを第一に、ムサビだとかムサビでないとかにはこだわらず、実験的な場にしたい。」と言っていたのですが、まさにこれらの企画がそうでした。開室して間もない頃に、こういった持ち込み企画の相談があったのはありがたかったです。

● **デザイン・ラウンジには、企業や団体との社会実験プロジェクトを独自に取り組む機能がありましたが、どうでしたか？**

山下： 社会実験プロジェクトという名目では当初なかったと記憶していますが、2015年に株式会社コンセントさんと一緒にサービスデザイン系のプロジェクトをデザイン・ラウンジで実施したのが最初に企画した社会実験プロジェクトの一つだったかと思います。「サービスデザイン」や「デザインシンキング」など、語弊がある言い方かもしれませんが「考えるタイプのデザイン」の言葉が出始めた時期ですね。それまではコンセントさんはクライアントの課題に対するコンサルテーションというかたちでサービスデザインをサービスとして提供していたけど、サービスデザイン自体を教えるス



サービスデザインの教室：第1回「サービスデザインとは何か？」(2014年)

キームを構築したいということで、いくつかのワークショップを企画し、実際に開催しました。

それと同時にコンセントさんと一緒に千葉県いすみ市に行き、サービスデザインを用いて、地域の魅力の発掘・課題発見・解決策を抽出していくプロジェクトも始めました。実際にいすみ市へ行って、市民の方々へのヒアリングや研究報告など行いました。

千羽： この時に、初めて「サービスデザイン」という言葉を知りました（笑）

● **デザイン・ラウンジでは、デザイナーや企業が実施するワークショップだけでなく学生企画のイベントも開催しましたが、どのような関わり方をしていましたか？**

山下： デザイナーさんに実施してもらおう子供向けワークショップでは、デザイナーさんに声をかけて、どんな内容にするかという段階から関わっていました。デザイン会社やゲーム系の会社から学生向けのイベントを開催したいと相談があった時も基本的に、一緒に内容から、集客方法や開催時期などを一緒に考えてやりましたので、結果として挑戦的で実験的なワークショップになりましたね。

学生企画のイベントは少し違って、学生からの相談には乗るけど、企画書や予算計画などは基本的に学生に作ってもらうようにしていました。デザイン・ラウンジの役割はあくまでもディレクションと実験の場の提供であって、学生企画のイベントを最終的に作り上げるのは実施



「LEDで遊ぶ！」ワークショップ (2013年)



～キッズウィーク2017夏場所～
粘土でオリジナルカスをつくらう！（2017年）

主体の学生であるべき、と特に学生企画の時は意識していました。

千羽： デザイン・ラウンジとして一番最初の学生企画である、一森加奈子さん（スペシャルインタビュー 2020 03「デザイン・ラウンジと学生ワークショップ」）がリーダーを務めた「MIDTOWN ♥ SUMMER」が予想したものよりかなり完成度が高かったのが今思えば幸運でしたね。

● **千羽さんのご家族には、デザイン・ラウンジの子供向けワークショップにたくさん参加して頂きました。毎年夏に、成長したお子さんに会えて楽しかったです。**

千羽： 家族で作った作品は、全て自宅のトイレに飾ってあります。

東京ミッドタウン・デザインハブで活動したこと

● **東京ミッドタウン・デザインハブでのムサビ企画の展示は、デザイン系の学科を中心に毎年開催しましたが、どうでしたか？**

千羽： 東京ミッドタウン・デザインハブの皆さんからの評価が高かったのは、「ラーニング・アーキテクチャー 2015 | 建築、学びの冒険 —大学の建築設計課題の動向展」でしょうか。この展示では、ムサビの建築学科が中心となって、様々な大学での建築の課題を紹介しました



東京ミッドタウン・デザインハブ第54回企画展
「ラーニング・アーキテクチャー 2015 | 建築、学びの冒険 —大学の建築設計課題の動向展」(2015年)

が、東京ミッドタウン・デザインハブで2018年から開催している、様々なデザイン系課題を紹介する展示「ゼミ展」の着想になったと聞いています。初年度に、デザイン振興会の方から「単にムサビの学生さんの作品を展示するだけではダメですよ」とアドバイスを頂いたことがありました。言われたときはドキッとしましたが、新しいデザイン領域の紹介や、デザインの歴史を検証するなど、東京ミッドタウン・デザインハブの「デザインの情報発信をする場」という場所性を改めて認識させられた出来事です。そして、六本木という場所に見合った展示のクオリティも担保しなければ…と覚悟しました。

● **ムサビは、美術普及・振興プログラム「旅するムサビプロジェクト」（通称「旅ムサ」）や、教育施設「ゼロスペース」などでグッドデザイン賞を受賞しています。エントリーのきっかけは何ですか？**

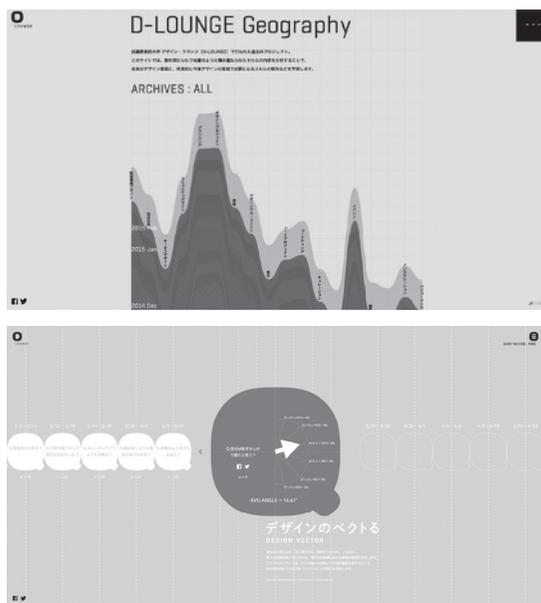
千羽： ある日、「旅ムサ」の企画ってグッドデザインだなとひらめいて、課内打ち合わせで「グッドデザイン賞に挑戦してみない？」と告白したのが始まりです。「旅ムサ」のどこがデザインなのか？というのは、東京ミッドタウン・デザインハブでの活動や、デザイン・ラウンジでの実験的なデザインの取り組みを見てきたおかげであり、デザイン・ラウンジをやっていなければ、エントリーの発想は生まれてなかったと思います。



旅するムサビプロジェクト展 (2017年)



第1回「SMART <(?)>」を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ (2013年)



WEBコンテンツ：D-LOUNGE Geography /デザインのベクトル

デザイン・ラウンジのWEBコンテンツについて

● デザイン・ラウンジのWEBサイトについて、お伺いします。

参加型のWEBコンテンツが多くありましたが、どのように作られていったのですか？

山下： まず、WEB上でも実験の場を展開したいと思い、株式会社ラナエクストラクティブさんに相談しました。みんなが集まって議論ができたり投票できたり、情報を収集していけるようなプラットフォームを作りたいと考えました。

2012年頃は、WEB上でのコンテンツに対するリアクションは「いいね!」くらいしかなかったので、「ふーん」とか「気になるね」とか別の感情も取り込んでいきたいと、たくさん感情のボタンを設置しました。そのクリック数をもとに、デザイン・ラウンジが社会からどんな風に見られているのかを計測していました。

それから少しずつWEBコンテンツを増やしていきましたが、その中で共通するのは、「あえて答えを全て出さないデザイン」です。「デザインっていうのは、ソリューションを提供するのではなく、課題を発見するためのものであるべきですよ」と、ラナエクストラクティブ太田伸志氏(当時)と話していたんです。デザイン・ラウンジという場所自体も、ゆるやかで、変化する空間なので、それをWEBサイトで表現しました。

デザイン・ラウンジのWEB施策では、実験的なことを色々やらせてもらえて楽しかったですね。単純にアーカイブとしての機能をアーカイブっぽく見せない見せ方の探求とか。そういえば、トップ画面にブログへ移動するボタンとして千羽さんの写真が出てくる仕掛けとかも作りましたが、なくなっちゃったんですか？

千羽： あれは、学内で怒られたので取りました。



活版印刷でレターセットを作るワークショップ (2018年)



東京ミッドタウン・デザインハブ第43回企画展『これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形』(2013年)



インタビュー後の記念撮影：左から加倉井(デザイン・ラウンジ アシスタントディレクター)、山下氏、千羽氏 (2020年)

市ヶ谷へ移行後のデザイン・ラウンジの機能に思うこと

● 2020年12月にデザイン・ラウンジを閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行します。六本木での情報発信拠点としての期間を経て、市ヶ谷は実際に社会を学びのフィールドとして捉えるイメージですが、今後の活動についてはどうでしょうか。

千羽： 新しいデザインへの熱量とムサビへの愛情がある井口先生と山下くんが最初に関わってくれたのがすごく大きいと感じていて、市ヶ谷キャンパスも愛情と熱量のある人がどうやって絡んでいくか、そして愛情と熱量のある人が生まれていくかがカギになると思っています。特にこのコロナ禍では、「デザイン」や「場」の考え方も変化しないといけない状況にあり、それに対応できるのが「熱量と愛情のある人」じゃないかと。

山下： そうですね。物質的な場や名の継承ではなく、デザイン・ラウンジでも重視していた意識や気持ちの継承がされると嬉しいです。

● デザイン・ラウンジが開室した頃は東日本大震災の直後で、「デザインで何かできないか、集まる場を作ろう」という議論がされていましたが、閉室のタイミングは「集まる場とは何か、新しいコミュニティを考える」という時期なのでですね。

山下さん、千羽さん、今日はありがとうございました。



折詰め会

デザイナー・エンジニアなど専門性を持つ人が集い「何か面白いこと」を探索し合い各自持ち帰る場です。デザイン・ラウンジにて月1回開催しています。



佐久間 奈々恵

UIデザイナー

1987年三重県生まれ。2010年多摩美術大学情報デザイン学科卒業。会社員としてデジタルカメラやスマホアプリのユーザーインターフェースデザインに携わっている。「折詰め会」発起人。



松林 景子

UIデザイナー

1988年千葉県市川市生まれ。2010年多摩美術大学情報デザイン学科卒業後、富士ゼロックス(株)にて、行政や金融向け帳票管理システムなどのUIデザインを担当。2児の母。「折詰め会」発起人。



川合 啓介

エクスペリエンスデザイナー

1989年神奈川県生まれ。2013年多摩美術大学生産デザイン学科卒業後、情報通信機器メーカーのインハウスデザイナーを経て、デザインコンサルティングファームにて事業開発をデザインの方でサポート。「折詰め会」コアメンバー。



日置 浩司

フロントエンドエンジニア

1989年生まれ。現在、面白法人カヤックにてWEBやスマホアプリの開発を担当。Twitter: @hiokky_k 「折詰め会」コアメンバー。

スペシャルインタビュー 2020 05

デザイン・ラウンジとこれからの集まる場

今回は、デザイン・ラウンジの開室一年目より長く開催した勉強会「折詰め会」の発起人及びコアメンバーの皆様より、この勉強会が生まれた経緯を伺いながら、変化し続けるコミュニティ、これからの人が集まる場の意味を考える。

2012年、デザイン・ラウンジ開室一年目から続く勉強会「折詰め会」とは

●「折詰め会」とは、インハウスデザイナー・エンジニアなど専門性を持つ人が集い「何か面白いこと」を探索し合う、勉強会です。折詰め会を企画したきっかけを教えてください。

松林(発起人): 2012年、私は美術大学を卒業してインハウスデザイナーとして働いていたのですが、佐久間さん(発起人)と二人で、ずっとこのままこの会社の中で、デザイナーとして働いて良いのだろうか?みたいな問題意識がありました。

そんな中、デザイン・ラウンジでの公開講座に参加したときに、その場にいた井口先生(デザイン・ラウンジディレクター)に相談したのが始まりでした。

佐久間(発起人): 山下亮氏(元・デザイン・ラウンジアシスタントディレクター)と一緒に何ができるのかを考えて、勉強会という形になっていきました。最初の頃はなかなか人が来ない時期もありましたがWEBサイトでの告知だけではなく、仕事や生活の中で出会う人たちに折詰め会のことを紹介するとたまに来てくれたりして、ちょっとずつ参加者の輪が広がっていきました。

●折詰め会が始まってから9年経ちますが、最初の頃と比べてインハウスデザイナーの取り巻く環境に変化はありましたか?

佐久間: 環境自体は、変わってきたと思います。私の会社で言えば、会社が経営陣を含めてデザインに注目し、デザインに対する評価が変わってきました。ただ、今の状況であれば折詰め会がなくても良かったかと言うとそうではなく、「新しいことを学ぶ場」や「色々な人に出会う場」がもっと必要だと感じる点は、まだ変わっていない印象です。インハウスデザイナー特有の根っこにある課題かもしれません。

松林: そうですね。私のまわりの環境で言えば、以前は「会社の中でデザイナーをしている」という認識が自分の中であった一方、現在は「会社で」というより「自分がデザイナーとして生きていく」ということ考え方にシフトしてきました。

●現在の折詰め会コアメンバーである川合さん、日置さんにお伺いします。

お二人が最初に参加されたのは2013年の「折詰め会 拡大版(デザイン・ラウンジの秋イベントとして実施した回)」でしたが、そのときの印象はどうでしたか?

川合(コアメンバー): デザイン・ラウンジのようなデザイン系のスペースで対話したり、知らない人とディープな議論をする機会があまりなかったので、新鮮でした。それと、僕も初めて折詰め会に参加した頃はインハウスデザイナーだったので、佐久間さんと松林さんの課題意識を痛切に感じていて、そこがうまくはまったのかなと思います。



折詰め会 拡大版 -デザイン学科で学んだことは何?- (2013年)

日置（コアメンバー）： 同じくですね。その頃、私はSI（システムインテグレーター）をしていたんですが、ずっとこのままシステムを作っていていいのか？という問いがある中で、過ごしていました。デザインを学びたいと思って色々な勉強会を探していたときに、ちょうど見つけたのが参加のきっかけです。開催日は、東京ミッドタウン館内で「グッドデザイン賞受賞展」が開催中でしたが、デザイン・ラウンジの部屋には入りやすかったし、すごいアットホームな感じの会だな…という印象を受けました。

松林： 拡大版、懐かしいです。あのイベントから毎回参加されるようになったメンバーが結構いるので、開催してよかったです。

● 9年間開催してきた中で、印象に残っている参加者やテーマはありますか？

川合： エンジニアの方に機械学習について話してもらったことや、電波を使うスタートアップの方に技術を紹介してもらいながら活用方法を考える回など、色々ありましたね。自分の疎いエンジニアリングの技術面を教えてもらったり、形になってきた技術をこれから社会でどう活用するのいいのか、議論できたのは楽しかったです。

佐久間： 折詰め会として、東京ミッドタウンアワードというアート・デザインコンペに応募したいという参加者がいたので、みんなで応募作品を作ってエントリーしたこともありました。

日置： ゲーム制作系の学生向けワークショップを企画



第59回 折詰め会
このロボットを使ったサービスを考えよう（2017年）

していたメンバーが、折詰め会で企画内容を相談・ブラッシュアップをして、実際にデザイン・ラウンジを使って、ワークショップを開催した事例もありました。みんな、自分の関心事をテーマにして議論していましたが、本業でやりたいことを取り扱っていました。

● 振り返ってみると、色々なテーマが議論されましたね。折詰め会で実験したプロジェクトが、その後どうなったか聞いてみるのも面白そうです。

変化し続けるコミュニティ、集まる場について

● 折詰め会は、メンバーが少しずつ入れ替わったりオンライン開催をするなど、その時々状況に合わせて変化しながら継続していますが、これからのコミュニティの変化や集まる場について、どう思いますか？

川合： 「場」が持つ力というのは、やはり強いんですよね。これからは、「場」が持つ力を借りたり、場に後押しされるのを期待するのが難しくなってきたりするので、今まで以上に個人で頑張らないといけなくなりそうだなと思います。

たとえば美術大学などでは、「場」から受ける刺激で自然と自分の殻が剥けていくような成長があると思いますが、リモートだと場や人との交流で剥けることも減るので、自分でどう変わるのか、あるいは変わらないままマイペース路線であるがままのスキルを磨いてい



折詰め会 拡大版（2015年）

くのか？みたいなプロフェッショナルを目指す学生にとってかなり大変な状況だと思います。

佐久間： 考え方が古いかもしれませんが、やっぱり「同じ場にいること」で生まれてくるアイデアや議論があるなど、改めて感じます。折詰め会で毎回、お菓子とペットボトルの飲み物を用意して、一緒に食べながら話したのは、すごく貴重なことでした。

● 折詰め会は、デザイン・ラウンジ閉室予定の2020年の12月の節目の回で、ちょうど100回目を迎えます。このコミュニティが長く継続したことについて、どう思いますか？

松林： まさか9年間も続く勉強会になるとは、思っていませんでした。私の家庭環境も変わり、自分だけでは続けることができなかつたですし、運営を担ってくれたメンバーの皆さんに感謝しています。初期の頃に、「失敗してもいい場にしよう」と話していたので、それが9年間変わることなく受け継がれていたのは良かったです。また、折詰め会というネーミングの「折詰め（折り箱に食べものを詰めたもの）」の部分にあるように、この勉強会に参加したら、自分たちで何かを包んで持って帰ってもらうことを大切にしていました。一方通行で情報を与えられるのではなくて、初めての参加者も一緒に考えて話し合う、能動的な場にしたいなと思っていました。

川合： 折詰め会の場合は、自分たちの迷っていることや悩んでいることなど、まだかっこよく見せられる段階にないものを見せて、議論し合うことができる場所でした。折詰め会以外の勉強会では、少しかっこつけた見せ方をするグループが多くある一方で、色々な事物をテーマとして取り扱って、実験ができるというのがユニークだと思っています。このような、かっこつけない場だったからこそ、9年も継続できたのかもしれませんが。

佐久間： 川合さんが言うように、折詰め会の、見た目を尖らせないことに意味を感じていました。デザインには「見た目以外の部分」にも考えるべき要素がたくさんあるので、こういった見た目の良さ以外の、広いデザインの話ができるのが、折詰め会らしさだったのかなと思います。

● たしかに、デザインをやっていない人のほうが、デザインのことを意識できるケースは結構ありますね。デザイナーが、デザイン思考にピンと来ないことが多い現象に近い気がしました。

市ヶ谷へ移行後のデザイン・ラウンジの機能に思うこと

● 2020年12月に東京ミッドタウン・デザインハブ内の拠点を閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行します。六本木での情報発信拠点としての期間を経て、市ヶ谷は実際に社会を学びのフィールドとして捉えるイメージですが、今後の活動についてはどうでしょうか。

日置： 市ヶ谷も、色んな人が集まっているので楽しい場所だと思います。街のイメージでいえば、印刷会社や大学、専門学校などがあるからか、「デザイン」というより「文化」という印象が強いですね。

川合： 僕も、デザインのイメージはあまり無いですね。逆に、デザインやアートとかのメスが入っていないエッセンスみたいなものを持っている人が多いそうです。六本木とはまた違う面白い人たちに、出会えるんじゃないでしょうか。

佐久間： これから一層、デザイナーであるとかそうでないとかの線引きが無くなっていき、色々な肩書きを持った人が増えていくと思います。自分の好きなことや得意なことを携えた素敵な人達に出会える場になるといいと思います。

● 9年という長い期間に渡って折詰め会で議論した様々なプロジェクトが、これからどう社会に実装されていくのか、楽しみに思います。

みなさん、本日はありがとうございました。



矢島進二

公益財団法人日本デザイン振興会
理事 事業部長

1962年東京・中野生まれ。1991年に現財団に転職後、グッドデザイン賞やデザインハブを中心に様々なデザインプロモーションに従事。武蔵野美術大学、東海大学、九州大学等で非常勤講師。月刊誌『事業構想』『先端教育』で連載執筆中。2019年2月号『自遊人』では「ソーシャルデザインの軌跡」について寄稿。



近藤直樹

公益社団法人日本グラフィック
デザイナー協会 事務局長代行

1969年栃木県生まれ。1993年早稲田大学社会科学部卒業、JAGDA入局。デザインハブや知財権関連などの各種事業を担当。

スペシャルインタビュー 2020 06

東京ミッドタウン・デザインハブ とデザイン・ラウンジ

今回は、デザインハブの構成機関である公益財団法人日本デザイン振興会（以下、JDP）矢島進二氏、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（以下、JAGDA）近藤直樹氏より、デザインハブの成り立ちや、その活動の変化を伺いながら、これからの社会とデザインの関係について考える。

デザインハブの成り立ち —2007年3月の開設に向けた動き

● デザインハブは、東京ミッドタウン開業と同時に、国際的なデザイン情報の発信拠点としてオープンしました。その成り立ちは、どういったものだったのでしょうか？

矢島： 2004年当時、JDPは浜松町（港区）に事務所がありました。羽田空港へ行くには便利でしたが、人の行き来が少ない場所だったので、事務所の移転を検討し始めていました。そうした時に奇しくも三井不動産の方が、防衛省の跡地に東京ミッドタウンというデザインとアートの新しい街を作ります、とお話下さいました。さらに、そこではデザイン関連の拠点の開設も考えていて、何かやってもらえませんか？との相談をいただき、具体的な交渉が翌年2005年から始まったのです。当時はヘルメットをかぶって、まだ巨大な穴の状態だった工事現場を見学させて頂きました。

それまでの三井不動産は、デザインやアートという言葉があまり出てこないどちらかと言うと保守的なイメージがありましたが、東京ミッドタウンのプロジェクトでは「デザインとアートでまちづくり」を掲げていたので、是非応援をしたいと思っていました。

Tokyo Midtown

DESIGN
HUB

東京ミッドタウン・デザインハブ

2007年4月に開設したデザインネットワークの拠点。デザインのプロモーション・職能・研究教育という3つの異なる役割を担う機関が連携し、デザインによって「人」「ビジネス」「知識」を結びつけ、展覧会やセミナーの開催、出版などで情報を発信。



東京ミッドタウン工事現場（2005年）

● 東京ミッドタウン自体の開業準備段階から、デザインハブの開設計画は始動していたのですね。JAGDAのデザインハブ入居は、どのように決まっていたのですか？

矢島： 2005年5月頃に、当時JDPの理事をされていた故・青葉益輝氏（グラフィックデザイナー）に、JAGDAも東京ミッドタウンに入居する可能性はあるでしょうか？と、相談してみました。青葉氏には、当時のグッドデザイン賞のトロフィーや表彰状などをデザインして頂いていたのですが、JAGDAの副会長もされていたので、双方の事情をご存知でした。

近藤： 六本木に移転する前のJAGDAは、神宮前（渋谷区）にありました。2005年は、神宮前の事務所が手狭になっていた頃で、ちょうど移転を考え始めていたんです。またその頃、いろいろなデザイン団体の事務所を、どこか一か所の拠点に集約できないか？という話が出て、六本木にある別の施設が候補に挙がったりもしていました。しかし、中々まとまらず…最終的にはJAGDA単独で移転を検討することになりました。

そんな中で、JDPからお誘いを頂いて、東京ミッドタウンへの入居が決まりました。

矢島： まだ図面もない時期でしたね。JAGDAの最初の東京ミッドタウン視察には、故・勝井三雄氏（JAGDA元・会長/本学名誉教授）、故・小島良平氏（JAGDA元・理事）、近藤さんがいらっしやっただと思います。



公益財団法人日本デザイン振興会 (JDP)

1969年設立。日本で唯一の総合的なデザインプロモーション機関として「グッドデザイン賞」の主催をはじめ、各種のデザインプロモーションおよびコーディネーション事業を展開。



公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 (JAGDA)

1978年設立。現在3,000名の会員を擁する日本で唯一のグラフィックデザイナーの全国組織。年鑑の発行、展覧会やセミナー、地域振興や公共デザイン、デザインの権利保護などの公益事業を展開。





東京ミッドタウン視察の様子：右からJAGDA 福田繁雄会長（当時）、小島氏、勝井氏、青葉氏、東京ミッドタウン・マネジメント市川俊英社長（当時）（2005年）



公開講座2017「Creative Innovation」第1回
濱口秀司氏（monogoto CEO, Ziba Executive Fellow）（2017年）
[インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターにて開催]

近藤： JAGDAは、日本全国に3000人の会員を擁していますが、半数の約1500人が東京、もう半数は全国各地にいます。なので、東京の事務所だけが、そんな良い場所に部屋を借りていいの？みたいなことが起きるかも…といった意見もありましたが、実際に移転してみたら肯定的なご意見が多くありました。六本木の商業施設であれば一般の方にもデザインに触れてもらう機会になりますし、海外からの来訪者が増える気配もあったので、日本のデザインを発信していくには素晴らしい場所だ、という見方が多くありました。

● 開設当初は、JDPとJAGDAのほかに、教育機関として九州大学が拠点を構えていました。どういった経緯で、デザインハブに教育機関が構成されたのでしょうか？

矢島： 九州大学への打診も、当会がお声がけしました。東京に新しい拠点を探されていたこともあり、参画が決まりました。もともと、東京ミッドタウンには海外の教育機関が入る計画もあったようなので、デザインハブにも教育機関を入居してほしい、という流れがあったのかもしれない。デザイン関連の教育機関、デザイナーの協会、プロモーション組織の3つが揃えばこれまでにないデザイン活動が展開できると考えたのです。

● デザインハブには、連携拠点「インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター（以下、リエゾンセンター）」もあります。最近では、オンライン配信対応やライブラリーの開放など、様々な機能が追加されていますが、リエゾンセンターの活動方針は、どのように決まったのですか？

矢島： リエゾンセンターは、名前のお通り「デザインを基軸とした国際的な連携拠点」です。具体的には、デザインの国際会議や研究発表などの活動を支援しています。開設当初は、海外の8校くらいの教育機関からサテライト拠点としての加盟があり、それから少しずつ加盟機関が増加していきました。東京ミッドタウンから、教育的要素がある場所を作ってほしいと要請があったことも作用しています。



グローバル・デザイン教育フォーラム2014 東京（2014年）
[インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターにて開催]

● なるほど。様々な出来事とタイミングが重なりながら、現在のデザインハブが形作られていったのですね。その後、本学が入居することになったきっかけは、どういったものだったのでしょうか？

矢島： JDPの理事であった森山明子先生（デザイン情報学科 教授）に、最初相談してみたんです。そこから、学内で企画検討が始まり、ムサビの中では異例中の異例で決定した、と聞いています。理事会では、勝井氏が「ムサビのデザイン戦略拠点として、東京ミッドタウン・デザインハブはベストだ」と、力強く説明をして下さったと聞いています。

デザインハブの成り立ち — 全体の設計や名称について

● デザインハブの全体の設計は、どのように決まっていたのですか？

矢島： 初期は、青葉氏と勝井氏と小島氏が中心となり、コピーライティング、インテリアなど、それぞれの第一線で活躍されている方々にご協力をお願いし、進んできました。

近藤： デザインハブの空間のトータルデザインは、近藤康夫氏（インテリアデザイナー）によるものです。初期の構成機関であった九州大学の教授でもありました。事務所同士の間の壁をガラス張りにする案など、色々なブ

ランが行き交っていました。近藤氏の指定でデザインハブの床材は、バンブーになりました。またデザインハブのロゴマークは、平野滄太郎氏（グラフィックデザイナー）によるデザインです。

● デザインハブの名称には、「多くの人をデザイン力でつなぎ動かす場」といった意味が込められていますが、どのように決まっていたのですか？

矢島： 設立の頃、デザインハブ（DESIGN HUB）の「HUB（車輪の軸、複数のものが寄り集まる場所）」という言葉は、今のように一般的には使われていませんでした。ハブ空港、くらいでしょうか。「情報のハブ」や「伝える」「広げる」といった場のコンセプトはあったので、「デザインハブ（仮称）」として、2005年11月頃から内部的に使っていましたが、2006年3月の東京ミッドタウン記者発表に合わせて、確定していくことになりました。勝井氏が日暮真三氏（コピーライター）に相談されたり、デザインハブの三機関からアイデアを出して決められました。デザインハブ以外の候補としては、「Design Node」「Design Crossing」「Design Link」などがありましたが、様々な議論の末に、2006年3月23日の記者発表にて、デザインハブという名称が初めて世に出ました。このときに、JDP、JAGDA、九州大学、リエゾンセンター、という構成も発表されました。



デザインハブ設計当時のメモ



東京ミッドタウン記者発表会の様子 (2006年3月23日)

東京ミッドタウンとのデザインを中心とした連携関係について

● デザインハブと東京ミッドタウンは、双方のプロモーションなどのデザインに関する連携関係があります。この関係性は、どのように築かれていったのですか？

矢島： JDPの入居時に、東京ミッドタウンにただ入居するだけではなく、色々なプロモーション系のイベントと一緒にやりませんか?と、こちらからもお声かけをしたのです。せっかく同じ建物で活動をするので。まず、東京ミッドタウンのロゴマーク公募のご協力をしました。コンペティション式の提案、審査員の人選などです。また、「TOKYO MIDTOWN AWARD (東京ミッドタウン主催のアートとデザインのコンペティション)」では、応募要件や募集方法の策定から当初は、事務局も担当しました。商品化の協力として、靴下屋さんなど製造会社を探したり…。初期の頃から、いろいろとご協力しています。また2006年春から、東京ミッドタウンマネジメントと



Tokyo Midtown Award 2018授賞式 (2018年)

デザインハブ三機関が集まり、「デザインハブ連絡会」を毎月一度、開催しています。そして現在でも、ミッドタウンが行う秋のイベント「デザインタッチ」や、子供の日のシーズン・イベントなどでも、JAGDAのデザイナーなどの参画など、連携や支援活動はずっと続いています。2012年4月、無印良品東京ミッドタウン店とデザインハブによるコラボレーション「MUJI meets Tokyo Midtown DESIGN HUB」では、ムサビの津村耕祐先生(本学空間演出デザイン学科 教授)に店頭のオープンスペースで

展示をして頂きました。空気緩衝材プチプチを使った作品の展示です。同年3月の六本木アートナイト2012(六本木の街を舞台に展開するアートイベント)では、津村先生や学生達がそれらの作品を着て、六本木の街を歩く企画もありました。この頃の無印良品とムサビの活動も、市ヶ谷キャンパスでの無印良品との連携へと繋がっているのでしょうか。

● この頃から、無印良品とムサビの関係があったのですね。2019年設立の市ヶ谷キャンパス内にはMUJIcomがあり、無印良品の商品販売だけでなく、企業との研究、アイデアを実践できるスタジオや、展示スペースを設けています。

デザイン・ラウンジが市ヶ谷へ機能移転することについて

● これまでの社会と美術大学の関係に危機を感じ、ムサビは社会連携活動を積極的に取り組んできましたが、デザイン・ラウンジが六本木で順調に活動できたのは、デザインハブ構成機関の日本デザイン振興会、日本グラフィックデザイナー協会の皆様のお力添えのおかげです。今後の活動について、一言お願い致します。

矢島： このままではマズイ、という危機感から色々な新しいことに取り組んでいらっしゃるので、市ヶ谷移転後も引き続き、挑戦したらいいと思います。正解は誰に



MUJIcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス

も分からないし、違っていたら直せばいいので。デザイン・ラウンジでは、そういった外からの情報を感じ取り、観測されていたでしょうし、ずっと鷹の台キャンパスにいて、いい場所だからこそ安定して動きづらいこともあるかもしれません。市ヶ谷だからこそ、出会える人や企業と繋がっていきけるといいですね。

● これからの社会とデザインの関係は、どうなっていくのでしょうか。

矢島： 何事も単独ではなくプロジェクトベースで、学校や団体、メーカーやデザイナーなど、色々な人と組むスタイルにしていけるといいですね。東京ミッドタウンに来たのは、それを実践できる場所と協力者が近くにいれば活動が広がるのでは、という思いがあったからです。結果として、色々な人が訪れるようになり、色々な話が入ってくるようになりました。市ヶ谷でも、そういった環境を活用しながら活動を広げていくといいと思います。

● これまでのデザインハブの成り立ちと活動を振り返ることで、9年間、大変貴重な環境で活動させて頂いたということに改めて感じました。これからも、新しいデザイン活動、社会連携活動に取り組んでいく所存ですので、市ヶ谷移転後も武蔵野美術大学をどうぞよろしくお願ひ致します。矢島さん、近藤さん、今日は貴重なお話をありがとうございました。



MUJIcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス Open Market

* 写真及び資料提供 = 公益財団法人日本デザイン振興会、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会



スペシャルインタビュー 2020 07

東京ミッドタウンとデザイン・ラウンジ

今回は、東京ミッドタウンマネジメント株式会社（以下、東京ミッドタウンマネジメント）井上ルミ子氏より、「デザインとアートの街」としての東京ミッドタウンの成り立ちや様々な取り組みを伺いながら、人が集まる場所の意味、街が生み出す新しい価値について考える。

デザインとアートの街「東京ミッドタウン」の成り立ち

● 井上さんの、東京ミッドタウンマネジメントでの仕事のことを教えてください。

東京ミッドタウンマネジメントは、三井不動産の子会社で、「東京ミッドタウン」のマネジメントを行っています。イベントやプロモーション、商業施設の販促企画などを行うタウンマネジメント部や、建物の施設管理を中心としたプロパティマネジメント部、総務や人事業務を担う業務部があり、東京ミッドタウンの運営・管理業務全般を行います。私は、タウンマネジメント部に所属していて、デザインとアートのプロモーション担当をしています。私がこのプロジェクトに関わり始めたのは2004年で、後に東京ミッドタウンとなる敷地が更地だった頃です。



東京ミッドタウン 開発時のプロジェクト資料





東京ミッドタウン記者発表会の様子：左から深澤直人氏、佐藤 卓氏、三宅一生氏、大室康一氏、安藤忠雄氏、北山孝雄氏（2005年7月14日）

はじめは、誘致担当の語学系スタッフとして携わっていました。中でも、街のブランド価値を創出する、「付加価値施設」を誘致する担当で、ミッドタウン・タワーの3階から7階を「付加価値エリア」と位置づけて、街の価値に貢献してくれるような施設にお声がけをしたり、独自のコンテンツを企画しました。また、サントリー美術館や21_21 DESIGN SIGHTなどの文化施設の誘致も担当していました。

● 東京ミッドタウンは、六本木で2007年3月に開業しましたが、その成り立ちはどういったものだったのでしょうか？

2000年、防衛庁本庁が六本木から市ヶ谷（新宿区）へ移転、その後入札を経て、東京ミッドタウンのプロジェクトが始まりました。「都心でこのようなまとまった土地

が手に入ることは100年に一度あるかないか」という歴史的な機会、日本を代表するような街にしなければならない、という気概で進行していきました。東京ミッドタウン開業予定の2007年には国立新美術館もオープン予定でしたし、2003年にはすでに六本木ヒルズが開業していたり、と、この街にどんな新しい価値を付加するか、たくさんの人が関わってプランを練っていきました。そのときにキーワードとして出たのが、「デザインとアート」でした。1980年代の六本木では、芸能人や文化人がサロンのようなお店に集い、文化的な議論をしていました。また、米軍宿舎もあって海外の方が多くいたことから、国際色が豊かな街でもありました。このような「世界の文化と芸術が行き交う街」という六本木のDNAが少なからず作用して、東京ミッドタウンの街ブランドを形成していきました。

東京ミッドタウンのデザインとアートに関連するプロジェクトについて

● 東京ミッドタウンにはデザインとアートに関連する施設が多くありますが、どのように入居が決まっていたのでしょうか。

まず、サントリー美術館が赤坂から移転することが決まりました。また、2003年、三宅一生氏が朝日新聞に「造ろう デザインミュージアム」という記事を寄稿され、多くの賛同者が集まり、後の21_21 DESIGN SIGHTとなる場所を探していたチームからお声がけをいただきました。さらに、日本デザイン振興会さんとの出会いをきっかけに、デザインという言葉で人が集まり、様々な人がデザインに触れられる「東京ミッドタウン・デザインハブ」を設立していきます。デザインのプロモーション機関、グラフィックデザイナーの機関と、教育機関を誘致して、外部とそれらの機関が有機的につながっているような区画もあるといいよね、ということで国際ショナル・デザイン・リエゾンセンターも併設しました。デザインハブ構想の前には、アメリカのデザイン機関の授業を受講でき、単位も取得できる場をつくる計画もありましたが、フィジビリティ面で頓挫してしまい、その機能を、大学院レベルのデザインを学ぶことができる場としてリエゾンセンターに引き継ぎました。経営にはデザインやクリエイションの力が有効であるという仮説に基づく、今で言うデザイン思考のようなことを学べる場所が当時から必要とされていたのです。

● 東京ミッドタウン主催のデザインとアートのコンペティション「TOKYO MIDTOWN AWARD」は、どのように生まれたのですか？

東京ミッドタウンは開業に向けて、パブリックアートの常設や美術館誘致、建物自体デザインにも非常に力をいれることでハードとしてはクリエイティビティの高いものができあがりました。開業にあたって、建物を建てて終わり、ではなく、ソフトアプローチでもデザインとアートの要素をとり入れることで開業前に大切にしていたビ

ジョンを根付かせることができるのではないかと考え、プラットフォームになるような新しい企画を考え始めました。その一つのアクションが、TOKYO MIDTOWN AWARDです。着想は、館内の装飾の一環となるようなアートを提案するためのコンペ企画でしたが、デザインコンペも同時に実施することになり、日本デザイン振興会さん、日本グラフィックデザイナー協会さんに審査員の人選や事務局のノウハウ提供など協力を頂きました。デザイナーやアーティストは、「よいものをつくりたい、世の中をよりよくしたい」という気持ちが根底にあふれている方が多く、その分野での若い才能と出会い、力いっぱい応援して、ゆくゆくはより広いフィールドに羽ばたいていていただきたい、という想いで取り組んでいるアワードです。2020年で13回目を迎えますが、5年、10年と続けることで、やっと認知が少し高まったのではないかと思いますし、「デザインとアート」が東京ミッドタウンの街ブランドの一つの柱として認識されてきたかなと思います。



TOKYO MIDTOWN OPEN THE PARK 2019
アートこいのほり（2019年）



Tokyo Midtown Award 2016 授賞式（2016年）

● 一度きりでなく継続することが大切なのですね。

六本木アートナイト（六本木の街を舞台に展開するアートイベント）も長く続いているプロジェクトですが、どうですか？

六本木アートナイトは、東京都から六本木エリアにお声がけをいただき、六本木の文化に関わる施設がタッグを組み、東京都も主催になり、東京の文化都市である側面を強化する目的で2008年に始動しました（第1回は2009年に開催）。六本木アート・トライアングル（国立新美術館、森美術館、サントリー美術館。2007年発足）のネットワーク加盟館や、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、六本木商店街振興組合などが参加し、実行委員会形式でプロジェクトを進めています。エリアとしては、六本木の夜の街というイメージを払拭したいという考えもありました。

● 2012年度から計8回、ムサビからも東京ミッドタウン企画として、六本木アートナイトで作品を展覧させて頂きました。

初年度のムサビ企画「Mr.アートナイトTV」、記憶に強く刻まれています。参加型の作品で、学生さんの柔らかい頭じゃないと出てこない作品だったと思います。夏のキッズワークショップなどでも、ご一緒させて頂きました。子どもだけでなくファミリーでも楽しめるような「デザインやアートを普及する」という東京ミッドタウンらしい企画を実施して頂きました。実際にムサビの鷹の台キャンパスへ行って、TOKYO MIDTOWN AWARDやキッズワークショップの展覧者向けオリエンテーションを実施したことも、デザイン・ラウンジが東京ミッドタウンに入居しているからならでの連携だったのではないのでしょうか。

● 振り返ると、たくさんの連携活動をさせて頂きました。以前、本学卒業生のアーティストが展覧した際に、「東京ミッドタウンの方は、アーティストと作品のことを最優先に考えてくれていて嬉しかった」と、言っていたことを思い出しました。



山田太郎プロジェクト～六本木アートナイトスペシャル～（2015年）

● 井上さんご自身の、デザインやアートの分野との出会いはいつだったのですか？

美術の授業は中学校までで、大学では総合政策を学んでいたため、デザインやアートに触れる機会はほとんどありませんでした。ただ、大学卒業後、フランスに留学したのですが、そこでの生活が、私にとってのデザインとアートの入口になっているかもしれません。フランスでは、街をあげてのアートや文化芸術系のイベントがたくさんあって、例えばパリでは「ヌイ・プランシュ」という、10月の一週目の土日にオールナイトで美術館が開館して街中にアートが溢れかえる、六本木アートナイトのようなイベントが開催されています。真夜中に美術館に行くことができたり、街全体で取り組んでいる様子がとても新鮮でした。その他にも、「音楽の日」には街中ストリート上にアマチュアの人もプロもごったがえしで、多種多様な人が楽しそうにバンド演奏をしていたり。こういう街をあげてのイベントや企画を、日本でもやりたいなど、漠然と思ったんです。

これからの「人が集まる場」について

● 新型コロナの影響と、これからの人が集まる場について、どう思われますか？

色々なイベントが延期や中止になってしまいましたが、一番大きな影響だと考えているのは、一般の方がデザインとアートに触れる機会が減ってしまったことです。東

京ミッドタウンでいえば、たまたま街に訪れた方が、デザインとアートとの接点を持てるところが価値の一つだったので、それに代わる新しい価値をどうつくっていくか、そもそも「場」が提供できる価値って何なんだろうと、まだ答えを探しています。

今後、新型コロナが落ち着いたとしても、大量集客がすぐに復活するかといえばそうでもなさそうで。「実際に来なくても良いけれど、来るとより良いものを体験できる」といった価値を提供する必要があります。たとえば、美術館は予約入場制に変わりましたが、少ない人数で作品を鑑賞できるようになったので、美術鑑賞体験としての価値は上がりました。

また、オンライン開催のセミナーが増えたことで全国各地から参加できるようになったのは、すごく良いことです。しかし、オンラインでは「たまたま出会う」ことができないんです。フィルターバブル（個人の嗜好に合った情報だけが選択的に提示される機能）の問題に近いかもしれません。オンラインとリアルの場合の組み合わせのような話はよく出ますが、場所がなければ実験できないことが多くありますし、そういった意味でも「場」そのものはこれからも必要だと思っています。

そして、新型コロナがきっかけで、普段振り返る時間がない人たちの動きが、強制的に止まった時期ができましたね。今の課題を見つめ直すきっかけとして、リアルじゃなければできないことってなんだろう？と、みんなで考える機会になりました。東京ミッドタウンでは、様々なアイデアをどうやって実現していくか。頭の中で考える



オンライン開催のワークショップ配信風景（2020年）

だけではなく、「そのアイデアを実現まで持っているプロフェッショナル」でいたい、と思っています。

市ヶ谷へ移行後のデザイン・ラウンジの機能に思うこと

● これまでの社会と美術大学の関係に危機を感じ、本学は社会連携活動を積極的に取り組んできましたが、デザイン・ラウンジが六本木で順調に活動できたのは、東京ミッドタウンマネジメントの皆様や、デザインハブ構成機関の皆様のお力添えのおかげです。今後の活動について、一言お願い致します。

「たまたま出会い、そこから何か生まれる」というのが街の特徴であり価値になっていくので、市ヶ谷では「市ヶ谷らしさ」をうまく取り入れられると、その場に集まる価値が生まれると思います。六本木で言えば、美術館がたくさん集まっているので、美術館関係者やアートに関わる人達、その界限ではないけれど何かコラボレーションをしたいと思っている人がたまたま会って何かが生まれていく、といったことです。

ムサビを軸として集まる人たちが、シナジーを発揮できるような有機的なつながりを持つには、「場所」が必要です。市ヶ谷へ移転することによって変わる部分と、どこであっても変わらないビジョンが両輪で動いていけば、新しい街で出会う人達と、もとの一般的な部分に賛同していた人達がミックスされて、新しいコミュニティができていくと思います。少し時間はかかるかもしれませんが、ビジョンを携えて継続することで必ず醸成されていきます。

● 東京ミッドタウンの先進的な街づくりのお話を伺い、9年間、貴重な環境で活動させて頂いたということを改めて感じました。市ヶ谷へ移転後も、六本木での経験を糧に様々なデザイン活動に取り組みますので、武蔵野美術大学をどうぞよろしくお願い致します。井上さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。

WE DESIGN SCHOOL WAWW

WE デザイン スクール

WEデザインスクールは、2016年に開校した日本初のビジネスパーソンを対象としたデザインの学び場です。クリエイティブな発想力を持ち未来をデザインできる人を育てます。

美術大学出身メンバーによる、社会人を対象とした芸術文化教育の研究開発を行う株式会社OFFICE HALOが、企業・社会・大学を繋げるデザイン発信拠点である武蔵野美術大学デザイン・ラウンジとともに、社会とデザインの新しい関係をつくりだす、これまでにない学校です。デザインをビジネスに活かす社会人が、基礎から体系的にデザインを学ぶためのオリジナルプログラム・教材を授業開発チームが開発、提供しています。

<https://wedesignschool.com>

WEデザインスクール
「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」
2017年 第二期講座（2017年）



稲葉 裕美

OFFICE HALO 代表取締役/
WEデザインスクール 主宰

武蔵野美術大学造形学部卒。2014年に教育デザインファームOFFICE HALOを設立し、同年、大人のためのアートスクール「CORNER」を、2016年にビジネスリーダー向けデザインスクール「WE Design School」を開校。デザイン、アート、表現領域のアカデミックな方法論を融合させ、企業、大学、自治体等で幅広く教育プロジェクトを展開している。



滝澤 幸子

OFFICE HALO チーフクリエイティブオフィサー

武蔵野美術大学造形学部卒。在学中よりアートギャラリーにて様々な対象者に向けた対話型ワークショップ等の教育プログラムやプロジェクト・展覧会企画のサポートに携わる。2014年、OFFICE HALO創業メンバーとして、事業プログラム開発に従事。「アート×教育」の経験を生かし、実践とセオリーを織り交ぜた講座設計、教材開発等、幅広く担当している。



スペシャルインタビュー 2020 08

新しいデザイン教育とデザイン・ラウンジ

今回は、WEデザインスクール開講の場となったデザイン・ラウンジが「デザインの実験の場」として、どう機能していたのかを、当時のことを振り返りながら、社会とデザインの関係の変化と共に変わっていくデザイン教育について、株式会社OFFICE HALO（以下OFFICE HALO）稲葉裕美氏、滝澤幸子氏より、お話を伺う。

芸術文化と社会をつなげる教育デザインファーム「OFFICE HALO」の事業について

● OFFICE HALOの事業内容について、教えてください。

稲葉： OFFICE HALOは、芸術文化と社会の架け橋をする、教育デザインファームです。現在は、ビジネスパーソン向けのデザインの学び場「WEデザインスクール」を主軸として、クリエイティブ教育に特化したビジネスを展開しています。このプログラムは、通学クラスだけではなく、企業や自治体へ出向いて、デザイン研修を実施させて頂くこともあります。

● ビジネスパーソン向けのデザインの学び場「WEデザインスクール」について伺います。立ち上げ当初はデザイン・ラウンジにて開催していましたが、このプログラムが生まれた経緯を教えてください。

稲葉： OFFICE HALOでは、「WEデザインスクール」を立ち上げる前に、大人向けのアートの学校「CORNER」を運営していました。アートの見かたをワークショップやツアーなどで学ぶプログラムです。その一方で、ビジネスパーソン向けの新しいデザイン教育の仕組みづくりもしたいと企画を考えていた頃に、デザイン・ラウンジディレクターをされていた井口博美先生（元・本学デザイン情報学科/現・本学クリエイティブイノベーション学科

教授）から、デザイン・ラウンジでの新構想についてお話を頂きました。ちょうど、双方の思い描いていたものとタイミングが重なり、デザイン・ラウンジと共に良いスタートを切ることができました。

「CORNER」では、参加者それぞれの価値観や学びたい部分といった、人によって少しずつ違うところを、参加者との対話の中で観測し、どんな伝え方をすれば良いか？何が彼らの学びに役立つだろうか？と考え続けていました。それらの蓄積は、「WEデザインスクール」にも活かされています。

● 「CORNER」は2015年、「WEデザインスクール」は2016年にスタートしました。

それぞれの立ち上げの頃と現在を比較すると、どのような変化がありましたか？変わらないことなども、教えてください。

稲葉： 以前と比べると、アートやデザインに対する社会からの期待がすごく高まっているように思います。ビジネスパーソンの中でも、アートやデザインを学びたいという層が広がってきている状況です。「クリエイティブの学びの機会を提供する」という、OFFICE HALOの基本的なビジョンは変わっていませんが、近頃は、ありがたいことにお客様のほうからデザインのお悩み事で声をかけて頂くケースが増加しています。様々な場所が必要として頂くようになった、という変化があったかもしれません。

滝澤： そうですね。アートに関しては、特に社会からの注目が集まっていますよね。今では、「アートはビジネスに活かせる」というように言われていますが、「CORNER」を立ち上げた2015年頃は、アートは趣味として学びたいと考えている方がほとんどだったと思います。社会からの期待の高まりで言えば、クリエイティブの学び直しが、仕事に生きるだけでなく、自分の生き方を見つめ直すために有効である、という発想が増えてきている印象があります。「生き方をデザインする」方法として、クリエイティブの力を身につけたい、とお考えの方が増えたのは最近の変化です。

● **デザイン・ラウンジの活動趣旨のひとつに、「新しいデザインの実験の場」を掲げていました。**

開催場所としては、何らかの効果はありましたか？

稲葉： デザイン・ラウンジでは、「WEデザインスクール」のテスト版やプログラム説明会から始めていきました。参加者の方が、日頃どんなところで困っているとか、デザインのどんな学びを求めているとか、色々試行錯誤しながら知ることができ、作るべきプログラムの輪郭のはっきりしていきました。

場所として言えば、デザインのコア的な場だったからこそ、多くの方に興味を持ってもらえたように思います。デザイン・ラウンジの部屋の外に出ると、東京ミッドタウン・デザインハブの企画展が開催されていて。一般的な貸し会議室とは異なる、「デザインを伝える拠点」という場のエネルギーが強かったので、デザインを学ぶ環



WEデザインスクール プログラム説明会 (2016年)



WEデザインスクール 10DAYS プログラム デザインリテラシー・ベーシック (2018年)

境として最適でした。最初のうちから、面白い人がたくさん来てくれましたし、講座の回数を重ねるにつれて参加者自身がどんどん変化していくのが見ることができてよかったです。

● **なるほど。たしかに、10日間連続講座のような参加者と接する時間が長いプログラムでは、彼らの価値観や生活環境なども垣間見ることができて新鮮でした。**

これからのデザイン教育と、人の集まる場について

● **これからの人が集まる場所について、お伺いします。新型コロナの流行もあり、「WEデザインスクール」は早めの段階でオンライン開催へシフトされていましたが、状況はいかがですか？**

稲葉： 「WEデザインスクール」は、オンライン化しやすいコンテンツだったので、スムーズにオンライン開催へ移行できました。講座自体も、通学クラスとほぼ変わらない内容で提供できています。むしろ、これまで参加が難しかった地方在住の方や、子育て中で外出することが難しい方などが新しく参加してくださっています。どんな状況でも学びの必要性は変わらないので、そういう意味では、オンライン化したメリットは大きかったですね。

滝澤： プログラムが、もともと考えて言語化したり議論する内容がメインだったので、制作で0.1mmの差を詰めていったり…という作業が必要なかった、という点も作用しているかもしれません。それから、オンライン開催をしてみたからの発見ですが、オンラインならではの参加者との密なコミュニケーションの取り方があると感じます。モニター越しではありますが、参加者全員とずっと目を合わせて議論する状態なので、すごく距離が近い感じがするんです。

稲葉： そうですね。会場での講座だと、それぞれの人の色々な視界があり得ましたが、オンラインだと画面上の視界しかありません。会場では、「お互いの顔を見続ける」ということが少なかったのかもしれない。ずっ

と見えていることで参加者の方がどんな課題感を持っているのかすぐ把握できたので、クラスの形成がしやすかったです。

● **そういった利点もあったのですね。オンライン開催のほうが密なコミュニケーションができるというのは意外でした。人の集まり方の多様化が加速しそうです。**

● **これからのデザイン教育について、何かお考えはありますか？**

稲葉： 今、デザインやアートへの期待値は高まっていますが、デザイン教育だけではなくクリエイティブ全体に関する教育が足りていない状況です。その原因は、教育制度や家庭、地域、など色々ありますが、美術大学に進学した人などを除いて、デザインやアートに触れる機会が人生の中でごく少ないことが大きいのではないかと思います。そして、それを解決していくための核心は「感性の育て直し」にあると思っています。感性をどうやって取り戻していくか?自分の中でどう育て直していくか?ということが、ビジネスパーソンの抱える課題だと捉えています。

また、生活者としても、デザインを知っているということはすごく大切です。物を買うときに何を選ぶか、という消費的な面でも有効であるし、クリエイティブな価値観を自分自身のより良い生き方の工夫にも使うことができます。クリエイティブの学びは、仕事に有効というだけではないのです。



これからも、OFFICE HALOでは気軽にアクセスできる学びの場を作っていきたいと思っています。

市ヶ谷へ移行後のデザイン・ラウンジの機能に思うこと

● **2020年12月に東京ミッドタウン・デザインハブ内の拠点を閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行します。六本木での情報発信拠点としての期間を経て、市ヶ谷は実際に社会を学びのフィールドとして捉えるイメージですが、今後の活動についてはどうでしょうか。**

滝澤： 市ヶ谷の拠点はキャンパスなので、学生と繋がりがやすく、より活発に動けそうだなと思います。デザイン・ラウンジの機能を市ヶ谷キャンパスが融合することで、これまでの六本木での活動で蓄積された研究・知見とのいい化学反応が起こりそうですよね。

稲葉： 美術大学が社会とどう繋がっていくか、という挑戦的なコンセプトを掲げていたデザイン・ラウンジは、すごく良い場所だったと思います。大学だけでなく、クリエイティブ全体が社会と関わっていくことに繋がっていきますし。私たちも、そのコンセプトが共鳴して、WEデザインスクールをデザイン・ラウンジという場所で始動することができて良かったです。

● **デザイン・ラウンジの活動後期は「新しいデザイン教育」をテーマに掲げていましたが、「WEデザインスクール」という先進的な教育プログラムと一緒に開催できたことで、私達の目指すものが形作られていったように思います。**

稲葉さん、滝澤さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。

こどもの感性を伸ばすために親にできること
～親も子もクリエイティブに生きるためのヒント～
オンライン配信の様子 (2020年)



加藤 晃 央

世界株式会社 共同代表/
株式会社モーフィング 代表取締役

1983年長野県生まれ。2006年、武蔵野美術大学在学中に起業し、株式会社モーフィングを設立。2013年、クリエイティブアソシエーションCEKAI / 世界株式会社を井口と共に設立。2018年、クリエイターのためのコレクティブスタジオ「村世界」を開村。2019年、クレジットデータベースBAUSをリリース。クリエイターの可能性を高め、繋げ、拡張させることをミッションとし究極の裏方を目指している。



井口 皓 太

映像デザイナー/
クリエイティブディレクター

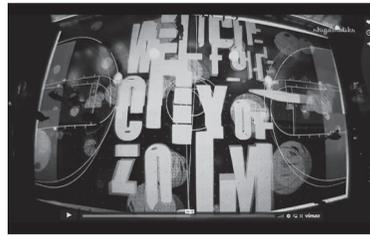
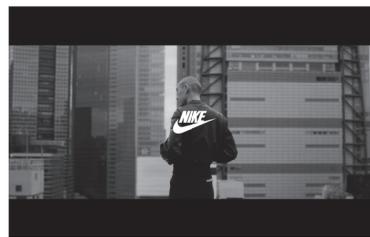
1984年生まれ。2008年武蔵野美術大学基礎デザイン学科在学中に株式会社TYMOTEを設立。2013年にクリエイティブアソシエーションCEKAIを設立。動的なデザインを軸に、モーショングラフィックスから実写映像監督、また、チームビルディング型のクリエイティブディレクションを得意とする。主な受賞歴に2014東京TDC賞、D&AD2015yellow pencil、NY ADC賞2015 goldなど。京都芸術大学客員教授。



小松 健 太 郎

プロデューサー

1985年生まれ。茨城県出身。2009年3月武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業。アートショップPOMY、モーフィングを経て、クリエイティブアソシエーションCEKAIに所属。主な仕事に「東京地下ラボby東京都下水道局」「Adobe Make it! Student Creative Day」等。クリエイティブとコミュニティを軸にしたプロデュースを行う。



CEKAI REEL 2019-2020 from CEKAI on Vimeo.

スペシャルインタビュー 2020 09

大学から社会への繋がり と デザイン・ラウンジ

人が集まる意味が変わる今、これからの働く場、教育の場はどうなっていくべきなのか。新しい場作り、新しいクリエイティブに挑戦し続けるクリエイティブアソシエーションCEKAI（以下、CEKAI）の加藤晃央氏（共同代表）、井口皓太氏（共同代表/映像デザイナー/クリエイティブディレクター）、小松健太郎氏（プロデューサー）より、お話を伺う。

「CEKAI」の成り立ちについて

●「CEKAI」の成り立ちについて、教えてください。

加藤： 2006年、僕が学生の頃に「モーフィング」という会社を作りました。フリーペーパー制作や展覧会の開催など、当時からムサビだけにこだわらず多様な美術大学の学生たちが学外で集まる場を作ろうと始めました。井口が作ったのは、当時、個で目立っていた人たちが集合独立してものづくりをしていく「TYMOTE（ティモテ）」という会社です。

TYMOTEは、モーフィングが運営した展覧会「THE SIX」が一つのきっかけで結成されていて、クリエイティブディレクションをやってくれた繋がりもありました。そこから二つの会社が有機的に絡み合い、並行して走っ



CEKAI オフィス1F



CEKAI WEB WORKS

ていました。それから、2013年に二人でこれまでそれぞれがやってきたことを融合・拡張させた「CEKAI」という新しいチームを京都に作りました。そこでは、クリエイティブの鋭利に切り開く力と、マネジメントの広く包む力を合流させ、新しいクリエイティブの環境自体を設計しようと考えました。

CEKAIには、クリエイションに直接関わる人と、サポートしたり円滑にプロデュースしたり、クリエイターのマネジメントをする人など、色々な人がいます。一つの組織や場所に100%コミットするというより、それぞれが多拠点、多事業、多所属をしながらフレキシブルに集まる場として始めました。

●デザイン制作だけではなく、クリエイティブの活動支援や社会連携的なプロジェクトにも多く取り組まれているのですね。受け入れる仕事の領域には、基準のようなものがあるのでしょうか？

加藤： いわゆるデザイン制作を行うものから、サービスデザインやコミュニティデザインなどコンセプトや仕組みなどのデザインを行うものまであります。「熱量、使命感を持ってやりたい人がいるかどうか」を重要視しています。誰もやりたい人がいないのに売り上げや関係性のためにやる、ということはほぼ無いです。その選択は経営的には苦しいですが、しっかり全員の意思が正しい基準で動いている証拠だと思っています。

井口： 「いいものを作る」が僕らのコンセプトです。学生の頃からここまでやってきて、それしか真実は無い

ぐらいに思っています。作る側は、いいものを作るなんて当たり前だと思うじゃないですか。しかし、どこかで言い訳するんです。「お金がなかった」「時間がなかった」とか「クライアントが分かってない」とか、たしかに良いものを作れない理由も世の中にはあるので。そんな中でも、良いものを作る一番の条件はエネルギーが満ちていることです。1人がとにかくこれを作りたい、みたいな思いがあればエネルギーはたまるので、条件が満ちていなくても良いものを作ることができます。

ただ、その属人的なエネルギーだけに頼らずに、スケジュールや座組を整理したり、ちゃんと環境を整えようと作ったのが、CEKAIという組織です。そのため、クリエイティブへのリスペクトがなかったり、誰が作っても良いんじゃないかと、エネルギーがたまっていかなそうな案件は直感的に断っているかもしれません。

CEKAIのオフィスについて。集まることの意味とは。

● CEKAIのオフィスについてお伺いします。

働き方や制作場所に合わせて自由にカスタマイズできる「村世界」と呼ばれる革新的なオフィスですが、着想のようなものはあったのでしょうか？

井口：あまり良い印象にならないかもしれませんが、「ドッグヴィル」という映画が着想にあります。ラース・フォン・トリアーという暗い雰囲気映画を作る監督の作品です。一つの小さな村に見立てた倉庫にグリッドが引いてあって、劇のように物語が進んでいくんです。建物や壁がなく、仕切りのない場所でみんなが演技するので、今ここで起きていることが、向こう側からは全然違うストーリーで見えて展開します。

僕らの業界も、お金の話と制作する側の話が、違う場所で起こることが多くあります。また、加藤と一緒にクリエイターが集まる場所を作って提供していたんですが、「どこかから場所を借りている」程度で自分事化されないということもありました。なので、ちゃんと自分の場所としてリアリティを持ってもらうために、自分達の場所を自分で作りながら、みんな近い距離でつながって



CEKAI オフィスB1

る、本当の村みたいなものを作ろうとしました。それが「村世界」です。

加藤：大学のアトリエや、展示のゾーニングの考え方もあります。均等に同じスペースを割り振るのではなく、大きい作品には大きく取るようなことです。アトリエでも、共有部にみんなが快適に過ごすために扇風機やガスコンロを持ってきたり、掃除ルールを決めて自治していく。良い場所もあれば、汚い場所もありますよね。ものづくりにおいては、画一的なルールよりもこういった設計のほうが重要だと思います。

● 新型コロナの影響で、学生たちが集まりづらい状況が続きます。

ご自身の体感なども合わせて、何か思うことはありますか？

井口：僕は京都の美術大学で教員をやっていて、今年は全てオンライン授業になりました。新生にとっては、まずは「この人どういう空気なんだろう」などのフィジカルな情報は重要ですが、その後に自分が動いていくときには、1か所に集まる必要はないと思います。分散しても授業は受けられるし、何となく情報があれば仲間とオンラインで繋がるすることができます。そういう意味では、「集まったり分散したりを繰り返す」とちょうど良いかもしれません。集まりすぎるとフレームができて固まっちゃうし、分散しすぎると情報が足りなくなってきました。僕らも、色んな人たちが集まる場を設計するのは今しかできないな、と思っていました。と言うのは、どのみち分散していく世の中になるから、事務所を点々と色々な場所に持つと良いんじゃないかと、新型コロナ関係なく

話していたんです。分散する前には必ず1回は集まる機会が必要で、ちゃんとコミュニケーションを取り、あいつはこうだとか、この人達が組むと面白いとか、そういうことを観測した上で分散しないと、ただ散っているだけになっちゃいますからね。

デザイン・ラウンジ、デザインハブでのCEKAIの活動について

● 2017年、モーフィングの手掛けるクリエイターのクレジットデータベース「BAUS（ハウス）」のプレス発表会をデザイン・ラウンジで開催しました。

サービスを開始した頃と現在と比べて、変化した点があれば教えてください。

加藤：ハウスは、もともと多様なチーム組成やマッチングを目指して始めましたが、プロフェッショナルが



BAUS プレス発表会：右から井口皓太氏（CEKAI）/
中村勇吾氏（tha ltd. WEBデザイナー）/長澤忠徳（本学学長）/
中前省吾氏（エイベックス・エンタテインメント株式会社）/
加藤晃央氏（CEKAI）（2017年）

チームを組んで大きなクリエイションを生む仕組みという意味では一年半くらい殻を破れずにいました。もう少し根本から整備しないとその領域にいけないだろうと、2019年春「個人の製作者情報をオープンにし、与信を作っていくクレジットデータベース」に変えました。雇用のあり方が変わる中、個人は何ができて、どういう人とつながり、今まで何をしてきたか、ポートフォリオサイトやSNSで見られるようになったと思われがちですが、まだ整備されていないのが実情です。そんな中で、クレジットやエンドロールのような、仕事に対する役割や実績の証明がないと、チーム組成が進まないのでは？というところから再びスタートしました。

● 2017年、デザインハブにて企画展「ハブとマンガース」を企画頂きました。

チームによるクリエイティブプロセスを紐解くことがコンセプトでしたが、企画側はいかがでしたか？

小松：僕は、プロジェクトマネジメントを担当しましたが、TYMOTEのものづくりを間近で見ました。TYMOTEは組織がフラットなこともあって、最初は打ち合わせをしても全然決まらず、かなり不安でした。しかし、アメーバのようにものが作られていく過程は新鮮で、メンバーがどんどんパスを回して、パスの回数が多くなるほど共通認識が生まれ、形ができていきました。まさに、セパレートさせないものづくりの手法でした。制作以外で言えば、デザイン・ラウンジという場所が魅力的でした。大学と社会の中間地点のような場所でありながら放課後の空間で、六本木のワーカールの人がよく会場に来てくれました。展示を見ること自体が、仕事の合間の体験として刺激を受けられるものだったんじゃないかなと思います。

井口：あの時の展示に参加した僕以外のグラフィックデザインをやっていたメンバーは、「ゲー・チョコキ・パー」というチームを作って、オリンピックのポスターなどを作っています。彼らは、円卓でやんや言いながら、どんどん足して作り上げるというスタイルでやっているんですが、それはまさにデザインハブでの展示で生み出した手法だったので、僕らにとって重要な機会になりました。

僕もピクトグラムを動かすオリピックの仕事をやらせてもらったり、それぞれの活動のハブとして交差点のような存在でした。

市ヶ谷へ移行後のデザイン・ラウンジの機能に思うこと

● 2020年12月にデザインハブ内の拠点を閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ移行します。六本木での情報発信拠点としての期間を経て、市ヶ谷は実際に社会を学びのフィールドとして捉えるイメージですが、今後の活動についてはどうでしょうか。

井口：「学生と社会の間」というものが大切だと思っています。僕も加藤も、大学3年生で急に就活して社会人になるのではなく、社会人か学生か分からないその延

長でやってきました。切り替わっていくことがもったいない場合もありますし、もう少し学生から社会の間のグラデーションが広がると良いと思います。

大学の機能自体も、これから変わってくるでしょうか。六本木から市ヶ谷に移り、放課後に立ち寄る場のような、近隣の会社の方など関係のある人が混じってきて、大学なのか社会なのか分からない空間を作っていけると良いかもしれません。

● デザイン・ラウンジにて様々な企画をご一緒させて頂きましたが、今回振り返ることで、CEKAIのチームによるクリエイティブの強さを改めて知ることができました。移転後も、市ヶ谷の場所の特性を活かしながら、美術大学の社会への繋がりを考え続けていこうと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。



東京ミッドタウン・デザインハブ
第70回企画展「ハブとマンガース」(2017年)



東京ミッドタウン・デザイン部
「ハブとマンガース」夜のギャラリーツアー
(2017年)

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
1	2012/3/24-25	パフォーマンス	六本木アートナイト2012「Mr. アートナイトTV」
2	2012/3/30-6/17	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ5周年記念/第33回企画展「信じられるデザイン」展
3	2012/3/30	式典	「武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ」オープニング式典
4	2012/4/9	イベント	第一回 ランチ会
5	2012/4/9-6/17	展示	武蔵野美術大学 学生アンケート「信じられるデザイン」とは
6	2012/4/18	トーク	PROVOKE デザイン・インフォマティックス・フォーラム2012 PROVOKE_00: Design x Informatics
7	2012/4/29-5/6	展示	企画展「信じられるデザイン」展 運動企画「ブチラボ！」
8	2012/5/11	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第1回 講師:原 研哉
9	2012/5/17	トーク	PROVOKE デザイン・インフォマティックス・フォーラム2012 PROVOKE_01: Creative x Leadership
10	2012/5/29	トーク	東京都高等学校美術工芸教育研究会講演会
11	2012/6/9	上映	武蔵野美術大学オープンキャンパス 授業ライブストリーム@六本木
12	2012/6/20	トーク	PROVOKE デザイン・インフォマティックス・フォーラム2012 PROVOKE_02: Augmented Experience
13	2012/6/22	ワークショップ	ガジャマダ大学×EDS「インドネシアの竹とゴムについて」
14	2012/6/29	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第2回 講師:深澤直人
15	2012/7/25	制作	デザイン・ラウンジウェブサイトローンチ
16	2012/7/27	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第3回 講師:勝井三雄
17	2012/7/18	トーク	PROVOKE デザイン・インフォマティックス・フォーラム2012 PROVOKE_03: Innovative Administration
18	2012/8/1	プレゼンテーション	合同授業【コンセプト・デザインング (#3)】公開プレゼンテーション
19	2012/8/8	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2012「絵の中の登場人物になってみよう！」
20	2012/8/9	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2012「粘土で宇宙人をつくろう」
21	2012/8/11	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2012「『プチプチ・タングル』で遊ぼう!!」
22	2012/9/21	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第4回 講師:芦原太郎
23	2012/9/19	勉強会	折詰め会 第1回
24	2012/10/5-11/4	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第36回企画展「ムサビのデザイン 武蔵野美術大学のデザインコレクションと教育」
25	2012/10/5-11/4	展示	ダイアグラム教育 太田徹也の教育の軌跡/明日を予測する情報のカタチとデザイン
26	2012/10/5	トーク	企画展「ムサビのデザイン」 オープニングイベント
27	2012/10/12	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第5回 講師:浅香 嵩
28	2012/10/16	トーク	企画展「ムサビのデザイン」 トークイベント1
29	2012/10/19	勉強会	折詰め会 第2回
30	2012/10/21	トーク	ダイアグラム教育 トークイベント 太田徹也と語る
31	2012/10/25	トーク	企画展「ムサビのデザイン」 トークイベント2
32	2012/11/4	トーク	企画展「ムサビのデザイン」 トークイベント@Tokyo Midtown DESIGN TOUCH Park Stage
33	2012/11/9-10	ワークショップ	「第4回 港区ものづくり商業観光フェア」にて産学共同プロジェクト「港区ミッドストリート」
34	2012/11/16	勉強会	折詰め会 第3回
35	2012/11/23-25	展示	GOOD DESIGN AWARD 武蔵野美術大学ブース内「デザイン・ラウンジ」
36	2012/11/27	トーク	第1回 太刀川英輔/NOSIGNERレクチャー+ワークショップシリーズ「デザインの文法——ひらめきを生み出す思考」
37	2012/11/30	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第6回 講師:外山雅暁
38	2012/11/30	ワークショップ	「日本のリブランディング」with 武蔵野美術大学 and Landor Associates 1
39	2012/12/4	勉強会	「港区ミッドストリート」報告会
40	2012/12/11	トーク	第2回 太刀川英輔/NOSIGNERレクチャー+ワークショップシリーズ「デザインの文法——ひらめきを生み出す思考」
41	2012/12/20	トーク	第3回 太刀川英輔/NOSIGNERレクチャー+ワークショップシリーズ「デザインの文法——ひらめきを生み出す思考」

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
本学デザイン情報学科 学生	本学デザイン情報学科研究室	本学デザイン情報学科研究室
-	デザインハブ	デザインハブ
山本隆志(東京ミッドタウン・マネジメント株式会社 取締役社長)/飯塚和憲(公益財団法人日本デザイン振興会 理事長)/勝井三雄(社団法人日本グラフィックデザイナー協会 会長)/甲田洋二(本学 学長)/井口博美(デザイン・ラウンジディレクター/本学デザイン情報学科教授)/原 研哉(デザイン・ラウンジVIデザイン担当/本学基礎デザイン学科 教授)/中島信也(本学校友会 会長)/heso/uwabami	-	本学法人企画室
日本デザイン振興会/日本グラフィックデザイナー協会	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
-	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
長瀬忠徳(本学デザイン情報学科 主任教授)/須永剛司(多摩美術大学情報デザイン学科 教授)/今泉 洋(本学デザイン情報学科 教授)/森山明子(本学デザイン情報学科 教授)	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
本学空間演出デザイン学科 学生/東村山市立南台小学校	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 本学空間演出デザイン学科
原 研哉(本学基礎デザイン学科 教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
James Auger(RCA デザインインタラクティブコース チューター)/田川欣哉(takram design engineering 代表)/江下就介(本学デザイン情報学科 准教授)	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
菱川勢一(本学基礎デザイン学科 教授)	東京都高等学校美術工芸教育研究会	東京都高等学校美術工芸教育研究会/ 本学教職課程研究室/ デザイン・ラウンジ
木下謙一(株式会社ラナデザインアソシエイツ 代表)/太田伸志(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナデザインアソシエイツ
竹中直純(本学デザイン情報学科 非常勤講師/株式会社ディジテイ・ミニミ 代表取締役)/菊地玄博(東京藝術大学大学院卒業/ユニバ株式会社 共同創設者)/白石 学(本学デザイン情報学科 准教授)	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
ブライトノ教授/菊地 宏(本学建築学科 准教授)/枝廣耕次/宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 主任教授)	本学基礎デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
深澤直人(本学基礎デザイン学科 教授/プロダクトデザイナー)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
制作協力:ラナエクストラクティブ	-	-
勝井三雄(社団法人日本グラフィックデザイナー協会理事/本学 名誉教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
加藤公敏(富士通デザイン 代表取締役社長)/牧野克己(日産自動車 グローバルデザイン本部 部長)/川田 学(ヤマハ デザイン研究所 所長)/井口博美(本学デザイン情報学科 教授)	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
東京工業大学 学生/本学 学生	東京工業大学/本学	本学デザイン情報学科研究室/ デザイン・ラウンジ
uwabami	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
A-net, Inc FINAL HOME/川上産業株式会社	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
芦原太郎(芦原太郎建築事務所 所長/社団法人日本建築家協会 会長)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
-	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館/本学造形研究センター
太田徹也(本学視覚伝達デザイン学科 非常勤講師)	デザイン・ラウンジ	武蔵野美術大学 美術館・図書館/ 本学視覚伝達デザイン学科研究室
廣村正彰(グラフィックデザイナー)/柏木 博(本学 教授)/松葉一清(本学 教授)/田中正之(武蔵野美術大学 美術館・図書館 館長)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館/本学造形研究センター
浅香 嵩(公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会 理事長/有限会社デザインスタジオトライブフォーム 代表)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
勝井三雄(本学 名誉教授)/島崎 信(本学 名誉教授)/柏木 博(本学 教授)/田中正之(武蔵野美術大学 美術館・図書館 館長)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館/本学造形研究センター
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
太田徹也(本学視覚伝達デザイン学科 非常勤講師)	本学視覚伝達デザイン学科研究室	武蔵野美術大学 美術館・図書館/ デザイン・ラウンジ
南條史生(森美術館 館長)/高木美香(経済産業省通商政策局)/柏木 博(本学 教授)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館/本学造形研究センター
桐山登土樹(株式会社TRUNK 代表取締役/クリエイティブ・ディレクター)/長瀬 忠徳(本学デザイン情報学科 主任教授)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館/本学造形研究センター
大嶋奈都子(イラストレーター/作家/本学視覚伝達デザイン学科 大学院修了)/カミムラ ナオコ(フォトグラファー/作家/本学視覚伝達デザイン学科 卒業)	港区商店街連合会	港区商店街連合会/デザイン・ラウンジ/ 本学視覚伝達デザイン学科研究室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
-	本学研究支援センター	本学研究支援センター
太刀川英輔(デザインアーキテクト/NOSIGNER 代表)/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)	本学建築学科研究室	本学建築学科研究室 (編集者/デザインコミュニケーター)
外山雅暁(経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課 デザイン政策室 室長補佐)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
大島由久(ランドーアソシエイツ シニア・デザイナー・ディレクター)/ランドー東京	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
六本木商店街振興組合	デザイン・ラウンジ	港区商店街連合会/デザイン・ラウンジ/ 本学視覚伝達デザイン学科研究室
太刀川英輔(デザインアーキテクト/NOSIGNER 代表)/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/飯田 彩 (編集者/デザインコミュニケーター)
太刀川英輔(デザインアーキテクト/NOSIGNER 代表)/川村真司(クリエイティブ・ディレクター/ファウンダー)/川上 俊(アートディレクター/デザイナー/アーティスト)/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/飯田 彩 (編集者/デザインコミュニケーター)

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
42	2012/12/21	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第7回 講師：田村 大
43	2012/12/13	勉強会	折詰め会 第4回
44	2013/1/11	ワークショップ	産学協同プロジェクト：笠間市トータル連携デザインプロジェクト 1
45	2013/1/18	ワークショップ	産学協同プロジェクト：笠間市トータル連携デザインプロジェクト 2
46	2013/1/18	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2012 第8回 講師：河合淳也
47	2013/1/23	勉強会	「港区ミッドストリート」良作品選考会
48	2013/1/25	勉強会	折詰め会 第5回
49	2013/1/25	ワークショップ	「日本のリブランディング」with 武蔵野美術大学 and Landor Associates 2
50	2013/1/30	トーク	第4回 太刀川英輔／NOSIGNER レクチャー＋ワークショップシリーズ「デザインの文法——ひらめきを生み出す思考」
51	2013/2/1	トーク	「いのちー From Fukushima to Our Future」上映会&トークイベント
52	2013/2/14	トーク	第5回 太刀川英輔／NOSIGNER レクチャー＋ワークショップシリーズ「デザインの文法——ひらめきを生み出す思考」
53	2013/2/26	ワークショップ	「日本のリブランディング」with 武蔵野美術大学 and Landor Associates 3
54	2013/2/26	トーク	第6回 太刀川英輔／NOSIGNER レクチャー＋ワークショップシリーズ「デザインの文法——ひらめきを生み出す思考」
55	2013/2/27	勉強会	折詰め会 第6回
56	2013/3/13	勉強会	折詰め会 第7回
57	2013/3/19	上映	武蔵野美術大学 平成24年度卒業式生配信
58	2013/3/23	パフォーマンス	六本木アートナイト2013「環境も、自分も、アートになる」
59	2013/3/26-30	ワークショップ	FIRST合原プロジェクト with ムサビ生 in デザインハブ
60	2013/4/12-5/12	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第39回企画展「()も()も()も展 ～デザインとまなざし～」
61	2013/4/18	トーク	第1回 デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 面白法人カヤックにまつわるアイデアの話
62	2013/4/19	勉強会	折詰め会 第8回
63	2013/5/10	トーク	PROVOKE デザイン・インフォマティクス・フォーラム 2013: サービスデザインの価値
64	2013/5/14	イベント	ラウンジランチ2013
65	2013/5/15	トーク	第2回 デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 面白法人カヤックにまつわるアイデアの話
66	2013/5/18-5/23	展示	赤城乳業(株)×武蔵野美術大学「アイスドリームプロジェクト 活動報告展」
67	2013/5/23	勉強会	折詰め会 第9回
68	2013/5/24	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2013 第1回 講師：宮沢功
69	2013/5/29	ワークショップ	第1回 {SMART <(?)>} を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ
70	2013/6/6	プレゼンテーション	プリチストン「ライフタイムデザイン」戦略研究プロジェクト 学外プレゼンテーション
71	2013/6/14	勉強会	折詰め会 第10回
72	2013/6/14	研究会	第1回「CMFデザインの人材育成に関する調査研究」定例会
73	2013/6/19	トーク	第3回 デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 面白法人カヤックにまつわるアイデアの話
74	2013/6/21	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2013 第2回 講師：國重 健
75	2013/6/22	研究会	「Japan's Re-Branding」第一回 学生とのプロジェクト研究セッション
76	2013/6/25-6/27	展示	ミミクリー - 新しいごっこ遊び-
77	2013/6/26	イベント	公開講評：ミミクリー - 新しいごっこ遊び-
78	2013/6/28	式典	武蔵野美術大学×東京工業大学 協定締結式
79	2013/6/29	研究会	「Japan's Re-Branding」第二回 学生とのプロジェクト研究セッション
80	2013/6/30	イベント	三嶋先生ありがとう!の会 ～あやしげ たのしげ 感謝祭～
81	2013/7/3	ワークショップ	第2回 {SMART <(?)>} を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ
82	2013/7/5	プレゼンテーション	Ex-formation [SEOUL TOKYO]
83	2013/7/10	研究会	「Japan's Re-Branding」第三回 学生とのプロジェクト研究セッション
84	2013/7/12	勉強会	折詰め会 第11回
85	2013/7/17	トーク	第4回 デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 面白法人カヤックにまつわるアイデアの話
86	2013/7/19	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2013 第3回 講師：山田晃三
87	2013/7/26	イベント	MIZUNO キックオフオリエンテーション
88	2013/8/1	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2013「自分が描いたキャラクターで科学を体験してみよう」

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
田村 大(東京大学i.school ディレクター/株式会社博報堂イノベーションラボ 上席研究員/一般社団法人Maru協会 代表理事)	デザイン・ラウンジ	本研究支援センター
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
笠間市役所/本学基礎デザイン学科 学生	本学基礎デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
笠間市役所/本学基礎デザイン学科 学生	本学基礎デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
河合淳也(三井不動産株式会社 柏の葉キャンパスシティブロジェクト推進部 部長)	デザイン・ラウンジ	本研究支援センター
六本木商店街振興組合	デザイン・ラウンジ	港区商店街連合会/デザイン・ラウンジ/本学視覚伝達デザイン学科研究室
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
大島由久(ランドーアソシエイツ シニア・デザイナー・ディレクター)/ランドー東京	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
太刀川英輔(デザイナーアーキテクト/NOSIGNER 代表)/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)
監督：林 勝彦(元NHKプロデューサー/科学ジャーナリスト塾長)/佐藤 聡(Link with ふくしま)/吉本 涼(After 3.11 Film Festival 代表)	After 3.11 Film Festival 事務局	デザイン・ラウンジ/本学映像学科/Link With ふくしま
太刀川英輔(デザイナーアーキテクト/NOSIGNER 代表)/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)
大島由久(ランドーアソシエイツ シニア・デザイナー・ディレクター)/ランドー東京	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
太刀川英輔(デザイナーアーキテクト/NOSIGNER 代表)/田中陽明(クリエイティブファシリテーター/春蔭プロジェクト 代表取締役)/猪熊 純(建築家/首都大学東京 助教)/成瀬友梨(建築家/東京大学助教)/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/飯田 彩(編集者/デザインコミュニケーター)
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
-	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
本学映像学科 学生	本学映像学科研究室/デザイン・ラウンジ	本学映像学科 クリストフ・シャルル/小柳淳嗣/谷口暁彦/JOU
木本圭子(合原最先端数理モデルプロジェクト技術員/本学視覚伝達デザイン学科 非常勤講師)/川上 博(徳島大学名誉教授/合原最先端数理モデルプロジェクトアドバイザー)/関川宗久(東京大学生産技術研究所特任助教)/勝井三雄(本学 名誉教授)/本学視覚伝達デザイン学科学生を中心に12名程度	本学視覚伝達デザイン学科研究室(担当:寺山祐策/古堅真彦/大原崇嘉)	FIRST合原最先端数理モデルプロジェクト/デザイン・ラウンジ
-	デザインハブ	-
秀 貞哉(トラフ建築設計事務所)/松田 壮(エンジニア)/佐藤ねじ(デザイナー)/石島吉一(いえつく)/長谷川哲士(コピーライター)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
ビルギット・マーガー(ケルン国際デザイン大学 教授)	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
日本デザイン振興会/日本グラフィックデザイナー協会	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
江渡 浩一郎(メディアアーティスト/研究者)/堀江達矢(チームラボ エンジニア)/橋 俊明(面白法人カヤック 企画部)/後藤あゆみ(MUGENUP 企画/デザイン)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
-	本学視覚伝達デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
宮沢 功(環境デザイナー/公益社団法人日本サインデザイン協会 常任理事/都市環境デザイン会議 会員/ヨシモトボール株式会社 顧問)	デザイン・ラウンジ	本研究支援センター
太田伸志(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)/渡辺英暁(株式会社ラナエクストラクティブ プロデューサー)	デザイン・ラウンジ/株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ
プリチストン デザイン部	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
相野谷威雄(首都大学東京システムデザイン学部 助教)/赤木重文(一般社団法人日本色彩研究所 常務理事/日本大学芸術学部 非常勤講師)/玉井美由紀(株式会社FEEL GOOD creation 代表取締役社長/クリエイティブディレクター)/井口博美(代表者/本学デザイン情報学科 教授)/事務局スタッフ：稲木 太/デザイン・ラウンジ スタッフ(山下 亮/加倉井美香/吉田舞衣)	CMFデザインの人材育成に関する調査研究	デザイン・ラウンジ
羽坂譲人(ORIGAMI INC. デザイナー)/中農 稔/安藤幸央/高橋博之/林真由美	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
國重 健(トヨタ自動車株式会社デザイン本部グローバルデザイン企画部 主査)	デザイン・ラウンジ	本研究支援センター
大島由久(ランドーアソシエイツ シニア・デザイナー・ディレクター)/本学デザイン情報学科井口博美ゼミ 学生有志	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
本学映像学科3年生のメディアアートIIの授業受講者	本学映像学科研究室	デザイン・ラウンジ
本学映像学科3年生のメディアアートIIの授業受講者	本学映像学科研究室	デザイン・ラウンジ
-	本学法人企画室	デザイン・ラウンジ
大島由久(ランドーアソシエイツ シニア・デザイナー・ディレクター)/本学デザイン情報学科 井口博美ゼミ 学生有志	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
-	本学視覚伝達デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
太田伸志(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)/秋山 洋(株式会社ラナエクストラクティブ アートディレクター)	デザイン・ラウンジ/株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ
韓国芸術総合大学/本学基礎デザイン学科 原 研哉ゼミ	本学基礎デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
ランドーアソシエイツ プロジェクトメンバー/本学デザイン情報学科井口博美ゼミ 学生有志	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
石山貴広(株式会社シロク 取締役/CCO、My365 UI/UX デザイナー)/長谷川哲士(面白法人カヤックコピー部)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
山田晃三(株式会社GKデザイン 機構 代表取締役社長)	デザイン・ラウンジ	本研究支援センター
-	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
リコー	デザインハブ	デザイン・ラウンジ

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
89	2013/8/2	プレゼンテーション	東京工業大学との合同ワークショップ「コンセプト・デザイン」公開プレゼンテーション
90	2013/8/3-8/9	その他	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク 学生インターンシップ
91	2013/8/3	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2013「[LEDで遊ぶ!」ワークショップ
92	2013/8/4	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2013「むにゅであそぼう! &ふわふわぬいぐるみをつくろう!」
93	2013/8/7	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2013「くらやみで光る絵の具をつかってアートをつくろう」
94	2013/8/9	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2013「こんないきものいたらおもしろい! 粘土で不思議な生き物をつくろう」
95	2013/8/15	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS デザイン&アートで遊ぼう!「ブチブチ・タングル™ であそぼう!」
96	2013/8/19	トーク	講演会「メキシコの現代アニメーション事情 SAE-INSTITUTE」
97	2013/8/28	勉強会	折詰め会 第12回
98	2013/8/30	ワークショップ	平野甲賀ワークショップ1
99	2013/9/4	ワークショップ	第3回「SMART <(?)」を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ
100	2013/9/13	イベント	Rebranding Japan ボーディングセレモニー
101	2013/9/18	トーク	第5回 デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 面白法人カヤックにまつわるアイデアの話
102	2013/9/24	上映	デザイン教育を考えるーコンテンツからコンテクストへ
103	2013/9/25	研究会	第2回「CMFデザインの人材育成に関する調査研究」定例会
104	2013/9/26	ワークショップ	平野甲賀ワークショップ2
105	2013/9/27	勉強会	折詰め会 第13回
106	2013/10/23	勉強会	折詰め会 第14回
107	2013/10/30	プレゼンテーション	グッドなデザイン・ラウンジ2013「本田産学最終プレゼン」
108	2013/10/31	プレゼンテーション	学生による産学プロジェクトプレゼンテーション@グッドデザインエキシビション2013
109	2013/10/31-11/1	展示	グッドなデザイン・ラウンジ2013「産学共同プロジェクト展示」
110	2013/11/1	ワークショップ	グッドなデザイン・ラウンジ2013「[SMART <(?)」を、考えよう。研究会with ラナエクストラクティブ 特別版」
111	2013/11/2	トーク	グッドなデザイン・ラウンジ2013「折詰め会 拡大版 -デザイン学科で学んだことは何?」
112	2013/11/2	ワークショップ	グッドなデザイン・ラウンジ2013「パズルワールドを作ろう!」
113	2013/11/3	トーク	グッドなデザイン・ラウンジ2013「これもデザインなの?」
114	2013/11/3	トーク	グッドなデザイン・ラウンジ2013「サービスをデザインする」
115	2013/11/4	トーク	グッドなデザイン・ラウンジ2013「デザイナー平野甲賀とフォトグラファー平野太呂 ーふたりのはなしを聞こうー」
116	2013/11/15	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2013 第4回 講師: 片山正通
117	2013/11/20-12/25	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第43回企画展「これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形」
118	2013/11/20	イベント	企画展『これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形」オープニングレセプション
119	2013/11/22	勉強会	折詰め会 第15回
120	2013/11/29	トーク	企画展『これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形」トークイベント「ライフスタイルとものづくり」
121	2013/12/4	プレゼンテーション	MIZUNO「キッズ・エンジョイ・スポーツプロジェクト」最終プレゼンテーション
122	2013/12/13	トーク	企画展『これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形」トークイベント「インハウスデザイナーが語る 思考/視点/体験の広がり」
123	2013/12/17	勉強会	第3回「CMFデザインの人材育成に関する調査研究」定例会
124	2013/12/20	トーク	企画展『これからの「くらし」、これからの「かたち」ークラフトとデザインの総合と未来形」トークイベント「大学と社会をつなぐものづくり」コンペティションと産学連携
125	2014/1/8	勉強会	折詰め会 第16回
126	2014/1/10	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2013 第5回 講師: 柴田文江

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
東京工業大学 学生/本学 学生	本学/東京工業大学サイエンス&アート Lab Creative Flow (野原研究室)/ものづくり教育研究支援センター	本学デザイン情報学科研究室/デザイン・ラウンジ
本学芸術文化学科 学生1名	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
柳澤知明+KIMURA	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
ゆにここ(現代美術作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
ウィープラス	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
A-net Inc. FINAL HOME/川上産業株式会社/ブチブチ文化研究所/デザインハブ	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
フランシスコ・アマヤ(SAE-INSTITUTE 学長)/クワウテモック・センチース(アニメ・ウェッブ・ビデオゲーム学部長)/ロドリゴ・ムニョス(デジタルアニメーション学部長)/土居伸彰(日本アニメーション学会 国際交流担当理事)/陣内利博(本学視覚伝達デザイン学科 教授)	本学視覚伝達デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
平野甲賀(グラフィックデザイナー/装丁家/1961年武蔵野美術学校 卒)	武蔵野美術大学 美術館・図書館	デザイン・ラウンジ
太田伸志(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)/小山田瑞斎(株式会社ラナエクストラクティブ アカウントマネージャー)	デザイン・ラウンジ/ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ
-	デザイン・ラウンジ/ランドー東京	デザイン・ラウンジ
風間瑛絵(株式会社IMJ 内定者)/神蔵麻鈴(株式会社セブテニ クリエイティブ 入社1年目)/金枝菜美子(株式会社MUGENUP アートディレクター 入社1年目)/横山千裕(面白法人カヤック意匠 入社1年目)/高橋春美(面白法人カヤック意匠 入社1年目)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
ウタ・ブランドス(ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン 教授)/ミハエル・エルホフ(ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン 創設者/教授[1991-2012])/長澤忠徳(本学デザイン情報学科 教授)/小林昭世(本学基礎デザイン学科 教授)	グローバル人材育成推進事業	グローバル人材育成推進事業
相野谷威雄(首都大学東京システムデザイン学部 助教)/赤木重文(一般社団法人日本色彩研究所 常務理事/日本大学芸術学部 非常勤講師)/玉井美由紀(株式会社FEEL GOOD creation 代表取締役社長/クリエイティブディレクター)井口博美(代表者/本学デザイン情報学科 教授)/事務局スタッフ: 稲木 太/デザイン・ラウンジスタッフ(山下 亮/加倉井美香/吉田舞衣)	CMFデザインの人材育成に関する調査研究	デザイン・ラウンジ
平野甲賀(グラフィックデザイナー/装丁家/1961年武蔵野美術学校 卒)	武蔵野美術大学 美術館・図書館	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
本田技研/本学工芸工業デザイン学科/長岡造形大学	本学研究支援センター	本学研究支援センター
本学視覚伝達デザイン学科研究室/赤城乳業	本学研究支援センター	本学視覚伝達デザイン学科研究室/赤城乳業/デザイン・ラウンジ
-	本学研究支援センター	本学視覚伝達デザイン学科研究室/本学工芸工業デザイン学科研究室/デザイン・ラウンジ
太田伸志(ラナエクストラクティブプランナー)/no.9(作曲家・サウンドデザイナー)/岡田丈(イラストレーター)	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/株式会社ラナエクストラクティブ
佐久間奈々恵(富士フィルム株式会社 デザイナー)/松林景子(富士ゼロックス株式会社 デザイナー)/小池 峻(富士通デザイン株式会社/デザイナー・リサーチャー)	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/折詰め会
A-net Inc. FINAL HOME	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/A-net Inc. FINAL HOME
羽鳥達也(東京都市大学建築学科 非常勤講師)/白井隆志(アーティスト・イン・児童館)プログラムディレクター)/中川隆太郎(弁護士)/山本千織(料理人)	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/ももも中: 橋詰 宗(アートディレクター)、江口宏志(ブックショップ「UTRECHT」代表)、元木大輔(Daisuke Motogi Architecture/本学 非常勤講師)、飯田将平(デザイナー)
篠田哲郎(Gift Your Time 代表)/草薙洋平(株式会社東京ピストル 代表取締役)/MC MAMUSHI(バスケットボール・アナウンサー)/田和晃一郎(株式会社TIMERS COO)	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/株式会社モーフィング
平野太呂(フォトグラファー)/平野甲賀(グラフィックデザイナー/装丁家)	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/武蔵野美術大学 美術館・図書館
片山正通(本学空間演出デザイン学科 教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室
本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室	本学	デザイン・ラウンジ/本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
岩佐十良(株式会社自遊人 代表)/山田佳一郎(プロダクトデザイナー)/高瀬季里子(プロダクトデザイナー)/西川 聡(本学工芸工業デザイン学科 教授)	本学	デザイン・ラウンジ/本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室
ミズノ株式会社	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
河津雅彦(ダイハツ工業株式会社 上級執行役員)/本田純子(株式会社川島織物セルコン商品開発部/川島美術織物研究所 主任デザイナー)/稲田真一(本学工芸工業デザイン学科 教授)	本学	デザイン・ラウンジ/本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室
相野谷威雄助教授(首都大学東京システムデザイン学部)/赤木重文(一般社団法人日本色彩研究所/常務理事、日本大学芸術学部 非常勤講師)/玉井美由紀(株式会社FEEL GOOD creation/代表取締役社長/クリエイティブディレクター)/井口博美(本学デザイン情報学科 教授)	CMFデザインの人材育成に関する調査研究	デザイン・ラウンジ
名見耶秀美(アッシュコンセプト 代表取締役)/下川一哉(日経デザイン編集長)/石橋勝利(Axis編集長)/中原俊三郎(本学工芸工業デザイン学科 教授)	本学	デザイン・ラウンジ/本学工業工芸デザイン学科研究室/本学芸術文化学科研究室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
柴田文江(Design Studio S 代表/プロダクトデザイナー)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
127	2014/1/22	ワークショップ	アートで届けるプレゼント：【大学生限定】『我が子をイテイルデビューさせるまで』人の心を掴むキャラクターのコンセプト設計/デザインを知るワークショップ
128	2014/1/29	プレゼンテーション	MAU PRESENTATION AT D-LOUNGE
129	2014/1/29	トーク	第1回デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 2nd シーズン面白法人カヤック流バズるアイデアの話
130	2014/2/5	ワークショップ	アートで届けるプレゼント：【大学生限定】『ゲームにかける魔法』ゲームにおける演出技術の可能性についてのレクチャー。ゲーム演出を体験できるワークショップ。
131	2014/2/17-2/21	ワークショップ	ムサビ x ヤフー主催『Hack U at 武蔵野美術大学』
132	2014/2/19	トーク	アートで届けるプレゼント：大学生限定『来場者 1000万人のギャラリー』
133	2014/2/24-2/25	トーク	Go Global Japan (文部科学省採択事業) グローバル・デザイン教育フォーラム2014 東京・グローバル・デザイン教育ファカルティの創成にむけて-
134	2014/2/26	トーク	第2回デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 2nd シーズン面白法人カヤック流バズるアイデアの話
135	2014/2/28	勉強会	折詰め会 第17回
136	2014/3/12	ワークショップ	第4回【SMART <(?)>】を、考えよう。研究会 with ラナエクストラクティブ
137	2014/3/13	ワークショップ	“こどもOS”をモノづくりに活かす！『プレイフル・デザイン・カード』を使ったデザイン発想ワークショップ
138	2014/3/26	ワークショップ	第3回デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 2nd シーズン面白法人カヤック流バズるアイデアの話
139	2014/3/26	プレゼンテーション	YAMAHA x 武蔵野美術大学 産学協同プロジェクト：最終プレゼンテーション
140	2014/3/27	勉強会	折詰め会 第18回
141	2014/4/4-5/11	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ 第45回企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」
142	2014/4/6	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
143	2014/4/9	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
144	2014/4/11	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
145	2014/4/18	勉強会	折詰め会 第19回
146	2014/4/19	イベント	六本木アートナイト2014「とりじんあんさんぶる Art'nigh Torijin!!!」
147	2014/4/25	イベント	ラウンジランチ2014
148	2014/4/25	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
149	2014/4/26	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
150	2014/4/27	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
151	2014/4/29	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
152	2014/4/30	ワークショップ	第4回デザイン・ラウンジのアイデア・ラウンジ 2nd シーズン面白法人カヤック流バズるアイデアの話
153	2014/5/2	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
154	2014/5/7	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
155	2014/5/10	トーク	企画展「デザインパトーンズ～未来のデザインをおもしろくする人たち～」トークセッション
156	2014/5/12	イベント	「オオハラ・コンテンツラリー・アット・ムサビ」プレスカンファレンス
157	2014/5/16	勉強会	折詰め会 第20回
158	2014/6/5	プレゼンテーション	東京ミッドタウン【MIDTOWN ♥ SUMMER 2014】キッズプログラムでの学生イベント募集 プレゼンテーション
159	2014/6/6	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2014 第1回 講師：梅原 真
160	2014/6/12	プレゼンテーション	「ライフタイムデザイン」戦略研究 最終プレゼンテーション
161	2014/6/12	ワークショップ	第1回 てがきかく会 with ラナエクストラクティブ
162	2014/6/16	イベント	川崎市立川崎総合科学高等学校 説明会 at Tokyo Midtown Design Hub
163	2014/6/20	勉強会	折詰め会 第21回
164	2014/6/26	イベント	台北市立中正高級中学 デザインハブ見学会
165	2014/7/1-7/4	展示	そこにある0
166	2014/7/2	イベント	そこにある0 -公開講評-
167	2014/7/16	勉強会	折詰め会 第22回
168	2014/7/17	ワークショップ	第1回 なぜならワークショップ with ラナエクストラクティブ
169	2014/7/18	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2014 第2回 講師：萩原 富三郎
170	2014/7/25	イベント	とうようズ・テイ2014 中村とうようコレクションで聞くSP時代のアメリカ音楽
171	2014/7/28-8/1	ワークショップ	東京工業大学 合同ワークショップ「コンセプト・デザインング」
172	2014/7/31	プレゼンテーション	視覚伝達デザイン学科「情報デザイン」プレゼンテーション
173	2014/8/4	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2014「3Dペンをつかって空中に絵をかこう」
174	2014/8/8	イベント	同済大学、上海理工大学、江南大学設計学院 説明会 at 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
多摩美術大学 油画専攻 出身 2D デザイナー	デザイン・ラウンジ/株式会社コプロ	デザイン・ラウンジ/株式会社コプロ
東京ミッドタウンマネジメント	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
BUTCH (プロガー/通称・ビッグウェーブ男)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
ファインアート (絵画) 出身 3D デザイナー	デザイン・ラウンジ/株式会社コプロ	デザイン・ラウンジ/株式会社コプロ
ヤフー株式会社	デザイン・ラウンジ/ヤフー株式会社	デザイン・ラウンジ/ヤフー株式会社
森一哲 (プロデューサー)	デザイン・ラウンジ/株式会社コプロ	デザイン・ラウンジ/株式会社コプロ
Prof. Philipp Heidkamp (Köln International School of Design) / Mr. Nicholas Rhodes (Central Saint Martins college of Art and Design University of the Arts London) / Mr. Venka Purushothaman (LASALLE College of the Arts) / Prof. Wan-Ru Chou (Shih Chien University) / 長澤忠徳 (本学デザイン情報学科 教授) / 今泉 洋 (本学デザイン情報学科 教授)	本学	本学
植村啓一 (Senior Creative Director・Content Development)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
太田伸志 (株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター) / 秋山裕太 (株式会社ディーイーシー・マネージメントオフィス クリエイティブディレクター)	デザイン・ラウンジ / 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/株式会社ラナエクストラクティブ
川本誓文 (大阪府産業デザインセンター 主任研究員/キッズデザイン協議会こどもOS研究会リーダー) / こどもOS研究会 メンバー	デザイン・ラウンジ/特定非営利活動法人キッズデザイン協議会	デザイン・ラウンジ/特定非営利活動法人キッズデザイン協議会
松村礼央 (karakuri products 代表/東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
ヤマハ株式会社 デザイン研究所	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
青木克憲 (クリエイティブディレクター・アートディレクター) / 伊藤総研 (編集者/クリエイティブディレクター)	デザインハブ	デザインハブ
田川欣哉 (takram design engineering 代表/デザインエンジニア) / 牛込陽介 (クリティカルデザイナー / Superflux アソシエイト)	デザインハブ	デザインハブ
内田伸哉 (ヤフー株式会社 クリエイティブマネージャー) / 橋田和明 (博報堂ケトル キャンペーンプランナー・ストラテジックプランナー)	デザインハブ	デザインハブ
田中良治 (セミトランスベアレント・デザイン 代表取締役/アートディレクター / ウェブデザイナー) / 佐藤 寛 (デザイナー/アートディレクター)	デザインハブ	デザインハブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
とりじんあんさんぶる	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
日本デザイン振興会 / 日本グラフィックデザイナー協会 / 東京ミッドタウン・マネジメント	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
中村洋基 (クリエイティブディレクター) / 千原けん輔 (アーティスト / プログラマー / Webディレクター)	デザインハブ	デザインハブ
鈴木康広 (本学空間演出デザイン学科 専任講師) / 狩野祐真 (デザイナー)	デザインハブ	デザインハブ
植原亮輔 (アートディレクター) / 阿部海太郎 (作曲家 / 音楽家)	デザインハブ	デザインハブ
谷尻 誠 (穴吹デザイン専門学校特任講師 / 広島女学院大学客員教授) / 山口一郎 (ミュージシャン)	デザインハブ	デザインハブ
渡辺 淳 (ヤフー株式会社 COO 事業推進本部編成部)	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック	デザイン・ラウンジ/面白法人カヤック
ムラカミカイエ (アートディレクター/クリエイティブディレクター) / 小浪次郎 (フォトグラファー)	デザインハブ	デザインハブ
齋藤精一 (アーティスト/クリエイティブ&テクニカル・ディレクター) / 谷川英司 (ディレクター)	デザインハブ	デザインハブ
渋谷慶一郎 (音楽家) / 郡司和也 (メディアアーティスト)	デザインハブ	デザインハブ
柳沢秀行 (大原美術館学芸課長) / ヤノベケンジ (京都造形芸術大学ウルトラファクトリーディレクター) / 甲田洋二 (本学 学長) / 田中正之 (武蔵野美術大学 美術館・図書館館長) / 杉浦幸子 (本学芸術文化学科 准教授)	本学	武蔵野美術大学 美術館・図書館
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
本学 学生 / 東京ミッドタウンマネジメントタウンマネジメント部 プロモーショングループ	デザイン・ラウンジ / 東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
梅原 真 (デザイナー / 本学基礎デザイン学科 客員教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
株式会社ブリヂストン	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ
太田伸志 (株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)	デザイン・ラウンジ / 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ / 株式会社ラナエクストラクティブ
千羽一郎 (本学法人企画室) / 工藤千佳 (日本グラフィックデザイナー協会)	デザイン・ラウンジ	デザインハブ
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
Zhong-zheng Senior High School	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
本学映像学科3年生のメディアアートIIの授業受講者	本学映像学科研究室	デザイン・ラウンジ
本学映像学科3年生のメディアアートIIの授業受講者	本学映像学科研究室	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
太田伸志 (株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)	デザイン・ラウンジ / 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ / 株式会社ラナエクストラクティブ
萩原富三郎 (くらしの良品研究所 コーディネーター)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
萩原健太 (音楽評論家) / 田中勝則 (音楽評論家)	とうようズ・テイ実行委員会	武蔵野美術大学 美術館・図書館 / とうようズ・テイ実行委員会
東京工業大学 学生 / 本学 学生	本学 / 東京工業大学サイエンス&アート Lab Creative Flow / ものづくり教育研究支援センター	デザイン・ラウンジ / 本学研究支援センター
ヤフー株式会社	本学視覚伝達デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
ナカバヤシ株式会社	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
同校 教員、デザイン系学生 / 桐山登士樹 (株式会社TRUNK 代表) / 小林幹也 (デザイナー)	桐山登士樹 (株式会社TRUNK 代表)	デザイン・ラウンジ

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
175	2014/8/9	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2014「集まれ、ヒーロー！粘土で正義のヒーローをつくろう」
176	2014/8/10	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2014「むにゅであそんで、ふわふわぬいぐるみをつくろう！」
177	2014/8/11	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏【ムシコロ ～作ろう！ My虫 My図鑑～】
178	2014/8/13	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏【日本ごしごし水族館 ごすりだしてカラフルなおさかなをつくろう！】
179	2014/8/29-9/28	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第47回企画展「本・ことば・デザイン」展
180	2014/8/29	勉強会	折詰め会 第23回
181	2014/9/26	勉強会	折詰め会 第24回
182	2014/10/3	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2014 第3回 講師：宮島慎吾
183	2014/10/17	ワークショップ	第2回 てがきかく会 with ラナエクストラクティブ
184	2014/10/24	勉強会	折詰め会 第25回
185	2014/10/31-11/4	展示	GOODなDESIGN LOUNGE「2013年度武蔵野美術大学産学共同プロジェクト成果展示」
186	2014/11/1	ワークショップ	GOODなDESIGN LOUNGE「親子でSNSでつかえるスタンプをつくろう！ with ラナエクストラクティブ」
187	2014/11/1-11/2	イベント	GOODなDESIGN LOUNGE「あいさつランデブー」
188	2014/11/2	ワークショップ	GOODなDESIGN LOUNGE「パズルワールドであそぼう！」
189	2014/11/2	勉強会	GOODなDESIGN LOUNGE「たまびよりの「美大ってなんだろ。」」
190	2014/11/3	ワークショップ	GOODなDESIGN LOUNGE「折詰め会 拡大版 -クリスマスオーナメントを、つくってかざろう！-」
191	2014/11/3	ワークショップ	GOODなDESIGN LOUNGE「インタラクションをデザインする」
192	2014/11/4	トーク	GOODなDESIGN LOUNGE「“ライフデザイン研究”からみるデザインのヒント～生活環境の多様化とデザイン～」
193	2014/11/12	トーク	サービスデザインの教室：第1回「サービスデザインとは何か？」
194	2014/11/14	ワークショップ	第2回 なぜならワークショップ with ラナエクストラクティブ
195	2014/11/19	勉強会	折詰め会 第26回
196	2014/11/21-12/25	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第49回企画展「いろは展」
197	2014/11/26	ワークショップ	第1回 Design KAIZEN Lounge
198	2014/11/28	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2014 第4回 講師：森 雅志
199	2014/11/30	トーク	企画展「いろは展」いろは展トークイベント「第一回 記憶のめぐり方」
200	2014/12/3	ワークショップ	第2回 Design KAIZEN Lounge
201	2014/12/6	トーク	企画展「いろは展」いろは展トークイベント「第二回 ファッションとグラフィックデザインについて」
202	2014/12/10	ワークショップ	第3回 Design KAIZEN Lounge
203	2014/12/12	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」2014 第5回 講師：小泉 誠
204	2014/12/13	トーク	企画展「いろは展」いろは展トークイベント「第二回 ショップができるまでの「いろは」～片山ゼミワークショップを振り返って～」
205	2014/12/17	ワークショップ	第4回 Design KAIZEN Lounge
206	2014/12/19	勉強会	折詰め会 第27回
207	2014/12/19	その他	TOKYO FM「Tokyo Midtown presents The Lifestyle MUSEUM」
208	2014/12/20	トーク	企画展「いろは展」いろは展トークイベント「第四回 ねずみの金玉～舞台美術・衣装～」
209	2015/1/9	トーク	サービスデザインの教室：第2回「カスタマーの本質的価値にもとづいたサービスデザイン」
210	2015/1/16	勉強会	折詰め会 第28回
211	2015/2/5	勉強会	産学協同プロジェクト：笠間市トータル連携デザインプロジェクト
212	2015/2/13	トーク	サービスデザインの教室：第3回「カスタマー・エクスペリエンスの可視化からソリューションの策定まで」
213	2015/2/27	勉強会	折詰め会 第29回
214	2015/3/18	勉強会	折詰め会 第30回
215	2015/3/21-3/26	展示	懇親力のデザイン（Conviviality Design）～和文化で集う“多目的ユニット（集成材）”の提案
216	2015/3/23	トーク	公開講座「トップデザインセミナー」特別版 講師：藤原 和
217	2015/4/7	トーク	課外講座「シリアシスプレイ ロンドンからのポストカード」
218	2015/4/14	イベント	ラウンジランチ2015
219	2015/4/17-5/31	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第51回企画展「○○○も○○○も○○○も 展：○○○も○○○といえる」
220	2015/4/22	勉強会	折詰め会 第31回

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
タカハシカオリ（フィギュア作家）	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
ゆにここ（現代美術作家）	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
むさび虫とり隊	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
おさかなJAPAN/株式会社ブリヂストン	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
幅允孝（有限会社BACH 代表）/中村竜治（建築家）/尾原史和（有限会社スープ・デザイン 代表）	デザインハブ	デザインハブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
宮島慎吾（本学基礎デザイン学科 教授）	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
太田伸志（株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
-	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/ 本学研究支援センター
株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
あいさつランデブー	あいさつランデブー	デザイン・ラウンジ/あいさつランデブー
A-net Inc. FINAL HOME	デザイン・ラウンジ/ A-net Inc. FINAL HOME	デザイン・ラウンジ/ A-net Inc. FINAL HOME
ムサビ5名/タマビ5名/藝大4名/造形3名/女子美2名/日芸2名	たまびより	デザイン・ラウンジ/たまびより
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
柳澤知明（デザイナー）/白石 学（本学デザイン情報学科 教授）	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
宮木由貴子（ライフデザイン研究本部研究開発室 主席研究員）	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
太田伸志（株式会社ラナエクストラクティブ 取締役・クリエイティブディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
本学空間演出デザイン学科研究室/総合ディレクション：津村耕佑/会場構成：五十嵐久枝/ アートディレクション：鈴木康広/ビジュアルデザイン：岡崎智弘/編集：上條桂子	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 本学空間演出デザイン学科研究室
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
森 雅志（富山市長）	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
立花文穂（女子美術大学 教授）/鈴木康広（本学空間演出デザイン学科 准教授）	本学空間演出デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
長嶋りかこ（グラフィックデザイナー）/津村耕佑（本学空間演出デザイン学科 教授）	本学空間演出デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
小泉 誠（本学空間演出デザイン学科 教授）	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
相澤陽介（デザイナー）/片山正通（本学空間演出デザイン学科 教授）	本学空間演出デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
ナビゲーター：ピーター・バラカン/FM東京：山内トモコ/ ゲスト：津村耕佑（ファッションデザイナー）	The Lifestyle MUSEUM	The Lifestyle MUSEUM
堀尾幸男（本学空間演出デザイン学科 教授）/太田雅公（本学空間演出デザイン学科 教授）	本学空間演出デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
宮島慎吾（本学基礎デザイン学科 教授）	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
株式会社コンセント Service Design Team： 大崎 優（サービスデザイナー・アートディレクター）、赤羽太郎（サービスデザイナー・プランナー）、岡本 亮（サービスデザイナー・アートディレクター）	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
日本集成材工業協同組合	本学/日本集成材工業協同組合	デザイン・ラウンジ/ 本学デザイン情報学科研究室
藤原 和（備前焼・陶芸家）/長澤忠徳（本学デザイン情報学科 教授）	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
ニコラス・ボヤースキー（建築家）	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ
日本デザイン振興会/日本グラフィックデザイナー協会/東京ミッドタウン・マネジメント	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
橋詰 宗（アートディレクター）	デザインハブ	橋詰 宗（アートディレクター）
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
221	2015/4/24	イベント	JAGDA会報「JAGDA Report」190号「〇〇化するデザイン」特別企画 公開座談会「流動化するデザイン」
222	2015/4/25	ワークショップ	企画展「〇〇〇も〇〇〇も〇〇〇も展」〇〇〇も〇〇〇も〇〇〇も中学校」（ももも中）
223	2015/4/25	イベント	六本木アートナイト2015「山田太郎プロジェクト～六本木アートナイトスペシャル～」
224	2015/4/28	説明会	東京ミッドタウン&デザインハブ関連 コンペ等説明会
225	2015/5/7	トーク	水はデザインできるか？
226	2015/5/14	トーク	展示「ポピュラー音楽の世紀」プレスカンファレンス&レコード・コンサート
227	2015/5/15	トーク	サービスデザイン：手なきデザイン？
228	2015/5/20	プレゼンテーション	東京ミッドタウン主催夏キッズプログラム 学生企画プレゼンテーション
229	2015/5/27	勉強会	折詰め会 第32回
230	2015/5/29	トーク	“コンテンツ”をどうデザインするか？
231	2015/6/3	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第1回
232	2015/6/10	イベント	コロラド大学 デザインハブ見学会
233	2015/6/12	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第1回 講師：津村耕佑
234	2015/6/16	勉強会	Service Design Salon Vol.8 / 第18回 UXD initiative 研究会「公共のためのデザインの可能性」
235	2015/6/18	イベント	川崎市立川崎総合科学高等学校 説明会 at Tokyo Midtown Design Hub
236	2015/6/19	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第2回
237	2015/6/22	ワークショップ	装丁デザインのワークショップ（前提講義）
238	2015/6/24	勉強会	折詰め会 第33回
239	2015/6/25	ワークショップ	装丁デザインのワークショップ（講評+ポートフォリオチェック）
240	2015/6/26	ワークショップ	アートで届けるプレゼント：【大学生限定】『キャラクターデザイン論 プリンに醤油をかける！』
241	2015/6/30-7/3	展示	はくらは小さいまなのか？
242	2015/7/3	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第3回
243	2015/7/9	ワークショップ	第3回でがきかき会 with ラナエクストラクティブ × セブテーニ
244	2015/7/10	レクチャー	WEEKEND 学長トーク vol.1 - 美術大学は誤解されている？ -
245	2015/7/16	ワークショップ	第3回なぜならワークショップ with ラナエクストラクティブ×博報堂
246	2015/7/17	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第2回 講師：中島信也
247	2015/7/21-7/25	ワークショップ	東京工業大学 合同ワークショップ「コンセプト・デザインング」
248	2015/7/24	レクチャー	WEEKEND 学長トーク vol.2 - もともと美大はグローバル！ -
249	2015/7/27	勉強会	視覚伝達デザイン学科「情報デザイン」プレゼンテーション
250	2015/7/28	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第4回
251	2015/7/29	ワークショップ	アートで届けるプレゼント：【大学生限定】『キャラクターを魅力的にする背景美術の世界』
252	2015/7/30	勉強会	「近現代建築資料のデジタル・アーカイブ化」2015年度第1回研究会
253	2015/7/31	勉強会	折詰め会 第34回
254	2015/8/5	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2015「発泡スチロールで作ろう！ピカピカマジカルタウン」
255	2015/8/7	レクチャー	WEEKEND 学長トーク vol.3 - 今、だからムサビ。 -
256	2015/8/8	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2015「かみコップおぼけ」をつくろう！
257	2015/8/9	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2015「粘土でフィギュアをつくろう！盆踊り編 2015夏」
258	2015/8/11	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「船を作って、ミッドタウンへとびだそう！」
259	2015/8/12	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「親子でなぞっ手！サマー」
260	2015/8/17	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第5回
261	2015/8/21	勉強会	折詰め会 第35回
262	2015/9/4	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第3回 講師：鈴木康広
263	2015/9/11	ワークショップ	アートで届けるプレゼント：【大学生限定】『ヒットゲームのアートワーク 絵は嘘をつかない』

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
田中義久(グラフィックデザイナー)/田中良治(セミトランスベアレント・デザイン 代表取締役/アートディレクター/ウェブデザイナー)/鈴野浩一(建築家)	日本グラフィックデザイナー協会	日本グラフィックデザイナー協会
moreskinerie.jp モレスキナリー(モレスキンファンサイト)/株式会社 地理人研究所/ 星野概念(サウンドクリエイター)/Carton(デザイナー)/山本千織(料理人)	デザインハブ	橋詰 宗(アートディレクター)
ノガミ カツキ(メディアクリエイター)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ/本学法人企画室	本学法人企画室
長澤忠徳(本学 学長)/進士五十八(東京農業大学地域環境科学部造園科学科 名誉教授)/ 赤星たみこ(漫画家)/毛利 衛(宇宙飛行士)	デザイン・ラウンジ/日本水大賞委員会	デザイン・ラウンジ/日本水大賞委員会
田中勝則(音楽評論家)/ピーター・バラカン(ラジオDJ)	武蔵野美術大学 美術館・図書館	武蔵野美術大学 美術館・図書館/ デザイン・ラウンジ
ニコラス・ローズ(ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ・カレッジ プロダクト、セラミック、インダストリアルデザイン プログラムディレクター/MA インダストリアル デザイン コースリーダー)	本学デザイン情報学科研究室	本学デザイン情報学科/ デザイン・ラウンジ
東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ/本学法人企画室	本学法人企画室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
荒尾彩子(アートディレクター/コンテンツディレクター)/金子まや(コンテンツ ストラテジスト)/高橋裕子(アートディレクター)/中岡慎介(コンテンツストラテジスト)/ 大崎 優(サービスデザイナー/アートディレクター)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
コロラド大学 学生	デザインハブ	デザインハブ
津村耕佑(武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
井口博美(本学デザイン情報学科 教授)/長谷川敦士(株式会社コンセント 代表取締役)/ 山崎和彦(千葉工業大学デザイン科学科 教授)	Service Design Salon	UXD initiative 研究会/株式会社 コンセント/デザイン・ラウンジ
秋元 淳(日本デザイン振興会)/千羽一郎(武蔵野美術大学 法人企画チーム)/ 工藤千佳(日本グラフィックデザイナー協会)	デザイン・ラウンジ	本学法人企画室
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
坂川栄治(装丁家)	デザイン・ラウンジ/本学就職課	デザイン・ラウンジ/就職課
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
坂川栄治(装丁家)	デザイン・ラウンジ/本学就職課	デザイン・ラウンジ/就職課
多摩美術大学油画専攻出身2Dデザイナー	デザイン・ラウンジ/株式会社コロプラ	デザイン・ラウンジ/株式会社コロプラ
映像学科3年生のメディアアートIIの授業受講者	デザイン・ラウンジ/ 本学映像学科研究室	本学映像学科研究室
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
太田伸志(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)/ 加来幸樹(株式会社セブテーニ チーフディレクター)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
長澤忠徳(本学 学長)	本学法人企画グループ	本学法人企画グループ/ デザイン・ラウンジ
太田伸志(株式会社ラナエクストラクティブ 取締役/クリエイティブディレクター)/ 滝口勇也(株式会社博報堂 クリエイティブファシリテーター)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
中島信也(東北新社取締役)/CMディレクター/本学視覚伝達デザイン学科 客員教授	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
東京工業大学 学生/本学 学生	東京工業大学サイエンス&アートLab Creative Flow/本学研究支援センター	東京工業大学サイエンス&アートLab Creative Flow/本学研究支援センター/ デザイン・ラウンジ
長澤忠徳(本学 学長)	本学法人企画グループ	本学法人企画グループ/ デザイン・ラウンジ
ヤフー株式会社	本学視覚伝達デザイン学科研究室	本学視覚伝達デザイン学科研究室/ デザイン・ラウンジ
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/ 齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/ 加倉井美香(デザイン・ラウンジ)/川崎未結(本学デザイン情報学科 学生)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
白猫プロジェクトメイン背景デザイナー	デザイン・ラウンジ/株式会社コロプラ	デザイン・ラウンジ/株式会社コロプラ
松永安光(建築家)	本学造形研究センター	本学造形研究センター/ デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
株式会社コロプラ	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
長澤忠徳(本学 学長)	本学法人企画グループ	本学法人企画グループ/ デザイン・ラウンジ
大伴亮介(イラストレーター/デザイナー)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
MAUセイラース	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
むさびてなぞり隊	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/川崎未結(本学デザイン情報学科 学生)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
鈴木康広(本学空間演出デザイン学科 教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
ファインアート(絵画)出身3Dデザイナー	デザイン・ラウンジ/株式会社コロプラ	デザイン・ラウンジ/株式会社コロプラ

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
264	2015/9/29	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第6回
265	2015/9/30	勉強会	折詰め会 第36回
266	2015/10/2	イベント	美大学長 グローバルトーク：フィンランド
267	2015/10/9	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：いすみ市役所/いすみライフスタイル研究所でのミーティング
268	2015/10/16	勉強会	折詰め会 第37回
269	2015/10/26	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：いすみ地域おこし協力隊へのインタビュー
270	2015/10/30-11/4	展示	GOODなDESIGN LOUNGE 「2014年度武蔵野美術大学産学共同プロジェクト成果展示」
271	2015/10/31	ワークショップ	GOODなDESIGN LOUNGE 「大切な人に贈ろう！☆わくわく飛び出すメッセージカード☆」
272	2015/11/1	勉強会	GOODなDESIGN LOUNGE 「折詰め会 拡大版」
273	2015/11/3	ワークショップ	GOODなDESIGN LOUNGE 「感情で音楽をつくろう！ With ラナエクストラクティブ」
274	2015/11/11	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：いすみ市の魅力の発掘・発信、課題発見と解決策を探るワークショップ
275	2015/11/19	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第7回
276	2015/11/20-12/26	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第54回企画展 「ラーニング・アーキテクチャー 2015」建築、学びの冒険—大学の建築設計課題の動向展
277	2015/11/21	ワークショップ	企画展「ラーニング・アーキテクチャー 2015」中山英之・ミネソタ大学ワークショップ・ビヨンド
278	2015/11/25	勉強会	折詰め会 第38回
279	2015/11/27	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第4回 講師：菱川勢一
280	2015/11/28	レクチャー	企画展「ラーニング・アーキテクチャー 2015」第1回【各大学建築学科の教員・建築家によるレクチャー】 ケンチクの未来は？ 新しいケンチクの学びとは？ ケンチク教育の現場からの報告
281	2015/12/2	説明会	秋田大学付属中学校職場体験訪問
282	2015/12/5	レクチャー	企画展「ラーニング・アーキテクチャー 2015」第2回【各大学建築学科の教員・建築家によるレクチャー】 ケンチクの未来は？ 新しいケンチクの学びとは？ ケンチク教育の現場からの報告
283	2015/12/12	勉強会	折詰め会 第39回
284	2015/12/12	レクチャー	企画展「ラーニング・アーキテクチャー 2015」第3回【各大学建築学科の教員・建築家によるレクチャー】 ケンチクの未来は？ 新しいケンチクの学びとは？ ケンチク教育の現場からの報告
285	2015/12/15-12/16	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：「農業、自給自足」「子育て」いすみ市インタビュー
286	2015/12/15-12/18	展示	武蔵野美術大学×大建工業株式会社 産学協同プロジェクト「魔法のじゅうたんプロジェクト」
287	2015/12/19	レクチャー	企画展「ラーニング・アーキテクチャー 2015」第4回【各大学建築学科の教員・建築家によるレクチャー】 ケンチクの未来は？ 新しいケンチクの学びとは？ ケンチク教育の現場からの報告
288	2015/12/22	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：子育て世代 課題発見ワークショップ
289	2015/12/24	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第8回
290	2016/1/14	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第9回
291	2016/1/19	ワークショップ	SPEED KAIZEN LOUNGE 第1回
292	2016/1/20	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：中間報告会
293	2016/1/25	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第10回
294	2016/1/26	ワークショップ	SPEED KAIZEN LOUNGE 第2回
295	2016/1/27	勉強会	折詰め会 第40回
296	2016/2/2	ワークショップ	SPEED KAIZEN LOUNGE 第3回
297	2016/2/9	勉強会	OMOTENASHI STUDY 第11回
298	2016/2/12	勉強会	折詰め会 第41回
299	2016/2/23	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト：サービスアイデアワークショップ
300	2016/2/26	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第5回 講師：関野吉晴
301	2016/3/18	勉強会	折詰め会 第42回
302	2016/3/24	勉強会	いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト成果発表会
303	2016/3/26-3/27	ワークショップ	フィンランド発フードデザインワークショップ「PAI PAI パイパイ」
304	2016/4/18	イベント	ラウンジランチ2016
305	2016/4/22	勉強会	折詰め会 第43回
306	2016/4/25	説明会	東京ミッドタウン&デザインハブ関連 コンペ等説明会

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
長澤忠徳(本学 学長)/バイヴィ・カルツカイン(フィンランド国立歌劇場総裁)/メリヤ・カルツピネン(フィンランドセンター所長)	デザイン・ラウンジ/新国立劇場	デザイン・ラウンジ/新国立劇場
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
-	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/ 本学研究支援センター
株式会社コロブラ	デザイン・ラウンジ/株式会社コロブラ	デザイン・ラウンジ/株式会社コロブラ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
本学建築学科研究室	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 本学建築学科研究室
中山英之(東京藝術大学美術学部建築学科)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 本学建築学科研究室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
菱川勢一(本学基礎デザイン学科 教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
菊地 宏(本学建築学科准教授)/小濑祐介(東京大学工学系研究科建築学専攻 准教授)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 本学建築学科研究室
秋田大学付属中学校	デザイン・ラウンジ/ 秋田大学付属中学校	デザイン・ラウンジ/ 秋田大学付属中学校
貝島桃代(筑波大学芸術専門学群デザイン専攻建築デザイン領域 准教授)/花里俊廣(筑波大学芸術専門学群デザイン専攻建築デザイン領域 教授)/加藤 研(筑波大学芸術専門学群デザイン専攻建築デザイン領域 助教授)/トム・ヘネガン(東京藝術大学美術学部建築科 教授)/吉村靖孝(明治大学大学院理工学研究科 特任教授)/藤村龍至(東洋大学理工学部建築学科 専任講師/源愛日児(本学建築学科 教授)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 本学建築学科研究室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
小嶋一浩(横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA 教授)/高橋晶子(武蔵野美術大学建築学科 教授)/長谷川浩己(本学建築学科 教授)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 本学建築学科研究室
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
大建工業株式会社	本学/ 大建工業株式会社	デザイン・ラウンジ/ 本学デザイン情報学科研究室/ 本学工芸工業デザイン学科研究室
渡辺真理(法政大学 デザイン工学部建築学科)/古谷誠章(早稲田大学 創造理工学部建築学科)/岩岡竜夫(東京理科大学 理工学部建築学科)/中山英之(東京藝術大学美術学部建築科)/布施 茂(本学建築学科 教授)	本学建築学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 本学建築学科研究室
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
岡本 亮(株式会社コンセント)/工藤大貴(株式会社コンセント)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
岡本 亮(株式会社コンセント)/工藤大貴(株式会社コンセント)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
岡本 亮(株式会社コンセント)/工藤大貴(株式会社コンセント)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/ 株式会社コンセント
濱川 智(株式会社OMOTENASHI)/牛山隆信(株式会社サニーサイドアップ)/齋藤 穂(株式会社サニーサイドアップ)/山下 亮(デザイン・ラウンジ)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社サニーサイドアップ	デザイン・ラウンジ/ OMOTENASHI NIPPON実行委員会
インハウスデザイナー/エンジニア	折詰め会	デザイン・ラウンジ/折詰め会
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
関野吉晴(本学教養文化・学芸員課程 教授)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
ライチネン・イライ(デザインコンサルタント)/カルシ・ヤーツコ(サービスデザイナー)	PAI PAI WORKSHOP/ デザイン・ラウンジ	PAI PAI WORKSHOP/ デザイン・ラウンジ
日本デザイン振興会/日本グラフィックデザイナー協会/東京ミッドタウンマネジメント	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
東京ミッドタウンマネジメント株式会社/Tokyo Midtown Award 2015 アートコンペ 準グランプリ受賞 上坂 直(本学大学院修士課程建築コース2年) 他	デザイン・ラウンジ/ 本学法人企画グループ	本学法人企画グループ

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
307	2016/5/9	勉強会	「東京藝術大学×武蔵野美術大学 対話のかたち討論会」
308	2016/5/20	勉強会	折詰め会 第44回
309	2016/5/21	レクチャー	WEデザインスクール プレ講座「社会人のためのデザイン超入門」
310	2016/5/26	レクチャー	WEデザインスクール プレ講座「図解で伝えるデザイン術」
311	2016/5/29	レクチャー	WEデザインスクール トークイベント
312	2016/6/1	プレゼンテーション	武蔵野美術大学×(株)バンザイファクトリー 産学共同研究 成果発表会
313	2016/6/15	勉強会	折詰め会 第45回
314	2016/6/17-6/19	展示	うつわと和菓子
315	2016/6/17	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第6回 講師：北川フラム
316	2016/6/18	イベント	うつわと和菓子の関係 -とらやの和菓子でお茶会-
317	2016/6/24	ワークショップ	チームラボ&武蔵野美術大学 チームで考えてチームでつくるワークショップ
318	2016/6/27-7/2	イベント	六本木未来会議BOOKキャラバン
319	2016/7/15	勉強会	折詰め会 第46回
320	2016/7/22	ワークショップ	資生堂 LINK OF LIFE サマーワークショップ「ハタチの若い」ー若い視点からとらえる「時間の経過」ーキックオフミーティング
321	2016/7/25	勉強会	視覚伝達デザイン学科「情報デザイン」プレゼンテーション
322	2016/7/26-7/30	ワークショップ	東京工業大学 合同ワークショップ「コンセプト・デザイン」
323	2016/8/11	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「忍法うつしとりの術！～集めた景色でハンカチを染めよう～」
324	2016/8/12	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「プクプクもようをつくろう！」
325	2016/8/13	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2016「ぎゅっと押す！印刷でカードセットをつくろう」
326	2016/8/14	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2016「発見！粘土で未確認飛行物体をつくろう！」
327	2016/8/23	ワークショップ	資生堂 LINK OF LIFE サマーワークショップ第2回
328	2016/8/26	勉強会	折詰め会 第47回
329	2016/8/30	ワークショップ	資生堂 LINK OF LIFE サマーワークショップ第3回
330	2016/9/1	ワークショップ	出張！コロプラ次世代共創プロジェクト ～キャラクターコンセプト編～
331	2016/9/2	ワークショップ	出張！コロプラ次世代共創プロジェクト ～ロゴデザイン&プロモーション編～
332	2016/9/16	勉強会	武蔵野美術大学・2016年度共同研究助成プロジェクト「地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究～房総ライフデザインプロジェクト」共同研究会第1回
333	2016/9/16	イベント	いすみ市発房総ライフスタイル・プロジェクト中間報告会
334	2016/9/20	ワークショップ	資生堂 LINK OF LIFE サマーワークショップ第4回
335	2016/9/27	ワークショップ	資生堂 LINK OF LIFE サマーワークショップ第5回
336	2016/9/28	勉強会	折詰め会 第48回
337	2016/10/19	勉強会	折詰め会 第49回
338	2016/10/21-10/22	イベント	六本木アートナイト2016「MAU COLLECTION [IMIN] ～六本木アートナイト2016～」
339	2016/10/28-11/3	展示	GOODなDESIGN LOUNGE [2016年度一般入試 実技合格作品展示]
340	2016/10/29	勉強会	GOODなDESIGN LOUNGE「折詰め会 拡大版」
341	2016/11/9	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第7回 講師：佐藤 卓
342	2016/11/16	勉強会	折詰め会 第50回
343	2016/11/18	勉強会	株式会社オリエンタルランドx武蔵野美術大学 学生グループインタビュー
344	2016/11/19-12/25	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第62回企画展「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」
345	2016/11/19	イベント	東京ミッドタウン・デザインハブ第62回企画展「デザインの理念と形成 デザイン学の50年」オープニングレセプション&内覧会

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
須永剛司(東京藝術大学美術学部デザイン科 教授)/今泉 洋(本学デザイン情報学科 教授)	東京藝術大学 美術学部デザイン科 研究室/本学デザイン情報学科研究室	東京藝術大学美術学部デザイン科 研究室/本学デザイン情報学科研究室
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
丸山貴明(東洋美術学校デザイン研究室 専任講師)/中村将大(東洋美術学校デザイン研究室 専任講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
富田 誠(東海大学教養学部芸術学科 専任講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(株式会社OFFICE HALO)/富田 誠(東海大学教養学部芸術学科 専任講師)/中村将大(東洋美術学校デザイン研究室 専任講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
高橋和良(株式会社バンザイファクトリー 代表取締役)/鶴岡信治(三重大学 理事・副学長・教授)/田中桂太(本学工芸工業デザイン学科 教授)/綾部琢磨(本学工芸工業デザイン学科 修士課程2年生)	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社バンザイファクトリー/デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社バンザイファクトリー/デザイン・ラウンジ
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
本学工芸工業デザイン学研究室/株式会社 虎屋	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ
北川フラム(アートディレクター)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ
堺 大輔(チームラボ取締役)	チームラボ株式会社/デザイン・ラウンジ	チームラボ株式会社/デザイン・ラウンジ
服部滋樹(graf 代表)	ウェブマガジン六本木未来会議	ウェブマガジン六本木未来会議/東京ミッドタウンマネジメント
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
石井美加(株式会社資生堂 経営戦略部市場情報室)/木下謙一(株式会社ラナデザインアソシエイツ 代表)	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ
後藤吉郎(本学視覚伝達デザイン学科 教授)/西本企良(本学視覚伝達デザイン学科 教授)	本学視覚伝達デザイン学科研究室	本学視覚伝達デザイン学科研究室/デザイン・ラウンジ
東京工業大学 学生/本学 学生	東京工業大学サイエンス&アート-Lab Creative Flow/本学社会連携チーム	東京工業大学サイエンス&アート-Lab Creative Flow/本学社会連携チーム/デザイン・ラウンジ
ムサビ忍術開発班	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
君とシャボンでバブリ隊	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
株式会社真映社/まんまる〇	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
石井美加(株式会社資生堂 経営戦略部市場情報室)/木下謙一(株式会社ラナデザインアソシエイツ 代表)	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
石井美加(株式会社資生堂 経営戦略部市場情報室)/木下謙一(株式会社ラナデザインアソシエイツ 代表)	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ
ファインアート(絵画)出身キャラクターデザイナー・UIデザイナー	株式会社コロブラ/デザイン・ラウンジ	株式会社コロブラ/本学学生支援グループキャリアチーム/デザイン・ラウンジ
ファインアート(絵画)出身キャラクターデザイナー・UIデザイナー	株式会社コロブラ/デザイン・ラウンジ	株式会社コロブラ/本学学生支援グループキャリアチーム/デザイン・ラウンジ
早川卓也(いすみ市 参事)/山崎和彦(千葉工業大学 教授)/高原和江(NPO法人いすみライフスタイル研究所)/今泉 洋(本学デザイン情報学科 教授)/井口博美(デザイン・ラウンジ ディレクター)/長谷川敦士(株式会社コンセプト 代表/本学 非常勤講師)	デザイン・ラウンジ	株式会社コンセプト/NPO法人いすみライフスタイル研究所/いすみ市+地域おこし協力隊
早川卓也(いすみ市参事)/小橋真哉(株式会社コンセプト サービスデザイナー)/長谷川敦士(株式会社コンセプト 代表/本学 非常勤講師)/井口博美(デザイン・ラウンジ ディレクター)/板橋孝浩(本学研究支援センター)	千葉県いすみ市/デザイン・ラウンジ	株式会社コンセプト/NPO法人いすみライフスタイル研究所/いすみ市+地域おこし協力隊
石井美加(株式会社資生堂 経営戦略部市場情報室)/木下謙一(株式会社ラナデザインアソシエイツ 代表)	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ
石井美加(株式会社資生堂 経営戦略部市場情報室)/木下謙一(株式会社ラナデザインアソシエイツ 代表)	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ	株式会社資生堂/株式会社ラナデザインアソシエイツ/デザイン・ラウンジ
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
DEN	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
-	本学研究支援センター	デザイン・ラウンジ/本学研究支援センター
インハウステデザイナー/エンジニア	折詰め会	折詰め会
佐藤 卓(グラフィックデザイナー)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
インハウステデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
株式会社オリエンタルランド	本学デザイン情報学科研究室	デザイン・ラウンジ/本学デザイン情報学科研究室
本学基礎デザイン学科研究室	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/本学基礎デザイン学科研究室
本学基礎デザイン学科研究室	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/本学基礎デザイン学科研究室

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
346	2016/12/1	イベント	I.C.E x D-LOUNGE 1day インターンシップ 2016
347	2016/12/4	イベント	企画展「デザインの理念と形成」【デザインの理念と形成 デザイン学の50年】第1回 トークセッション
348	2016/12/9	レクチャー	公開講座「Explore the Design」第8回
349	2016/12/10	イベント	企画展「デザインの理念と形成」【デザインの理念と形成 デザイン学の50年】第2回 トークセッション
350	2016/12/11	レクチャー	第1回 WE デザインスクール プログラム説明会
351	2016/12/15	レクチャー	第2回 WE デザインスクール プログラム説明会
352	2016/12/20	ワークショップ	チームラボのデザイナーとつくる「人に伝わるポートフォリオサイト」
353	2016/12/22	勉強会	武蔵野美術大学・2016年度共同研究助成プロジェクト「地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究～房総ライフデザインプロジェクト」共同研究会第2回
354	2016/12/22	イベント	いすみ市発房総ライフスタイル・プロジェクト中間報告会
355	2017/1/18	勉強会	折詰め会 第51回
356	2017/1/26	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第1回
357	2017/1/28	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第1回
358	2017/2/2	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「狭山茶ブランディング事業」
359	2017/2/2	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「笠間市トータルデザイン」
360	2017/2/2	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第2回
361	2017/2/4	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第2回
362	2017/2/9	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「狭山茶ブランディング事業」
363	2017/2/9	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「笠間市トータルデザイン」
364	2017/2/16	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「狭山茶ブランディング事業」
365	2017/2/16	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「笠間市トータルデザイン」
366	2017/2/16	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第3回
367	2017/2/17	勉強会	折詰め会 第52回
368	2017/2/18	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第3回
369	2017/2/22	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「狭山茶ブランディング事業」
370	2017/2/22	勉強会	官学受託研究プロジェクト：「笠間市トータルデザイン」
371	2017/3/2	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第4回
372	2017/3/4	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第4回
373	2017/3/10	イベント	Global Design Initiative Workshop 2017 最終プレゼンテーション
374	2017/3/11	イベント	Go Global Japan（文部科学省採択事業）グローバル・デザイン教育フォーラム2017 東京・グローバル・デザイン教育ファカルティの創成にむけて-
375	2017/3/16	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第5回
376	2017/3/22	勉強会	折詰め会 第53回
377	2017/3/25	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全6回）」2017年 第一期講座 第5,6回

出演者・ゲスト等	主催	企画・運営
株式会社ラナエクストラクティブ/株式会社イメージソース/株式会社BIRDMAN / 株式会社バズル/株式会社ベースメントファクトリープロダクション/ 株式会社ラナエクストラクティブ/株式会社ワンバク	デザイン・ラウンジ/ 一般社団法人I.C.E	デザイン・ラウンジ/ 株式会社ラナエクストラクティブ
赤木重文(日本色彩研究所 常務理事)/桐原文子(色彩造形講師)/吉田慎悟(本学基礎デザイン学科 教授)/野口正治(グラフィックデザイナー)/河本有香(キリンビール株式会社 デザイングループ)/宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 教授)/清川進也(サウンドアーティスト)/清水貴崇(アニメーション作家)/菱川勢一(本学基礎デザイン学科 教授)/平田晃久(建築家)/柴田文江(本学基礎デザイン学科 教授)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 本学基礎デザイン学科研究室
堺 大輔(チームラボ取締役)	デザイン・ラウンジ	本学研究支援センター
稲垣 諭(東洋大学 准教授/哲学研究者)/小林昭世(本学基礎デザイン学科 教授)/大原大次郎(グラフィックデザイナー)/板東孝明(本学基礎デザイン学科 教授)/南後由和(社会学者)/原 研哉(本学基礎デザイン学科 主任教授)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 本学基礎デザイン学科研究室
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
チームラボ デザイナー：伊藤祐希、加藤花夏子、渋谷直毅、田村 渡、バンデルレイベングエル・ジュニア、藤井麻理、洪羅喜	チームラボ株式会社/ デザイン・ラウンジ	チームラボ株式会社/ デザイン・ラウンジ
早川卓也(いすみ市 参事)/山崎和彦(千葉工業大学 教授)/高原和江(NPO法人いすみライフスタイル研究所)/今泉 洋(本学デザイン情報学科 教授)/井口博美(デザイン・ラウンジ ディレクター)/長谷川敦士(株式会社コンセント 代表/本学 非常勤講師)	デザイン・ラウンジ	株式会社コンセント/ NPO法人いすみライフスタイル研究所/ いすみ市+地域おこし協力隊
太田 洋(いすみ市長)/早川卓也(いすみ市 参事)/小橋真哉(株式会社コンセント サービスデザイナー)/長谷川敦士(株式会社コンセント 代表/本学 非常勤講師)/井口博美(デザイン・ラウンジ ディレクター)/板橋孝浩(本学研究支援センター)	千葉県いすみ市/ デザイン・ラウンジ	株式会社コンセント/ NPO法人いすみライフスタイル研究所/ いすみ市+地域おこし協力隊
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/中村将大(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 教授)/参画メンバー	本学基礎デザイン学科	本学基礎デザイン学科 (担当:宮島慎吾教授)
宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 教授)/参画メンバー	本学基礎デザイン学科	本学基礎デザイン学科 (担当:宮島慎吾教授)
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/中村将大(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 教授)/参画メンバー	本学基礎デザイン学科	本学基礎デザイン学科 (担当:宮島慎吾教授)
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/中村将大(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 教授)/参画メンバー	本学基礎デザイン学科	本学基礎デザイン学科 (担当:宮島慎吾教授)
宮島慎吾(本学基礎デザイン学科 教授)/参画メンバー	本学基礎デザイン学科	本学基礎デザイン学科 (担当:宮島慎吾教授)
Prof. Philipp Heidkamp (Köln International School of Design) / Mr. Nicholas Rhodes (Central Saint Martins college of Art and Design University of the Arts London) / Mr. Venka Purushothaman (LASALLE College of the Arts) / Prof. Wan-Ru Chou (Shih Chien University) / 長澤忠徳(本学 学長)/鈴木 明(本学建築学科 教授)	本学	本学/ 公益財団法人日本デザイン振興会
Prof. Philipp Heidkamp (Köln International School of Design) / Mr. Nicholas Rhodes (Central Saint Martins college of Art and Design University of the Arts London) / Mr. Venka Purushothaman (LASALLE College of the Arts) / Prof. Wan-Ru Chou (Shih Chien University) / 長澤忠徳(本学 学長)/鈴木 明(本学建築学科 教授) / 今泉 洋(本学デザイン情報学科 教授)	本学	本学/ 公益財団法人日本デザイン振興会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/中村将大(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
378	2017/3/24	イベント	いすみ未来会議 - これからの地域の暮らしをいすみから考える -
379	2017/3/30	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第一期講座 第6回
380	2017/4/14-5/21	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ 10周年記念 第65回企画展「東京デザインテン」
381	2017/4/21	勉強会	折詰め会 第54回
382	2017/4/22	レクチャー	Forma-Foro Seminar「まちの使いこなし方をデザインするリノベーションという手法」
383	2017/4/26	イベント	企画展「東京デザインテン」オープニングイベント
384	2017/4/26	説明会	東京ミッドタウン&デザインハブ関連 コンペ等説明会
385	2017/5/17	勉強会	折詰め会 第55回
386	2017/6/2-6/4	展示	工芸工業デザイン学科展示クラフトデザインコース陶磁専攻「うつわと和菓子」
387	2017/6/4	イベント	工芸工業デザイン学科展示クラフトデザインコース陶磁専攻「うつわと和菓子」お茶会
388	2017/6/6	勉強会	WEデザインスクール プログラム説明会
389	2017/6/14	イベント	BAUSプレス発表会
390	2017/6/15	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第1回
391	2017/6/16	勉強会	折詰め会 第56回
392	2017/6/17	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第1回
393	2017/6/21	イベント	川崎市立川崎総合科学高等学校 説明会 at Tokyo Midtown Design Hub
394	2017/6/22	イベント	小田原城北高等学校 説明会 at Tokyo Midtown Design Hub
395	2017/6/22	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第2回
396	2017/6/24	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第2回
397	2017/6/29	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第3回
398	2017/7/6	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第4回
399	2017/7/8	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第3回
400	2017/7/13	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第5回
401	2017/7/14	勉強会	折詰め会 第57回
402	2017/7/20	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン制作トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第6回
403	2017/7/21	イベント	とうようズ・テイ2017
404	2017/7/22	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第4回
405	2017/7/24	勉強会	視覚伝達デザイン学科「情報デザイン」プレゼンテーション
406	2017/7/25-7/29	ワークショップ	東京工業大学 合同ワークショップ「コンセプト・デザイン」
407	2017/7/28-7/29	ワークショップ	鑑賞+アニメーションワークショップ「アルチンボルドで世界と自分をつなぐ」
408	2017/8/5	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第5回
409	2017/8/5	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎 (全6回)」2017年 第二期講座 第6回
410	2017/8/12-8/13	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2017「～キッズウィーク2017夏場所～粘土でオリジナルカ士をつくろう！」
411	2017/8/7	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2017「キラキラ涼しげ！水族館プレスレットをつくろう」
412	2017/8/11	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「あおいで泳いでおさかなくん」
413	2017/8/11	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「親子でつくろう！あつめてべったんサマーリース」
414	2017/8/23	勉強会	折詰め会 第58回

出演者・ゲスト等	主催	企画・運営
早川卓也(千葉県いすみ市参事)/大竹 真、志賀慶介、石川雄輝(千葉県いすみ市地域おこし協力隊)/小橋真哉(株式会社コンセント)/横田 親(元・丹波市市議会議員)/飯石 藍(公共R不動産コーディネーター)	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市/株式会社コンセント	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市/株式会社コンセント/NPO法人いすみライフスタイル研究所
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
デザインハブ/会場デザイン・展示ディレクション：浅子佳英(タカバネスタジオ)/アートディレクション：野間真吾(NOMA Inc.)/写真：永井杏奈/展示什器デザイン・制作：甲斐貴大(studio arché)	デザインハブ	デザインハブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
大島芳彦(ブルースタジオ専務取締役)/小津誠一(有限会社E.N.N.代表)/鈴木 明(本学建築学科 教授)	日月会	日月会
石川 初(ランドスケープデザイナー/慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授)/浅子佳英(本展ディレクター/建築家/インテリアデザイナー/批評家)/野間真吾(本展アートディレクター/アートディレクター/デザイナー)	デザインハブ	デザインハブ
東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ/本学法人企画グループ	本学法人企画グループ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
本学工芸工業デザイン学科/株式会社 虎屋	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ
本学工芸工業デザイン学科/株式会社 虎屋	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科研究室/株式会社 虎屋/デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
加藤晃央(株式会社モーフィング 代表取締役)/井口皓太(世界株式会社 代表取締役)/長澤忠徳(本学 学長)/中村勇吾(ウェブデザイナー/インターフェースデザイナー/映像ディレクター)/中前省吾(エイベックス・エンタテインメント株式会社)	株式会社モーフィング	株式会社モーフィング/シーサタース/デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
工藤千佳(日本グラフィックデザイナー協会)/村上春香(日本デザイン振興会)/千羽一郎(本学)	デザイン・ラウンジ	デザインハブ
工藤千佳(日本グラフィックデザイナー協会)/村上春香(日本デザイン振興会)/千羽一郎(本学)	デザインハブ	デザインハブ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/富田 誠(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
湯川れい子(音楽評論家)/田中勝則(音楽評論家)	とうようズ・テイ実行委員会	武蔵野美術大学 美術館・図書館/とうようズ・テイ実行委員会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
西本企良(本学視覚伝達デザイン学科 教授)	本学視覚伝達デザイン学科研究室	本学視覚伝達デザイン学科研究室/デザイン・ラウンジ
東京工業大学 学生/本学 学生	東京工業大学サイエンス&アートLab Creative Flow/本学社会連携チーム	東京工業大学サイエンス&アートLab Creative Flow/本学社会連携チーム/デザイン・ラウンジ
杉浦幸子(本学芸術文化学科 教授)/米徳信一(本学芸術文化学科 教授)	国立西洋美術館/NHK/NHKプロモーション/本学/デザイン・ラウンジ	国立西洋美術館/NHK/NHKプロモーション/本学/デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
ナマステ社(本学デザイン情報科学 学生)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
泳げおさかなくん	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
年中無休のサンタクロース	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
415	2017/9/6	レクチャー	WEデザインスクール プログラム説明会
416	2017/9/9	レクチャー	WEデザインスクール プログラム説明会
417	2017/9/19	レクチャー	Xデザイン学校公開講座：みらいのデザインを考える
418	2017/9/20	勉強会	折詰め会 第59回
419	2017/9/22	レクチャー	公開講座2017「Creative Innovation」第1回 講師：濱口秀司
420	2017/9/30	イベント	アートナイト2017「夢神社 ～六本木アートナイト2017～」
421	2017/10/14	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全3回）」2017年 第三期講座 第1回
422	2017/10/23	レクチャー	Xデザイン学校公開講座：クリエイティブファシリテーションを考える
423	2017/10/25	勉強会	折詰め会 第60回
424	2017/10/28	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全3回）」2017年 第三期講座 第2回
425	2017/11/1-11/5	展示	旅するムサビプロジェクト展
426	2017/11/11	レクチャー	WEデザインスクール「デザイン理論トレーニング基礎（全3回）」2017年 第三期講座 第3回
427	2017/11/15	レクチャー	WEデザインスクール「ロゴ分析（全3回）」 第1回
428	2017/11/17	勉強会	折詰め会 第61回
429	2017/11/27-12/24	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第70回企画展「ハブとマンガース」
430	2017/11/29	レクチャー	WEデザインスクール「ロゴ分析（全3回）」 第2回
431	2017/12/1	レセプション	企画展「ハブとマンガース」オープニングレセプション&内覧会
432	2017/12/6	イベント	東京ミッドタウン・デザイン部「ハブとマンガース」夜のギャラリートーク
433	2017/12/7	レクチャー	WEデザインスクール「タイポグラフィ入門（全2回）」 第1回
434	2017/12/8	勉強会	折詰め会 第62回
435	2017/12/13	レクチャー	WEデザインスクール「ロゴ分析（全3回）」 第3回
436	2017/12/14	レクチャー	WEデザインスクール「タイポグラフィ入門（全2回）」 第2回
437	2017/12/16	イベント	企画展「ハブとマンガース」トークセッション「ハブとマンガース」
438	2017/12/26	勉強会	「いすみ市発祥総ライフデザイン・プロジェクト」最終報告会
439	2018/1/24	勉強会	折詰め会 第63回
440	2018/1/29	イベント	上海同済大学 説明会
441	2018/1/30	レクチャー	Xデザイン学校公開講座：サービスデザインのみらいを考える
442	2018/1/30	イベント	「MAU日本語学習支援プロジェクト」成果発表会
443	2018/2/3	ワークショップ	活版印刷でレターセットを作るワークショップ
444	2018/2/10	ワークショップ	ウレアを使って、Geometric Crystalをつくらう
445	2018/2/21	勉強会	折詰め会 第64回
446	2018/2/19	イベント	産学官連携デザインマッチング「とやまデザイン・トライアル成果発表会」
447	2018/2/23	レクチャー	公開講座2018「Creative Innovation」第2回 講師：山口 周
448	2018/3/3	イベント	「ビザ・ワールドワイド ニューフォーラムファクターワークショップ」最終プレゼンテーション
449	2018/3/23	勉強会	折詰め会 第65回
450	2018/3/27	イベント	社会をクリエイティブにデザインする
451	2018/4/21	トークショー	第14回フォルム・フォロセミナー
452	2018/4/25	勉強会	折詰め会 第66回
453	2018/5/16	勉強会	折詰め会 第67回
454	2018/5/17	レクチャー	Xデザイン学校公開講座「デザイン思考の次にくるもの」
455	2018/5/26	イベント	六本木アートナイト2018「Colorized Night～六本木アートナイト2018～」
456	2018/5/30	レクチャー	岩倉中学校 デザイン・ラウンジ見学

出演者・ゲスト等	主催	企画・運営
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
安西洋之 (モバイルクルーズ株式会社 代表) / 長谷川敦士 (株式会社コンセント 代表) / 山崎和彦 (千葉工業大学 教授)	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
濱口秀司 (monogoto CEO, Ziba Executive Fellow)	デザイン・ラウンジ	本学社会連携チーム
津村耕佑 (本学空間演出デザイン学科 教授)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/本学空間演出デザイン学科 津村耕佑教授
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 渡邊 翔 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
山崎和彦 (Xデザイン学校 共同代表) / 山岸ひとみ (Gaji-Labo ティレクター) / 宇田川直哉 (HENKA 代表) / 浅野 智 (Xデザイン学校 共同代表)	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 渡邊 翔 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
武蔵野美術大学 学生	デザイン・ラウンジ	本学社会連携チーム
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 渡邊 翔 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 小黒千佳子 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
TYMOTE	デザインハブ	株式会社モーフィング
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 小黒千佳子 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
TYMOTE	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 株式会社モーフィング
加藤晃央 (株式会社モーフィング/TYMOTE) / 浅葉 球 (TYMOTE) / 石井 怜 (TYMOTE)	東京ミッドタウン・デザイン部	デザイン・ラウンジ/ 株式会社モーフィング
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 渡邊 翔 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 小黒千佳子 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美 (WEデザインスクール 校長) / 渡邊 翔 (WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
加藤晃央 (株式会社モーフィング/TYMOTE) / 浅葉 球 (TYMOTE) / 石井 怜 (TYMOTE) / 井口皓太 (TYMOTE) / 飯高健人 (TYMOTE)	デザイン・ラウンジ/ 株式会社モーフィング	デザイン・ラウンジ/ 株式会社モーフィング
千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市	デザイン・ラウンジ/千葉県いすみ市
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
長澤忠徳 (本学 学長) / 薛萌 [シュエ] (公益財団法人日本デザイン振興会)	本学	デザイン・ラウンジ
大崎 優 (株式会社コンセント) / 坂田一倫 (Pivotal Labs Tokyo) / 坂本真史 (株式会社日産) / 村越 悟 (株式会社アクセント)	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ
三代純平 (本学言語文化 准教授) / 米徳信一 (本学芸術文化学科 教授) / 株式会社カシオ計算機	本学/株式会社カシオ計算機	本学/デザイン・ラウンジ
まんまる〇	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
we+	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
田中桂太 (本学工芸工業デザイン学科 教授) / 内田和美 (富山大学芸術文化学部) / 矢島進二 (日本デザイン振興会) / 桐山登士樹 (富山県総合デザインセンター 所長) / 岡雄一郎 (富山県総合デザインセンター)	富山県総合デザインセンター	富山県総合デザインセンター / エビファニーワークス / デザイン・ラウンジ
山口 周 (コーン・フェリー・ヘイグループ株式会社 シニア・クライアント・パートナー)	デザイン・ラウンジ	本学社会連携チーム
東京工業大学 学生 / 電気通信大学 学生 / 本学 学生 / 野原佳代子 (東京工業大学 教授) / 千葉工業大学 研究員 / 津田広志 (株式会社コンセント 取締役) / 長澤忠徳 (本学 学長) / 鈴木 明 (本学建築学科 教授) / 古堅真彦 (本学視覚伝達デザイン学科 教授) / 石川卓磨	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
長谷川敦士 (株式会社コンセント 代表) / 若杉浩一 (パワープレイス株式会社 ティレクター) / 渡邊賢太郎 (SUSANOO) / 村越 悟 ((社) PLAYERS) / 井登友一 (インフォバーン) / 上田義弘 (富士通デザイン) / 西村真里子 (HEART CATCH Inc.) / 江渡 浩一郎 (産業技術総合研究所) / 玄正 慎 (Coaido) / 富田 誠 (東海大学) / 井口博美 (本学デザイン情報学科 教授) / 山崎和彦 (Xデザイン研究所)	ソーシャルクリエイティブ・ イニシアチブ準備事務局 / デザイン・ラウンジ	ソーシャルクリエイティブ・ イニシアチブ準備事務局 / デザイン・ラウンジ
宮崎晃吉 (建築家/HAGI STUDIO 代表) / 小津誠一 (E.N.N. 代表/日月会 会長) / 鈴木 明 (本学建築学科 教授) / 石井 健 (ブルースタジオ執行役員/日月会 副会長)	日月会/本学校友会/デザイン・ラウンジ	日月会
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウスデザイナー / エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
ケビン・クラーク (Content Evolution) / 柴田英喜 (日本IBM) / 澤谷由里子 (名古屋商科大学) / 山崎和彦 (Xデザイン学校)	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ
epa!	東京ミッドタウン/本学	東京ミッドタウン/本学 / デザイン・ラウンジ
杉田佳香 (デザイン・ラウンジ) / 板橋孝浩 (本学)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
457	2018/6/5	ワークショップ	未来を描くとは?〜ビジネスにおけるアートの新しい可能性
458	2018/6/13	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
459	2018/6/14	レクチャー	Xデザイン学校公開講座+第3回フューチャー・エクスペリエンスフォーラム「ソーシャルとイノベーション」
460	2018/6/18	レクチャー	川崎市立川崎総合科学高等学校 デザインハブ説明会
461	2018/6/20-6/26	展示	東京ミッドタウン店ギャラリー 特別展「うつわと和菓子」
462	2018/6/20	勉強会	折詰め回 第68回
463	2018/6/21	レクチャー	小田原城北工業高等学校 デザインハブ見学
464	2018/6/22	イベント	社会をクリエイティブにデザイン 第2回
465	2018/6/23	トークショー	特別展『うつわと和菓子』関連イベント トークショー「3人の工芸家の甘い話」
466	2018/6/26	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
467	2018/6/28	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
468	2018/7/6	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
469	2018/7/7	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
470	2018/7/10	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
471	2018/7/11	レクチャー	WEデザインスクール理論基礎
472	2018/7/23	レクチャー	視覚伝達デザイン学科「情報デザイン」プレゼンテーション
473	2018/7/24	勉強会	折詰め回 第69回
474	2018/7/25	レクチャー	武蔵野美術大学×長瀬産業 産学共同研究 ～トライタンの用途開発と新しい価値～
475	2018/7/31-8/1	ワークショップ	東京工業大学との合同WS「コンセプト・デザイン2018」by楽天ビューティ
476	2018/8/4-8/5	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「見つけよう!世界にひとつだけの星空を」
477	2018/8/9	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2018「～粘土でフィギュアをつくろう!～流れ星をデザインする」
478	2018/8/10	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2018「活版印刷でオリジナルのノートをデザインする」
479	2018/8/27	レクチャー	Xデザイン学校公開講座「融けるデザイン+つなぐデザイン」
480	2018/8/28	勉強会	折詰め会 第70回
481	2018/9/5	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 1
482	2018/9/7	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
483	2018/9/1-9/24	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第74回企画展「ゼミ展」
484	2018/9/9	トーク/レセプション	東京ミッドタウン・デザイン部:デザインハブ「ゼミ展」ギャラリーツアー&交流会
485	2018/9/10	レクチャー	Xデザイン学校公開講座「デザイン・ウィズ・ノンヒューマン+サービスのデザイン」
486	2018/9/12	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 2
487	2018/9/19	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 3
488	2018/9/26	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 4
489	2018/9/27	勉強会	折詰め会 第71回
490	2018/10/6	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
491	2018/10/10	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 5
492	2018/10/12	トーク/レセプション	武蔵野美術大学・サントベテルブルグ芸術アカデミー交流プログラム
493	2018/10/14	レクチャー	日中若手職人交流事業 デザインハブ視察
494	2018/10/17	勉強会	折詰め会 第72回

出演者・ゲスト等	主催	企画・運営
長谷部貴美(株式会社ホワイトシップ)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
安西洋之(モバイルクルーズ 代表取締役)	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ	Xデザイン学校/デザイン・ラウンジ
近藤直樹(日本グラフィックデザイナー協会)/桜井綾佳(日本デザイン振興会)/手羽一郎(本学)	日本デザイン振興会	日本デザイン振興会
株式会社 虎屋/株式会社 木村硝子店	本学	本学工芸工業デザイン学科 クラフトデザインコース陶磁専攻/ デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
近藤直樹(日本グラフィックデザイナー協会)/桜井綾佳(日本デザイン振興会)/手羽一郎(本学)	日本デザイン振興会	日本デザイン振興会
丸山幸伸(日立製作所 主管デザイナー)/井口博美(本学デザイン情報学科 教授)	ソーシャルクリエイティブ・イニシアチブ 準備事務局/デザイン・ラウンジ	ソーシャルクリエイティブ・イニシアチブ 準備事務局/デザイン・ラウンジ
高橋禎彦(ガラス作家/多摩美術大学 教授)/羽生野亜(木工芸作家)/西川 聡(陶芸家/本学工芸工業デザイン学科 教授)/岡本玲子(デザインプロデューサー)	本学工芸工業デザイン学科 クラフトデザインコース陶磁専攻/ デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科 クラフトデザインコース陶磁専攻/ デザイン・ラウンジ
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
西本企良(本学視覚伝達デザイン学科 教授)/李ナレ(本学 非常勤講師)/本学視覚伝達デザイン学科 学生	デザイン・ラウンジ/ 本学視覚伝達デザイン学科研究室	デザイン・ラウンジ/ 本学視覚伝達デザイン学科研究室
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
田中桂太(本学工芸工業デザイン学科 教授)/マイケル・ウー(Eastman Chemical社 上海支社)/増井(長瀬産業カラー & プロセッシング事業部ポリマープロダクト部)/大澤かほる(日本流行色協会 トレンドセッター)	長瀬産業株式会社/ デザイン・ラウンジ	長瀬産業株式会社/ デザイン・ラウンジ
東京工業大学 学生/本学 学生	東京工業大学サイエンス&アート Lab Creative Flow/本学社会連携チーム	東京工業大学サイエンス&アート Lab Creative Flow/本学社会連携チーム/ デザイン・ラウンジ
桃色めがね	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
まんまる〇	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
渡邊恵太(明治大学)/小島健嗣(富士フィルム)/浅野 智(Xデザイン学校)/山崎和彦(Xデザイン学校)	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
京都工芸繊維大学工芸科学部デザイン・建築学課程中野デザイン研究室/慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス石川初研究室嶋川肇研究室/女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻/多摩美術大学Pacific Rim Project/東京藝術大学芸術学部 デザイン科/東京工芸大学広告&ソーシャルデザイン研究室/東北大学工学部建築・ 社会環境工学科都市・建築学コース建築設計D(7 Semester 授業)/法政大学デザイン工学部 システムデザイン学科インタフェースデザイン研究室/本学工芸工業デザイン学科	デザインハブ	デザインハブ
京都工芸繊維大学/慶應義塾大学/女子美術大学/多摩美術大学/東京藝術大学/東京工芸大学/ 東北大学/法政大学/本学	デザインハブ	デザインハブ
上平崇仁(専修大学)/天沼 聰(エアークローゼット)/浅野 智(Xデザイン学校)/山崎和彦(Xデザイン学校)	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO/WEデザインスクール	WEデザインスクール
セミョン・ミハイルフスキー(サントベテルブルグ芸術アカデミー 学長)/サントベテルブルグ芸術アカデミー 学生	日露青年交流センター/本学	デザイン・ラウンジ
坪井浩尚(プロダクトデザイナー)/矢島進二(日本デザイン振興会)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	日本デザイン振興会	日本デザイン振興会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
495	2018/10/22	レクチャー	Xデザイン学校公開講座+DMLセミナー「デザイン×アート×ビジネスのネットワーク」
496	2018/10/24	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 6
497	2018/10/27	トークセッション	DESIGN TOUCH CONFERENCE Session_#05 みらいのアイデア「クリエイティブ教育とイノベーション」
498	2018/10/27	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
499	2018/10/31	ワークショップ	"こどもOS" をモノづくりに活かす!「プレイフル・デザイン・カード」を使ったデザイン発想ワークショップ
500	2018/11/1	ワークショップ	Farrierワークショップ～コンセプト設計が出来るデザイナーへの一歩～
501	2018/11/3	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
502	2018/11/10	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 7, 8
503	2018/11/12	レクチャー	武蔵野美術大学大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコース 説明会
504	2018/11/16	勉強会	折詰め会 第73回
505	2018/11/17	レクチャー	WEデザインスクール 10 days デザインリテラシー・ベーシック day 9, 10
506	2018/11/25-12/24	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第76回企画展「企(たくらみ)展」-ちょっと先の社会を作るデザイン-
507	2018/11/25	レセプション	企画展「企(たくらみ)展」レセプションパーティ
508	2018/11/26	トークセッション	多言語文化とタイポグラフィ:グローバル時代の文化創造に向けて
509	2018/11/27	トークセッション	企(たくらみ)展 関連企画:トークセッション「これからの『クリエイティブ』な仕事を考える」
510	2018/11/28	ギャラリートゥアー	企(たくらみ)展 関連企画:東京ミッドタウン・デザイン部「夜のギャラリートゥアー」
511	2018/11/29	トークセッション	企(たくらみ)展 関連企画:トークセッション「都市と地方、デザインができること」
512	2018/12/6	トークセッション	企(たくらみ)展 関連企画:トークセッション「藤野の地域デザイン」
513	2018/12/7	トークセッション	企(たくらみ)展 関連企画:トーク&ワークショップ「beの肩書き『人生の肩書き』は、プレゼントしよう」
514	2018/12/8	ワークショップ	企(たくらみ)展 関連企画:ワークショップ「もうすぐ つみきになる つみき:あなたの手で作る、世界に一つの贈り物」
515	2018/12/9	イベント	企(たくらみ)展 関連企画:トーク&ワークショップ「1DAY出張! パーマカルチャーと平和道場」
516	2018/12/13	トークセッション	企(たくらみ)展 関連企画:トークセッション「未来の学びをソーシャルデザインする」
517	2018/12/18	イベント	企(たくらみ)展 関連企画:「夜のギャラリートゥアー」
518	2018/12/21	勉強会	折詰め会 第74回
519	2018/12/22	イベント	企(たくらみ)展 関連企画:「企(たくらみ)展×green drinks」 一同開催「企(たくらみ)マルシェくむすんでひらいて」-
520	2019/1/12	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
521	2019/1/13	イベント	「越境し、拡張する美術鑑賞」第2回
522	2019/1/16	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
523	2019/1/24	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
524	2019/1/29	勉強会	折詰め会 第75回
525	2019/1/30	レクチャー	WEデザインスクール「社会人のためのデザイン入門(全1回)」
526	2019/2/2	イベント	「につぼん多文化共生発信プロジェクト」成果発表会
527	2019/2/6	イベント	Adobe "Make it! Student Creative Day"
528	2019/2/17	イベント	東京ミッドタウンFamily Day 2019 似顔絵コーナー出展
529	2019/2/20	勉強会	折詰め会 第76回
530	2019/2/22	レクチャー	フィリピン商工会議所デザインハブ視察
531	2019/3/5	イベント	油絵学科特別講義「Adan Vallecillo "Poetica del Material" -素材の詩法-」
532	2019/3/11	イベント	「ぼくらの『デザイン』に名前をつけよう」by TAKT PROJECT / we+ / YOY
533	2019/3/13	勉強会	折詰め会 第77回
534	2019/3/15	レクチャー	フィリピンサンベダ大学学生 デザインハブ見学
535	2019/4/19	勉強会	折詰め会 第81回

出演者・ゲスト 等	主催	企画・運営
安西洋之(モバイルクルーズ 代表)/山崎和彦(Xデザイン学校 共同代表)/ 八重樫文(立命館大学 教授)	デザイン・ラウンジ/ Xデザイン学校	デザイン・ラウンジ/ Xデザイン学校
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
丸山幸伸(株式会社日立製作所 主管デザイナー)/萩原幸也(アートディレクター)/ 長澤忠徳(本学 学長)/下川一哉(株式会社意と匠研究所 代表)	東京ミッドタウン・デザイン部	東京ミッドタウン・デザイン部
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
川本誓文(大阪府産業デザインセンター 主任研究員/キッズデザイン協議会こどもOS研究会 リーダー)/河崎由美子(積水ハウス株式会社総合住宅研究所住生活研究所 室長)	デザイン・ラウンジ/特定非営利活動 法人キッズデザイン協議会	デザイン・ラウンジ
根岸 遼(株式会社ファリアー)	株式会社ファリアー/デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
本学クリエイティブイノベーション学科 教職員	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)/渡邊 翔(WEデザインスクール 講師)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
熱海まち×アートのプロジェクト/一般社団法人リヴオン/WEデザインスクール/ ウェル洋光台/a.school / NPO法人Ubdobe / NPO法人Mission ARM Japan / GIVE & GIFT / greenz.jp / 憲法のきほん/公社団地 茶山台としよかん/ co-toiro iwabuchi / 椎茸祭/自然電力/シュタイナー学園/只本屋/地域通貨よるづ屋/つみき設計施工社/D-LAND / 日本仕事百貨//パーマカルチャーセンタージャパン//パーマカルチャーと平和道場/ 廃材エコヴィレッジゆるゆる/原つば大学/VIVITA / 藤野エリアマネジメント/ 藤野電力/ ようび/リノベーションスクール	デザインハブ	デザイン・ラウンジ/ 特定非営利活動法人グリーンズ [以下、NPO グリーンズ]
長澤忠徳(本学 学長)/井口博美(本学デザイン情報学科 教授)/企(たくらみ)展 参加者	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
ヨウ・テ・バルドマーケル(タイプフェイスデザイナー)/イエン・ライナム(デザイナー)/ 山田和寛(nipponia)/至賀清徳(編集者)	アートフランダース・ジャパン/ デザインハブ	アートフランダース・ジャパン/ デザインハブ
手羽イチロウ(美大愛好家)/酒井博基(D-LAND 代表) / 小野裕之(greenz.jp ビジネスアドバイザー)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
織戸龍也(co-toiro iwabuchi) / 河野奈保子(greenz.jp)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/デザインハブ/ NPO グリーンズ
山口祐史(ようび)/三上悠里(憲法のきほん)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
中村賢一(藤野エリアマネジメント 代表理事)/設楽清和(パーマカルチャー・センター・ ジャパン 代表)/高橋靖典(シュタイナー学園 理事長)/傍島飛龍(廃材エコヴィレッジゆるゆる 村長)/池辺潤一(藤野地域通貨よるづ屋事務局)/植原正太郎(greenz.jp 事業統括 理事)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
兼松住宏(勉強家)/鈴木菜央(greenz.jp 編集長)/植原正太郎(greenz.jp 事業 統括理事)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
河野 直(つみき設計施工社)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
藤井麗美(ライフコーチ)/ソーヤー海(共生革命家)/畑中みどり(グラフィック ファンリテーター)/高瀬美欧(ラッパー)/佐藤有美(greenz.jp シニアライター)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
佐藤桃子(VIVITA)/小村陽子(VIVITA)/稲葉裕美(WEデザインスクール)/河野奈保子(greenz.jp)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
織戸龍也(co-toiro iwabuchi) / 河野奈保子(greenz.jp)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
鈴木菜央(greenz.jp 編集長)/河野奈保子(greenz.jp)/植原正太郎(greenz.jp 事業統括理事)/ 山口祐史(ようび)/中嶋希実(日本仕事百科)/山田 毅(只本屋 代表)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/NPO グリーンズ
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
杉浦幸子(本学芸術文化学科 教授)	本学/公益社団法人日本美術教育連合	デザイン・ラウンジ/ 公益社団法人日本美術教育連合
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
稲葉裕美(WEデザインスクール 校長)	デザイン・ラウンジ/株式会社OFFICE HALO / WEデザインスクール	WEデザインスクール
本学 学生/カシオ計算機 社員/三代純平(本学言語文化研究室 教授) / 米徳信一(本学芸術文化学科 教授)	本学/株式会社カシオ計算機	デザイン・ラウンジ/ 株式会社カシオ計算機
応募参加学生/酒井博基(京都造形芸術大学 客員教授)/山戸結希(映画監督) / アン・ルネス(アドビ エグゼクティブバイスプレジデント兼CMO)	本学/アドビシステムズ株式会社	デザイン・ラウンジ/アドビシステム ズ株式会社
東京ミッドタウン テナント関係者/本学 学生2名	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	東京ミッドタウンマネジメント株式会社
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
工藤千佳(日本グラフィックデザイナー協会)/桜井綾佳(日本デザイン振興会) / 加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	日本デザイン 振興会	日本デザイン 振興会
エクトル・アレハンドロ・バルマ・セルナ(ホンジュラス共和国大使館 特命全権大使) / アダン・バジェーション(アーティスト)/赤塚祐二(本学油絵学科 教授)	本学油絵学科研究室/ ホンジュラス共和国大使館	デザイン・ラウンジ
吉泉 聡(TAKT PROJECT)/安藤北斗(we+) / 林登志也(we+) / 小野直紀(YOY) / 山本侑樹(YOY) / 角尾 舞(フリーライター)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
工藤千佳(日本グラフィックデザイナー協会)/桜井綾佳(日本デザイン振興会) / 加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	日本デザイン 振興会	日本デザイン 振興会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
536	2019/4/20	レクチャー	第15回フォルム・フォロセミナー
537	2019/5/22	勉強会	折詰め会 第82回
538	2019/5/25-5/26	イベント	六本木アートナイト2019「ガチャむらやII-六本木アートナイト2019-」
539	2019/5/16-6/5	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ特別展 紙わざ大賞展 「紙」の可能性を追求するアートコンペティション
540	2019/5/31-6/2	展示	うつわと夜の梅-とらやの羊羹から生まれた11人のうつわ-
541	2019/6/1	トークショー	トークイベント『羊羹のおはなし』+和菓子の器と「夜の梅」でお茶会
542	2019/6/23	イベント	ブラット・インスティテュートの学生による「日本のデザインと文化」ビジュアル・プレゼンテーション
543	2019/6/26	勉強会	折詰め会 第83回
544	2019/6/29	イベント	Art educationの未来-美術鑑賞教育について考える-
545	2019/7/16-19-23	イベント	CHORDxxCODE LAB “なぜか好き”を価値化するデザイン-テクノロジーでモノの潜在価値 (“なぜか好き”)を測ってサービスに応用する-
546	2019/7/26	勉強会	折詰め会 第84回
547	2019/8/2	イベント	埼玉県高等学校 美術、工芸教育研究会 現地見学研修会
548	2019/8/3	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2019「粘土でアイスクリーム屋の店員さんフィギュアを作ろう！」
549	2019/8/4	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2019「みんなで作ろう！カラフルきのこの森」
550	2019/8/5	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2019「クジラとおでかけ！ポケットティッシュケースを作ろう」
551	2019/8/8	ワークショップ	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2019「活版印刷で自分だけのノートを作ろう！」
552	2019/8/10-8/11	ワークショップ	TOKYO MIDTOWN KIDS WEEKS みんなでつくろう日本の夏「キラキラ！まわるクラゲくんを作ろう」
553	2019/8/28	勉強会	折詰め会 第85回
554	2019/9/2-9/28	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第81回企画展「ゼミ展2019」
555	2019/9/9	イベント	はこだて未来大学×武蔵野美術大学 交流授業
556	2019/9/11	レクチャー	武蔵野美術大学公開講座2019 第1回「0→1を生むアートとデザインの思考」を学ぶ！講師：長谷川 愛
557	2019/9/13	ワークショップ	「学生限定！はじめてのゲームUI」Farrierワークショップwith コロプラ
558	2019/9/18	レクチャー	武蔵野美術大学公開講座2019 第2回「あたらしい仕事をつくるビジョン力」を学ぶ！講師：鈴木菜央/ナカムラケンタ
559	2019/9/19	勉強会	折詰め会 第86回
560	2019/9/22	トーク/レセプション	東京ミッドタウン・デザインハブ企画展「ゼミ展2019」ギャラリートーク&交流会
561	2019/9/27	ワークショップ	「学生限定！はじめてのゲームUI」Farrierワークショップwithコロプラ 第二回
562	2019/10/2	レクチャー	武蔵野美術大学公開講座2019 第3回「アート×ビジネスの関係」を学ぶ！講師：遠山正道
563	2019/10/16	勉強会	折詰め会 第87回
564	2019/10/17	レクチャー	武蔵野美術大学公開講座2019 第4回「人間の身体と道具と社会のデザイン」を学ぶ！公開講座：関野吉晴
565	2019/10/25	レクチャー	Xデザイン学校公開講座「文化とコンテキストとデザインを考える」
566	2019/11/1-11/2	ワークショップ	秋のキッズワークショップ「Denkigamiで光って動く動物たちをつくろう！」
567	2019/11/7	勉強会	折詰め会 第88回
568	2019/11/8	レクチャー	Xデザイン学校公開講座「エスノグラフィーとデザインを考える」
569	2019/11/25-12/25	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第83回企画展「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」
570	2019/11/28	レクチャー	フィリピン大使館貿易投資部 デザインハブ見学会
571	2019/12/1	イベント	企画展「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」トークイベント「既存の枠組みを超えて」Part1・レセプションパーティー
572	2019/12/4	レクチャー	山形県立米沢興譲館高校 デザインハブ見学会
573	2019/12/6	レクチャー	富山県立桜井高校 デザインハブ見学会
574	2018/12/9	ギャラリートーク	東京ミッドタウン・デザイン部「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」夜のギャラリートーク
575	2019/12/13	勉強会	折詰め会 第89回
576	2019/12/15	イベント	企画展「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」トークイベント「既存の枠組みを超えて」Part2

出演者・ゲスト等	主催	企画・運営
岩佐十良(株式会社自遊人 代表取締役/クリエイティブディレクター)/小津誠一(E.N.N.代表/日月会 会長)/鈴木 明(本学建築学科 主任教授)/石井 健(ブルースタジオ 執行役員/日月会 副会長)	日月会/本学校友会/ デザイン・ラウンジ	日月会
インハウスデザイナー/エンジニア 中村悠一郎	デザイン・ラウンジ 東京ミッドタウン/本学	デザイン・ラウンジ/折詰め会 東京ミッドタウン/本学/ デザイン・ラウンジ
まんまる〇/廣村正彰(本展アートディレクション/東京ミッドタウン・デザイン部 部長)/尾崎光明(特種東海製紙株式会社 執行役員営業本部長) 本学工芸工業デザイン学科 陶磁専攻学生	特種東海製紙株式会社	デザインハブ
河上可央理(株式会社 虎屋)/黒川さゆり(株式会社 虎屋)/ 本学工芸工業デザイン学科陶磁専攻 学生	本学工芸工業デザイン学科 クラフトデザインコース陶磁専攻/ デザイン・ラウンジ	本学工芸工業デザイン学科 クラフトデザインコース陶磁専攻/ デザイン・ラウンジ
尾原 徹(ブラット・インスティテュート スクール・オブ・デザイン 主宰教授)/伊藤友紀(伊藤友紀建築研究所 主宰/本学建築学科 非常勤講師)	ブラット・インスティテュート スクール・オブ・デザイン	ブラット・インスティテュート スクール・オブ・デザイン/ デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
杉浦幸子(本学芸術文化学科 教授)/金子由紀子(国際芸術センター青森 主任学芸員)/船井美佐(アーティスト)/山本雅美(船橋市教育委員会 美術学芸員)	任意団体 fulfill	デザイン・ラウンジ/ 本学芸術文化学科研究室
上岡玲子(九州大学大学院芸術工学研究院 准教授)/橋田朋子(早稲田大学基礎理工学部 表現工学科 専任講師)/ソノ ヨシア(東京大学大学院情報理工学系研究科 特任研究員)	ダイヤモンド・デザインマネジメント・ ネットワークDMN事務	ダイヤモンド・デザインマネジメント・ ネットワークDMN事務
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
西中 賢(本学芸術文化学科)/西 崇弘(本学広報チーム)/犬塚美咲(21_21 DESIGN SIGHT)/前村達也(21_21 DESIGN SIGHT)/工藤千佳(日本グラフィックデザイン協会)/藤山佐樹子(日本グラフィックデザイン協会)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	21_21 DESIGN SIGHT/ デザイン・ラウンジ	21_21 DESIGN SIGHT/ デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
kimama	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
kimama	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
まんまる〇	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
まわれ！クラゲくん	東京ミッドタウンマネジメント株式会社	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
九州大学芸術工学部未来構想デザインコース/専門学校 桑沢デザイン研究所総合デザイン科3年 ビジュアルデザイン専攻浅葉ゼミ/多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻 第2スタジオ/東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻藤崎圭一郎研究室/東京工芸大学 デザイン学科インタラクティブデザイン研究室/東京造形大学大学院「会津プロジェクト」/ 東北大学五十嵐太郎研究室/東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科3年/ 本学デザイン情報学科4年白石ゼミ	デザインハブ	デザインハブ
はこだて未来大学/本学デザイン情報学科4年白石ゼミ	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
長谷川 愛(アーティスト/デザイナー)/稲葉裕美(OFFICE HALO 代表取締役)	株式会社OFFICE HALO/ 本学学生会携チーム	本学
根岸 遼(株式会社ファリアー)/TAJI(UIデザイナー・マネージャー)/アッキー(UIデザイナー)	株式会社ファリアー/デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
鈴木菜央(NPO グリーンズ 代表理事/green.jp 編集長)/ナカムラケンタ(日本仕事百貨 代表/ 株式会社シゴトヒト 代表取締役)/稲葉裕美(OFFICE HALO 代表取締役)	株式会社OFFICE HALO/ 本学学生会携チーム	本学
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
九州大学/専門学校 桑沢デザイン研究所/多摩美術大学/東京藝術大学/東京工芸大学/ 東京造形大学 大学院/東北大学/東北芸術工科大学/武蔵野美術大学	デザインハブ	デザインハブ
根岸 遼(株式会社ファリアー)/TAJI(UIデザイナー・マネージャー)/アッキー(UIデザイナー)	株式会社ファリアー/デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
遠山正道(株式会社スマイルズ代表取締役社長)/稲葉裕美(OFFICE HALO 代表取締役)	株式会社OFFICE HALO/ 本学学生会携チーム	本学
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
関野吉晴(探検家)/稲葉裕美(OFFICE HALO 代表取締役)	株式会社OFFICE HALO/ 本学学生会携チーム	本学
安西洋之(モバイルクルーズ 代表)/山崎和彦(Xデザイン学校 共同代表)/ルータ・ヴァルサイテイ (カウナス工科大学デザインセンター・ディレクター)/本條晴一郎(静岡大学 准教授)	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校
バレリアン・プロス(デザイナー)/ジョー・レーマン(デザイナー)/ジン・イ(デザイナー)	denkigami/デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
佐々牧雄(関東学院大学 教授)/上平崇仁(専修大学 教授)/岩崎博論(博報堂 ティレクター)/ 山崎和彦(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校	デザイン・ラウンジ/Xデザイン学校
本学視覚伝達デザイン学科研究室/本学視覚伝達デザイン学科 卒業生	デザインハブ	本学視覚伝達デザイン学科研究室/ デザイン・ラウンジ
野本あずみ(日本デザイン振興会)/加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザインハブ	デザインハブ
宇野由希子(書体デザイナー)/河野奈保子(デザインコーディネーター)/西沢一登(VIVITA デザイナー)/ 石塚英樹(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/北崎允子(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/ 中野豪雄(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)	デザインハブ	本学視覚伝達デザイン学科研究室/ デザイン・ラウンジ
Leimei Julia Chiu(本学視覚伝達デザイン学科 教授)	デザインハブ	デザインハブ
加倉井美香(デザイン・ラウンジ)	デザインハブ	デザインハブ
寺山祐策(本学視覚伝達デザイン学科 主任教授)	デザイン・ラウンジ/デザインハブ	デザイン・ラウンジ/デザインハブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
イシカワミチコ(みつばち鍼灸院 院長)/岩淵真理(絵本作家/環境教育コミュニケーション研究者)/ 小杉幸一(クリエイティブディレクター/アートディレクター)/石塚英樹(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/ 北崎允子(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/中野豪雄(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)	デザインハブ	本学視覚伝達デザイン学科研究室/ デザイン・ラウンジ

No	年/月/日	ジャンル	イベント名
577	2019/12/15	イベント	企画展「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ」トークイベント「既存の枠組みを超えて」Part3
578	2020/1/22	勉強会	折詰め会 第90回
579	2020/1/24	レクチャー	感情を伝える形と音 -thatgamecompanyがゲームというメディアに夢見る世界
580	2020/1/25	イベント	「アートと社会のこれからの関係を考える」
581	2020/1/26	イベント	「越境し、拡張する美術鑑賞Ⅱ」
582	2020/1/31	イベント	「にっぽん多文化共生発信プロジェクト」成果発表会
583	2020/2/13	勉強会	折詰め会 第91回
584	2020/2/20-2/24	展示	未来の学校祭 2020 脱皮キャンパス・エキシビション
585	2020/2/22	レクチャー	「未来の学校祭 2020」脱皮トーク Post University: 誰のための大学?
586	2019/2/22	イベント	「未来の学校祭 2020 脱皮キャンパス・エキシビション」Campus Exhibition 公開講評会
587	2020/2/26	勉強会	第1回 脳窓
588	2020/4/23	勉強会	第2回 脳窓
589	2020/4/24	勉強会	折詰め会 第92回
590	2020/5/22	勉強会	折詰め会 第93回
591	2020/6/18	勉強会	折詰め会 第94回
592	2020/6/25	勉強会	第3回 脳窓
593	2020/7/17	勉強会	折詰め会 第95回
594	2020/8/1	イベント	芸術工学会 2020年度夏期大会・シンポジウム
595	2020/8/15	イベント	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ2020「活版印刷で自分だけのノートを作ろう！」
596	2020/8/24	勉強会	折詰め会 第96回
597	2020/8/27	勉強会	第4回 脳窓
598	2020/8/29	イベント	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ2020「粘土で宇宙人をつくろう！」
599	2020/8/30	イベント	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ2020「こどもの感性を伸ばすために親にできること～親も子どもクリエイティブに生きるためのヒント～」
600	2020/9/4	勉強会	折詰め会 第97回
601	2020/9/5	イベント	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ2020「フェルトシールをはって親子バッグをつくろう！」
602	2020/9/6	イベント	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ2020「こどもの感性を伸ばすために親にできること～親も子どもクリエイティブに生きるためのヒント～」
603	2020/9/8-9/27	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第87回企画展「ゼミ展2020 見のがし卒展」
604	2020/9/13	イベント	企画展「ゼミ展2020 見のがし卒展」多摩美術大学+武蔵野美術大学オンラインギャラリートーク～ゼミ展2020 見のがし卒展～
605	2020/10/9	勉強会	折詰め会 第98回
606	2020/10/24	勉強会	第5回 脳窓 - 拡大版 -
607	2020/11/14-12/13	展示	東京ミッドタウン・デザインハブ第89回企画展「見えてないデザイナー - 社会に問い続けるムサビ -」
608	2020/11/20	勉強会	折詰め会 第99回
609	2020/11/28-12/12	レクチャー	大学説明会・進学相談会「美術大学での学びについて」
610	2020/12/5	トークセッション	トークイベント「探究とSTEAM教育 - これからの高等学校と大学の共創 -」
611	2020/12/5	ワークショップ	フェルトシールをはって親子バッグをつくろう!
612	2020/12/6	トークセッション	トークイベント「社会のモヤモヤを見つけ、問い続ける」
613	2020/12/6	ワークショップ	ワークショップ「高校生の視点で課題探究をしよう! - フォト・オブザベーション体験WS -」
614	2020/12/9	勉強会	折詰め会 第100回
615	2020/12/12	ワークショップ	ワークショップ「高校生の視点で課題探究をしよう! - フォト・オブザベーション体験WS -」
616	2020/12/12	イベント	Open Market Talk & LIVE vol. 07「雑談力で、デザインとアートと社会をつないでみる」
617	2020/12/13	トークセッション	トークイベント「見えてないデザイン、社会に問い続けるムサビ」

出演者・ゲスト等	主催	企画・運営
沢田耕一(本学視覚伝達デザイン学科 客員教授)/新島 実(本学視覚伝達デザイン学科 名誉教授)/寺山祐策(本学視覚伝達デザイン学科 主任教授)/石塚英樹(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/北崎允子(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/中野豪雄(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)	デザインハブ	本学視覚伝達デザイン学科研究室/ デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
水谷 立 (thatgamecompany リードオーティオデザイナー)/吉野令佳 (thatgamecompany 3Dアーティスト アートチームマネジャー)	thatgamecompany/ デザイン・ラウンジ	thatgamecompany/ デザイン・ラウンジ
上坂真人(アマナ 執行役員/本学デザイン情報学科 客員教授)	本学/公益社団法人日本美術教育連合	デザイン・ラウンジ/ 公益社団法人日本美術教育連合
杉浦幸子(本学芸術文化学科 教授)	本学/公益社団法人日本美術教育連合	デザイン・ラウンジ/ 公益社団法人日本美術教育連合
本学 学生/カシオ計算機 社員/三代純平(本学言語文化研究室教授)/米徳信一(本学芸術文化学科 教授)	本学/株式会社カシオ計算機	デザイン・ラウンジ/ 株式会社カシオ計算機
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
慶應義塾大学SFC/多摩美術大学情報デザイン学科 メディア芸術コース/筑波大学/本学造形学部/リッツ芸術デザイン大学	東京ミッドタウン	東京ミッドタウン/ アルス エレクトロニカ
岩田洋夫(筑波大学システム情報系 教授)/久保田晃弘(多摩美術大学情報デザイン学科 教授)/古堅真彦(本学視覚伝達デザイン学科 教授)/Ute Ploier(リッツ芸術デザイン大学ファッション&テクノロジー学科 学科長)/久納鏡子(アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ)	東京ミッドタウン	東京ミッドタウン/ アルス エレクトロニカ
岩田洋夫(筑波大学システム情報系 教授)/久保田晃弘(多摩美術大学情報デザイン学科 教授)/古堅真彦(本学視覚伝達デザイン学科 教授)/後藤映則(本学視覚伝達デザイン学科 専任講師)/Ute Ploier(リッツ芸術デザイン大学ファッション&テクノロジー学科 学科長)/久納鏡子(アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ)	東京ミッドタウン	東京ミッドタウン/ アルス エレクトロニカ
25歳以下クリエイティブ職/学生	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
25歳以下クリエイティブ職/学生	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
25歳以下クリエイティブ職/学生	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
黒田宏治(静岡文化芸術大学)/青木史郎(日本デザイン振興会)/橋本直樹(経済産業省)/中山郁英(行政デザイン研究者)/横山和人(神戸市)/Prof. Kun-Pyo LEE(香港理工大学設計学院 院長)	芸術工学会・ 2020春期大会実行委員会	芸術工学会・ 2020春期大会実行委員会
まんまる〇	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
25歳以下クリエイティブ職/学生	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
タカハシカオリ(フィギュア作家)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
WEデザインスクール	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
佐久間茜(本学 卒業生/イラストレーター)/ドル萌々子(本学大学院美術専攻日本画コース1年)	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
WEデザインスクール	デザインハブ	デザイン・ラウンジ
多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻 /多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻テキスタイルデザイン領域/本学基礎デザイン学科/九州大学芸術工学部未来構想デザインコース/東京造形大学インダストリアルデザイン専攻領域/東京工芸学部社会基盤学科 交通・都市・国土学研究室/東北大学都市・建築デザイン学講座/東北大学都市・建築計画学講座	デザインハブ	デザインハブ
多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻 /多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻テキスタイルデザイン領域/本学基礎デザイン学科	デザインハブ	デザインハブ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
林 隆也(デザイナー)/一森加奈子(アートディレクター/グラフィックデザイナー)/太田遥香(デザイナー/アートディレクター-見習い)/宮崎靖之(衣裳家)/市森天蠅(OMAR AFRIDI デザイナー)/菊田 潤 (OMAR AFRIDI デザイナー)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
本学クリエイティブイノベーション学科	デザインハブ	本学
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
河野通義(本学社会連携チーム)	本学	デザイン・ラウンジ
小川悠(一般社団法人i.club 代表理事)/清水輝大(株式会社 ソニー・グローバルエデュケーションエデュケーションエヴァンジェリスト)/長谷川敦士(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)/河野通義(本学社会連携チーム)	本学	デザイン・ラウンジ
佐久間茜(本学 卒業生/イラストレーター)/ドル萌々子(武本学大学院美術専攻日本画コース1年)	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ
若杉浩一(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)/冨井大裕(本学彫刻学科 准教授)	本学	デザイン・ラウンジ
若杉浩一(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)/冨井大裕(本学彫刻学科 准教授)	本学	デザイン・ラウンジ
インハウスデザイナー/エンジニア	デザイン・ラウンジ	デザイン・ラウンジ/折詰め会
長谷川敦士(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)	本学	デザイン・ラウンジ
鈴木潤子(@J ティレクター)/白木崇世(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)/草薙多美(Sunny's coffee & music 代表)/河野通義(本学社会連携チーム)/若杉浩一(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)	本学	本学
北崎允子(本学視覚伝達デザイン学科 准教授)/山中一宏(本学工芸工業デザイン学科 教授)/津村耕佑(本学空間演出デザイン学科 教授)/長谷川敦士(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)/若杉浩一(本学クリエイティブイノベーション学科 教授)	本学	デザイン・ラウンジ

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 活動の考察



「武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ」オープニング式典 (2012年)



フィンランド発フードデザインワークショップ
「PAI PAI パイパイ」(2016年)



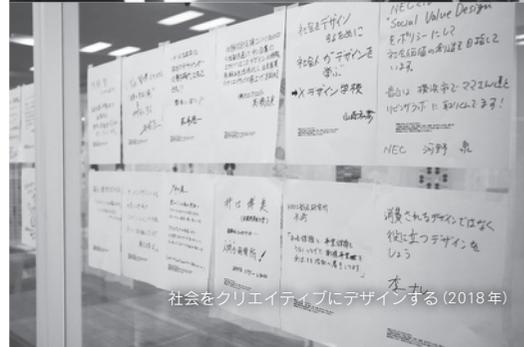
プリンス頓「ライフタイムデザイン」戦略研究プロジェクト
(2013/2014年)



鑑賞+アニメーションワークショップ
「アルチンホルドで世界と自分をつなぐ」(2017年)



「こどもOS」をモノづくりに活かす！「プレイフル・デザイン・カード」を使ったデザイン発想ワークショップ(2014/2018年)



社会をクリエイティブにデザインする(2018年)



武蔵野美術大学×大建工業株式会社 産学協同プロジェクト
「魔法のじゆたんプロジェクト」(2015年)



武蔵野美術大学×長瀬産業 産学共同研究
～トラライタンの用途開発と新しい価値～(2018年)



どうようす・ティ(2014/2017年)



未来の学校祭2020 脱皮キャンパス・エキシビション(2020年)

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 活動の考察

加倉井 美香 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ アシスタントディレクター

デザイン・ラウンジ 活動の考察

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジの9年間の活動を、アシスタントディレクターが振り返ります。達成できたことだけでなく達成できなかったことも含めて、主に現場で起きたことにフォーカスして考察します。これから始まる、市ヶ谷でのデザイン・ラウンジの活動の一助となれば幸いです。

はじめに、1期目（2012年-2015年）の活動の考察です。大きな総合大学ではなく美術大学を、美術大学の可能性を信じて活動の場を与えてくださった日本デザイン振興会の皆様、日本グラフィックデザイナー協会の皆様、そして東京ミッドタウンマネジメントの皆様のご協力があり、全てが始まりました。ご関係頂いた皆様とのデザイン・ラウンジの活動の振り返り・検証は、本書のスペシャルインタビュー記事をご覧ください。

デザイン・ラウンジの活動趣旨について

2012年頃は、美術大学の研究・教育リソースが効果的に社会へ届いておらず、自治体・企業側からの美術大学のリソースに対する誤解が起きていることが多くありました。そのため、依頼企業からのプロジェクト提案のうち美術大学のステレオタイプに引っ張られたものも多くあり、実施に至るまでに大幅な内容の変更が必要であるケースや、実施にまで至らずに、提案段階で消えていくプロジェクトも少なからずありました。そういった中で、デザイン・ラウンジは「大学と社会をつなげるプラットフォーム」として機能するために、自治体・企業などへ積極的な美術大学のリソースを利用したプロジェクトの提案をしました。いわゆるドローイング、デザインを施すだけではなく、プロジェクトの前後関係を理解し、社会の複合的な問題を解決するような内容です。

2015年にデザイン・ラウンジにて開催したレクチャー

「サービスデザイン：手業なきデザイン？」では、こういった類型的な手工芸とは異なるデザインは「デザイン」と言えるのか？という視点から、サービスデザインを考えると、当時では挑戦的な領域をニコラス・ローズ氏（ロンドン芸術大学 セントラル・セント・マーチンズ）よりご紹介頂きました。リサーチ分野やビジネスコンサルティングからのサービスデザインの捉え方とは少し異なりますが、既存のデザイナーがデザイン領域としてサービスデザインを扱うことにより、製品の価値情報を的確に把握し、デザイン提案して頂くことが求められ始めた頃でもあり、株式会社コンセントと共同で、カスタマーの目線で問題を発見し課題化、解決へのアクションを検討するワークショップなども実施しました。各大学でも、ゼミや各教員レベルではサービスデザインという言葉が出ていた可能性はありますが、美術大学としてはいち早く着目し、集中的にプロジェクトを展開できたと認識しています。

また、六本木という立地を活かしたプロジェクトとして、それまで本学がアプローチできていなかった都心のシンクタンクやデザイン系企業とも活動を共にしました。その特徴は、連携先の企業に企画運営の任せるものではなく、デザイン・ラウンジと一緒にプロジェクトを進めていく体制であったことです。そして、産学共同プロジェクトより契約フェーズをよりコンパクトに、その分スピーディに、双方が課題意識を持って取り組みたい



サービスデザイン：手業なきデザイン？ (2015年)

プロジェクトのスタイルが、デザイン・ラウンジでの取り組みを通してノウハウが蓄積されていきました。これらの活動は、本学の産学連携の新しい形の原型に、そして市ヶ谷での活動イメージの基礎になったのではと思います。

デザイン・ラウンジの開所及びその周知について

開所して間もない頃は、デザインハブ内に初めて美術大学が入居したことを広く知って頂くために、情報発信活動を積極的に行いました。1期目では、公開講座「トップデザインセミナー」が象徴的です。日本のデザインはどんな方向へ進んでいくのか？デザイン教育をどう充実させるのか？このような命題を持って、企業や団体のデザイナーなど、日本を支えるデザイン界の方々にメッセージを発信して頂く企画でした。デザイン・ラウンジでの公開講座は、毎年少しずつコンセプトを変えながら4年にわたり全19回開催しました。

こういった対外的なイベントを実施する一方、「イベントや展示を通じて、デザインに関する情報を美術大学から発信していくことで、デザイン活動への関心を持ってもらう、つくることへの挑戦を促していく。つくることへの挑戦をする人の母体が増えていくことにより、デザインへの参画・賛同者同士が新しい関係を作っていく。美術大学および美術教育の現場はどういったものであるか、または将来どうなっていくべきかを提唱する。」という大きな構想は常に意識する必要がありました。デザイン・ラウンジの稼働率を高めることを考えると、敷居を下げてたくさんの関係者に多目的に使ってもらうべきという考えもありましたが、デザイン・ラウンジが単なるイベントスペースにならないようにするためです。その結果、たくさんのプロジェクトが生まれる場としてのデザイン・ラウンジの輪郭が整っていき、以降の活動の拡大に繋がっていきました。

また、学外への広報だけではなく、学内へ向けた周知も積極的に行いました。特に、学生にもデザイン・ラウンジのことを活用してもらうための企画の例としては、「MIDTOWN AWARDアートコンペ・デザインコンペ参加説明会」や「東京ミッドタウン主催の夏のキッズワークショップ企画参加コンペ」などがあります。これらの企画は、東京ミッドタウンマネジメント様と連携して実

施したもので、ご担当の方に企画審査や、学生の企画に対してアドバイス頂く形で、ご参加頂きました。また、東京ミッドタウンのお客様対応ご担当の方から、おもてなしやお客様対応についてのレクチャー「ホスピタリティ研修」に参加学生が受けたことは、東京ミッドタウンで実施したことならではの出来事で、教育的機会としても貴重でした。なお、このキッズワークショップでは、本学企画に2日間で親子約400組が毎年参加し、親子と接触する機会としても、費用対効果も高いイベントとなりました。

また、このような企画における学生の応募人数については、想定より多くの応募があったことがほとんどで、学生たちの関心の高さとモチベーションを感じることができました。こういった仕掛けを展開し、2013年後半頃からは「デザイン・ラウンジって何？」という学生が少しずつ減り、ふらっと訪れる学生が増えました。本学の学生のデザインハブへの出入りの増加に連動して、他大学の学生の出入りも増えていったことは、デザインハブ



公開講座「トップデザインセミナー」2014 第5回
小泉 誠 (本学空間演出デザイン学科教授/家具デザイナー) (2014年)



東京ミッドタウン主催の夏のキッズワークショップ企画参加コンペ
学内最終選考 (2017年)



東京ミッドタウン ホスピタリティ研修 (2015年)



MIDTOWN LOVES SUMMER TOKYO MIDTOWN
KIDS WEEKS 2015 みんなでつくろう日本の夏「船を作って、ミッドタウンへとびだそう！」(2015年)

としても良い人の流れを創出できたのではと思います。

六本木には、21_21 DESIGN SIGHTや森美術館、AXISなど、美大生が訪れるべき美術館やデザイン施設がたくさんあります。そんなデザインとアートの街の中に大学の拠点があり、活動の機会があることで、「遊びに来る場所」という受け身の姿勢だけではなく「自分たちが参画して動かしていく」という、自分事としての意識を育むことに効果があったと考察します。

次に、2期目(2015年-2018年)の活動の考察です。

1期目の活動を通し、デザイン・ラウンジのプロジェクトアーカイブがある程度蓄積されてきたので、そのリソースをいかに活用するかが2期目のテーマになっていました。また、2016年からは社会人向けデザイン教育講座の開催も始まり、少しずつ活動の方向性に変化がでてきました。

企業と連携したワークショップの開催について

様々な企業とデザイン・ラウンジが共同で企画する学生向けワークショップを開催しました。「出張!コロプラ次世代共創プロジェクト」や「チームラボ&武蔵野美術大学 チームで考えてチームでつくるワークショップ」などです。参加対象は、特に事情がない限り、本学の学生以外の参加者も歓迎する形を取りました。参加対象には「デザインに関心のある学生(本学学生以外も歓迎)」とだけ記し、社会人学生や専門学校生、もちろん美術大学以外の学部生、大学院生の参加も広く受け付けました。デザインハブを構成する教育機関としての意識です。

企画内容にもよりますが、実際の参加割合を平均すると、武蔵野美術大学の学生が約7割と他学生が約3割、というような比率でした。学内向けの広報はLive Campusによる配信、本学以外の学生はSNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)からの流入が主でした。本学以外の、



出張!コロプラ次世代共創プロジェクト (2016年)



チームラボ&武蔵野美術大学
チームで考えてチームでつくるワークショップ (2016年)

様々な属性の学生がデザイン・ラウンジで混ざり合うことで、普段会うことができない他大学の学生たちと情報交換して盛り上がる様子が多く見られ、結果的には本学の学生たちの満足度は高かったようでした。

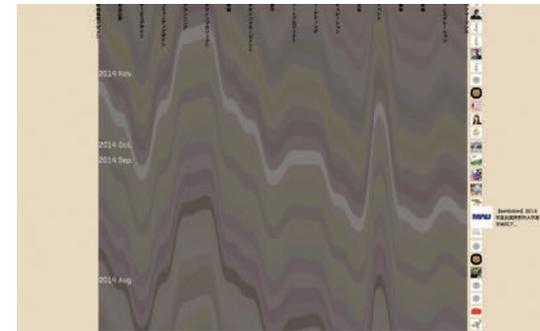
キャリアセンターと連動した就職活動に直結するようなイベントでは、特に学生同士のコミュニケーションがいわゆる活発でした。デザイン系あるいはファイン系の学科を問わず、学生が参加しやすい環境を提供することができました。

WEB上における情報発信について

デザイン・ラウンジのWEBサイトは、株式会社ラナエクストラクティブに制作頂き、2012年に最初の形がリリースされ、毎年、新しいコンテンツを追加してく形でアップデートを図りました。「デザイン・ラウンジに行かなくても何をやっている場所なのか伝わるように、また、そこへ行ったら何が起きるのか?」を知ってもらい必要があったので、単なる告知サイトにはならないように計画を立てました。それぞれの企画記事には、告知文だけではなく、イベントやプロジェクトの終了後には、必ず記録写真とアーカイブテキストを掲載するように運用し、いつでも9年間の蓄積を振り返ることができるようになっています。本学が、いつ何を思っ取り組んだプロジェクトだったのか、どんな企業と何を実施したのか、簡単に知ることができます。

2015年、3年分のアーカイブ情報が溜まったタイミングに、過去のイベントや成果情報を、デザインの視点からアーカイブ化し、デザインの体系化と今後のデザイン・ラウンジが発信していくデザイン領域の予測を提示するコンテンツを作りました。また、プロジェクトの成果を「デザインの認識評価のための基準」として、「新領域デザイン分野の紹介資料」として活用できるようにまとめ、実際のビジネスドメインベースでの活用を促しました。

SNSでの告知も、イベント周知には必要なことでした。たくさんの学生やデザイン関係者、デザインに興味のある方が各SNSアカウントをフォローしてくださり、SNS上でのコミュニケーションも積極的に行いました。はじめは、ゆっくり慎重に運用していましたが、少し荒削りでも良いのでスピード感を持ってたくさん発信するほう



プロジェクトウェブサイト「D-LOUNGE Geography」
デザイン・ラウンジの活動内容をビジュアル化し、活動軌跡を「かたち」で見られるようにしました。



デザイン・ラウンジ公式Twitter

へ方針転換し、2015年頃から本格的に運用を始めました。最終的には、Twitterフォロワー約6,700名とFacebookフォロワー約2,500名を獲得し、一定の影響があるアカウントに成長しました。デザインハブやリエゾンセンター・ライブラリーのSNSとも連携し情報発信できたことが、相乗効果を生んだと考察しています。

デザインハブでの企画展について

年に一度デザインハブにて開催した本学の企画展は、各研究室の全面的な協力により実現しました。しかし、業務量で見ると教職員・研究室スタッフの負担も大きいものだったので、2017年度のTYMOTEによるクリエイティブプロセスを探究する企画展「ハブとマンガース」、2018年度のNPO法人グリーンズによるソーシャルデザインを紹介する企画展「企(たくらみ)展」などの



東京ミッドタウン・デザインハブ
第70回企画展「ハブとマンガース」(2017年)



東京ミッドタウン・デザインハブ
第76回企画展「企(たくらみ)展」-ちよつと先の
社会を作るデザイン- (2018年)

ように、本学に関係のある団体・企業へ運営を依頼した年もありました。本学の卒業生がコアメンバーあるいは代表をしている団体・企業だったこともあり、デザインに関する新領域の紹介や探究、といったデザインハブでの展示レギュレーションを踏まえながら、本学卒業生の活動紹介ができた形です。

最後に、3期目(2018年-2021年)の活動の考察です。

3期目は、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う緊急事態宣言など、イレギュラーな事案も多くありました。しかし、六本木でのデザイン・ラウンジの最終年として相応しいデザインハブでの企画展の開催や、市ヶ谷へ繋がるストーリーの構築など、立ち止まる時間はありませんでした。

東京ミッドタウン館内のテナントや美術館との連携について

2018年頃は、東京ミッドタウン館内に入居するオフィステナントや美術館との連携企画が多くありました。たとえば、ナイキジャパンより社内のファミリーデー向けの学生企画の実施依頼や、21_21 DESIGN SIGHTより高校美術教員向け研修の共同開催依頼などを受けました。特に、デザイン・ラウンジへ直接要請を頂いたことがそれまでと少し異なる点で、本学の六本木での活動を通して、教育・研究機関としての認知と期待感が高まっていることを実感できました。せっかく築いたこの関係性は、市ヶ谷へ移転後も維持できるよう努めたいです。

デザイン・ラウンジの立地と市ヶ谷への接続について

デザイン・ラウンジが開所する前は、デザインと社会の動きに関する情報は、各教員の個人ベースで入手するしか方法がありませんでした。しかし、デザイン・ラウ



NIKE FAMILY DAY (2019年)



埼玉県高等学校 美術、工芸教育研究会 現地見学研修会 (2019年)

ンジを通して情報を入手することができるようになり、デザイン・ラウンジは「デザインの情報発信拠点」であることと同時に、「デザインの情報収集拠点」としても機能していることが分かりました。特に、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるデザイン事業、デザイン系文化プログラムについては、日本デザイン振興会や、港区ミュージアムネットワークなどから情報共有を頂くことができ、大学としてそういった予定を見据えた動きができるようになりました。

また、市ヶ谷での活動へ向けたプロジェクトの実施場所としても活用されました。千葉県いすみ市や、東京工業大学とのプロジェクトが順調に進んだのも、立地の良さ、またイメージとしてのデザイン・ラウンジの存在が理由の一つと考えられます。さらに、鷹の台よりも六本木の方が地理的に近いということだけでなく、それぞれの拠点から離れた都心に位置していることで、どちらかの大学キャンパス内でもなければ企業の打ち合わせスペースでもない、「ニュートラルな場所」として様々なプロジェクトに馴染みやすい環境だったことも、ユニークな点でした。

デザイン・ラウンジの市ヶ谷への機能移転では、たくさんの学生がいるキャンパスへ移ることになりますが、市ヶ谷には、クリエイティブイノベーション学科や造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコースだけではなく、ソーシャルクリエイティブ研究所や無印良品など、本学サイドの研究・教育リソースが揃っているの、逆にこれまで六本木のデザイン・ラウンジでは実現できなかった新しい体制で、活動の幅が広がりそうです。



東京工業大学との合同ワークショップ「コンセプト・デザイン」
本学市ヶ谷キャンパス (2019年)

資金の獲得について

当初、デザイン・ラウンジの運営費用を企業の寄付金に期待するプランもありましたが、社内の決裁プロセスが予想以上に複雑で大きな援助は獲得できませんでした。2020年には、デザイン・ラウンジを成果発表会や外部団体主催のワークショップの場所として使用を希望する団体からの問い合わせに対応するべく、有料で貸し出す機能を付加するプランの整備も進めましたが、新型コロナウイルスの感染拡大もあり実装までには至りませんでした。企画審査の線引きや料金設定など、そもそも一般的な貸しスペースとは単純比較できるものではなく、改めてデザイン・ラウンジのような場の価値を維持・提供することの難しさを認識しました。

新型コロナウイルスへの対応について

デザイン・ラウンジは、新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う緊急事態宣言を受け、2020年3月2日から5月31日を臨時閉室としました。東京ミッドタウンは、4月8日から5月31日までの間、全館臨時休業となりました。閉室中、スタッフは日数と人員を減らして出入りをしましたが、再開に際しては、開室時間を11:00-18:00から11:00-17:00に短縮、人間距離を取れるように部屋のレイアウト変更、入口にアルコール消毒液を設置、などの対策を行いました。21_21 DESIGN SIGHTや、日本デザイン振興会が運営するリエゾンセンター・ライブラリーとも連携し、足並みを揃えた対応です。

デザイン・ラウンジで予定していたイベントやワークショップの多くが延期や中止になる中、月に一度開催していた「折詰め会」は、早々にオンラインへシフトして実施を継続しました。デザイナー・エンジニアなど専門性を持つ人が集い、一つのテーマについて議論し、情報を持ち帰る勉強会です。オンラインで開催したところ、引越しや出産などのライフステージの変化で、最近デザイン・ラウンジへ来ることができなくなっていたメンバーが久しぶりに参加できるようになり、参加者数が増える形になりました。現場でしかできない実験やコミュニケーションもありますが、オンライン開催のメリットも発見できました。こうして折詰め会は、2012年から

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジの 3期9年間を振り返って



「折詰め会 第100回」 オンライン（2020年）

2020年12月まで開催を続けて、第100回を迎えることができました。

また、デザイン・ラウンジ オンライン企画「スペシャルインタビュー 2020」として、これまでデザイン・ラウンジにご関係頂いた学内外の方からお話を伺いながら、これまでの研究・活動を振り返るインタビューを行い、WEBサイトに記事として公開しました。内容は、本書にも掲載していますが、皆様にインタビューのご対応を頂いただけでなく多くの貴重資料をご提供頂いたおかげで、デザイン・ラウンジだけでなくデザインの歴史の一部を知ることができる意義深い記事が完成しました。

デザイン・ラウンジは社会と大学がつながる「場」として機能してきたので、できる限り門戸を開けておきたい、と物理的な開室に拘ってしまうこともありましたが、こういったコロナ対応を通して新しい発見もあり、場の機能や提供できる価値は多様であることが分かりました。この気づきも、六本木という場所で活動した蓄積があったからこそ得られたものですが、2020年12月にデザイン・ラウンジを閉室し、その機能を市ヶ谷キャンパスへ集約、新しい時代のデザイン及びデザイン教育を「考える場」へシフトする流れに自然と馴染み、合流していった印象です。これからも、「場」が提供できる価値とは何か考え続けていきます。

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジの3期9年間を振り返って

井口博美 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ ディレクター

全活動を振り返り

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジは、東京ミッドタウン・デザインハブの一員として、企業や地方自治体をはじめとする一般社会に対して「拓かれた美大」を目指し活動してきました。2012年の創設当初から掲げていた活動理念は下記の3点です。

1つ目は「つくる人を増やす」。これは必ずしもモノづくりだけに限らず、老若男女幅広くクリエイティブな志向を持った人々を増やしていこうというものです。

2つ目は「新しい関係をつくる」。本学の本拠地である鷹の台キャンパスはモノをつくる環境としては非常に適した場所ではありますが、美大の活動や実態を一般の方々知ってもらうためには、やはり都心へ出ることが有利です。そういう思いからデザイン・ラウンジの情報拠点としての機能を最大限に生かし、新しいネットワークや人脈を広げようということが2つ目の目的としてありました。

3つ目は「美大のアイデンティティを問う」。大きな世の中の変化に対して美大が取り残されないように、時代が変化の中で美大の存在理由を自ら社会に問いたいと考えました。この3つ目の理念は、どちらかというと対外的なことだけではなく「美大の存在理由を、美大自らに対しても問い直そう」という思いがありました。

これらの3つの活動理念を掲げ9年間活動しましたが、振り返るといろいろな想いが巡ります。実は当初の予定では、デザイン・ラウンジの活動期間を1期3年間と大学から内々に言われておりました。その最初の3年間、それから2から3期の各3年間というように都合9年間を振り返ると、その3つの期にはそれぞれステージ毎に質的变化を伴いながら活動内容がレベルアップしていったように感じております。

第1期は、予算がなかったこともあり、最低限の什器、設備しかありませんでした。すでにオープンしているに



『武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ』オープニング式典
開所式 (2012年)

もかかわらず、日本デザイン振興会や日本グラフィックデザイナー協会に来られる方から通りすがりに「ここには何ができるのですか?」と聞かれるところからのスタートでした。しかし、逆に「ここにどんなものができたらいいですか?」と立ち寄られた方に問い返すことをきっかけに、「何ができればいいのかを考えること」が実はデザインの原点であり、デザインが単純に色や形だけではないという基本思想から、美大の考えているデザインのことへと話を発展させた思い出が蘇ってきます。徐々に活動が増えていくと同時に、広い机や椅子などの備品も揃いイベントが開催出来るようになりましたが、そのすべてがゼロからのスタートだったということが、一つのほろ苦い思い出としてあります。

最初の3年間は出来るだけ中身の見えにくい「美大」を、広く社会に認知・理解してもらいたいと考えていました。大抵の方は美大のキャンパス内に美術館があることを知りませんし、本学の場合には特にポスターのコレクションや椅子のコレクションを豊富に収蔵していることも、一般の方はご存知ありません。そこで、第1ステージの最初のデザインハブ企画展として、本学のコレクションや活動実態を知ってもらうため、大々的なグランドオープン記念イベントとして「ムサビのデザイン 武蔵野美術大学の

デザインコレクションと教育」を開催し好評を博しました。

その他、デザイン・ラウンジのディレクターとして心がけたことは、「学内で出来ることはデザイン・ラウンジでは一切行わない」ということでした。六本木は立地がよいので、学科の卒業制作の学外展や公開レクチャーを開催したいといった要望も多々ありました。しかしそれを行わず、新しい時代を志向するという大義名分のもと、新しい関係づくりや新しい美大の姿を見せるような企画を育てあげ、いくつものイベントを開催したことが、本学にとって重要な一つの歴史のように思います。

それを皮切りに本学が手掛けるデザインハブ企画展としては、7つの学科がそれぞれの専門領域や持ち味を活かした展示会を開催しました。各学科が順番にプロデューサーとなり学内外の活動を紹介すると同時に、加えて新しいデザインを考える場や機会にしてもらおうという共通コンセプトがありました。最後の企画展「見えてないデザインー社会に問い続けるムサビー」では、デザイン・ラウンジで行われた社会とデザインの結びつきについてフォーカスしたパブリックな活動や、また外部から持ち込まれる企画に対しては一緒に企画を育てあげて実現してきたイベントの数々等、それらデザイン・ラウンジの様々な共有資産としての実績と新しいデザイン提案を俯瞰するかたちで一つ一つ紹介しました。

これらの活動は、あくまで本学が主役ということではなく、役割的には日本の美大あるいはデザイン系の教育機関の代表として中立的な立場や視点で行ってきたものです。



東京ミッドタウン・デザインハブ第36回企画展
「ムサビのデザイン 武蔵野美術大学のデザインコレクションと教育」
(2012年)

印象に残る活動

前述の通り、デザインハブでの最後の企画展は「見えてないデザイン」でしたが、スタート当初の企画展は本学のコレクションを中心に時代を振り返るものでした。そのことからデザイン・ラウンジの活動は、「モノのデザイン」からプロジェクト型の「ソフトのデザイン」に広がって行き、新しいデザインのあり方を問い続けてきた流れがあったように思います。

たとえばいち早くサービスデザインやUXデザインを取り上げて、セミナーやワークショップを開催しました。株式会社コンセントとは共同で「SERVICE DESIGN LOUNGE」を企画し、また当時デザイン思考やUXデザイン等に焦点を当てて活動していたXデザイン学校と協力して、社会人向けに新しいかたちでのデザインの学びの場を提供しました。

一方で現状の美大とはトレンドの異なる、ネット系、情報・WEB系、メディアアート系の分野では、ヤフー株式会社をはじめ、面白法人カヤックや株式会社ラナエクストラクティブ、チームラボ株式会社などの企業と連携を取り、数回のシリーズにわたりワークショップや各種イベントを幅広い層の受講者を迎えて行いました。

その他には、数多くの産官学共同プロジェクトを行いました。千葉県いすみ市と行った「いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト」は、定番化していたアートによる地域イベント協力という枠組みを越える六本木連携



いすみ市発房総ライフスタイル・プロジェクト
いすみ市役所でのミーティング (2015年)

型のプロジェクトという試みで、大きな意味を持っています。以前より、美大は企業や地域と様々なプロジェクトを行ってきましたが、発表の場やコラボレーションの拠点を六本木に得たことで、さらに多彩な展開が繰り広げられました。

イベントでは、毎年恒例の「六本木アートナイト」に東京ミッドタウンの協力プログラムとして参加してきました。本学教員と学生が一緒になり美大の特色を活かしたイベントの企画やアート作品の提供等を積極的に行いました。本学には現役のアーティストとして活躍している教員や卒業生が多くおりますが、とりわけ空間演出デザイン学科教授でありデザイン・ラウンジ運営委員会副委員長の津村耕祐先生には、自らもアーティストとして作品参加する傍ら、学生と一緒にプロジェクトやイベントを企画・実施していただきました。

また毎年夏には「つくる人を増やす」という主旨から、東京ミッドタウン、デザインハブと共同で親子でのデザインワークショッププログラムや、様々なキッズイベントを開催した実績も重ねてきました。

活動の広がり

活動の広がりにおいては、本学が六本木に拠点を得たことがとても大きな意味を持っていました。文化的で知的好奇心の強い方々や、外国人を含めたご家族、ミッドタウンのイベントに参加された方など、幅広くデザイン・ラウンジへとご来場頂きました。六本木という地の利を生かし、美大のあり方を周知していただくと同時に、美大にとっても新しい活動を広げるような契機にもなり、次々にその活動が拡大・循環していきました。

また産官学共同プロジェクトにおいては、たいへん多くの企業や地域の方々と協働する機会に恵まれました。ここ数年の状況として「首都圏」か「地域・地方」といった二極構造を起こしつつあったことに対して、六本木に拠点を持つことにより、関西系の企業などとも協働する契機となりました。ミズノ株式会社、ナカバヤシ株式会社、そして数多くの中堅企業、中小企業の方々とプロジェクトを行いました。このような本学の活動は、美大やデザイン系の大学が改めて全国区へとその活動の領域を広げていくための役割を果たせたのではないかと考えております。



3Dペンをつかって空中に絵をかこう(2014年)東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2014にて開催したナカバヤシ株式会社との3Dペン「3Doodler」を使用したワークショップ

そのような足跡が残せたのも、改めてデザインハブに所属していたことが何よりも大きな意味を持っていたと思います。デザインハブは、日本デザイン振興会と日本グラフィックデザイナー協会がその拠点を置く日本のデザイン振興機関の中核です。この場所だからこそ、革新的なデザインの企画展を行なうことが出来まし、その影にはいろいろな協力関係があったことに感謝しております。

一方で、東京ミッドタウンへは、デザインハブにおいて本学が教育機関の代表として活動をしてきたことで、美大ならではの彩りを添えることが出来たのではないかと感じております。美大の役割として、やはり従来の工学系、情報系のデザイン大学と趣が異なりイメージ的に華やかな一面を期待されることが多い傾向にもあります。手前味噌ですが、多彩なイベントや活動を通じて少なからずその期待には貢献することが出来たのではないかと考えております。

各期を振り返り

第1期は何もない空っぽの空間からスタートしましたが、その当時からデザイン・ラウンジの場の意味や可能性を象徴するかのような企画である「折詰め会」がスタートしました。それはデザインに関心があったり、クリエイティブなことを求めている人たちが自由に集い意見交換や情報を発信し、さらには毎回得たものを各自が持ち帰るといった気の張らない勉強会的サークルです。

発起人は、多摩美術大学出身の2人の女性インハウスデザイナーでした。自分たちのアフターファイブの活動



折詰め会 拡大版 -デザイン学科で学んだことは何?- (2013年)

を仕事や生活に生かそうということで、デザイン・ラウンジの存在理由をそのまま汲み取ってくれました。またそのきっかけは、会社や仕事だけではなくパブリックな交流活動をしたいと相談を受けたことからでした。それは自分たちのためにというよりも、デザイナーだけでなくエンジニアであったり営業だったり、クリエイティブなことに関心があり、特に若い人で企業の中で仕事や自分の将来について悩みを持ちつつも、面白いことや、楽しいことをしたいと考えている人に向けて、交流イベントを開催したいといった清々しい思いがありました。

振り返ってみれば、この活動がコンスタントに続き、9年目である最終年に見事に100回を迎えたわけです。私個人としてはデザイン・ラウンジの生き証人的存在でもあるので、彼女達の活動が今後も続いて行くなれば、六本木では幕を閉じますが市ヶ谷に全ての機能を移行することを考えていますので、そこでも活動を受けられるよう検討していければと思っていますし、また長い間この場所で活動を続けて頂いたことに対して表彰状を授与したい気持ちでおります。

1期目は新たな活動を社会的に拡げていく遠心力醸成のため、自ら課した掟として「学内で出来ることは一切行わない」方針を貫いていましたので苦勞の連続でしたが、2期目に入ると実績もある程度増え、活動の領域やイベントメニューも広がっていきました。数多くのプロジェクトやイベントや展覧会を開催し、そのすべてが意味のある情報発信型の活動となりました。

1期目より、広く一般向けに公開講座を行なっていましたが、2期目にはその中で、2015年度より本学学長に

就任した長澤忠徳教授が自ら先頭に立ち「WEEKEND学長トーク」を3回にわたり開催しました。学長トークは、一般の方や高校生、美大に関心のある社会人を迎えて「美大は誤解されている?」「もともと美大はグローバル!」「今、だからムサビ。」というテーマで、学長自身がダイレクトに熱のこもったお話をしました。このような美大をアピールする場を得たということが、本学にとってはいろいろな意味で転機に向かうきっかけになりました。

またこのような革新的な志向を持つ長澤学長ですが、本学執行部にて国際部長を歴任しており、美大をグローバルにしたいという考えから、2014と2017年には「グローバル・デザイン教育フォーラム」をデザイン・ラウンジおよび、インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターにて開催しました。諸外国の大学を招くことだけではなく、同じ思いでいる美大あるいは芸術系の大学が集まり協働体制のもと連携を取りながら活動を行う、「Global Design Initiative (GDI)」がここで決議されスタートしました。

そこに至る経緯を紹介すると、1期目には学長と私自身は本学デザイン情報学科に所属しておりました。ちょうどその頃ですが、デザイン情報学科主催で「PROVOKE デザイン・インフォマティックス・フォーラム」を2012から2013年にかけて開催しました。デザイン情報学科は当時、デザイン・ラウンジを介して美大をこれからのようにプロモーションするのかという部分で、メニューの先取りをしたような実験をしていました。

そこでの狙いは、デザイン情報学科が目指す新たな教育路線の枝葉を広げデザイン・ラウンジ全体のプロジェクトや活動に展開すること、結局はそこで育った果実が何らかの形で「市ヶ谷構想」へと繋がっていきました。

その過程で、東京工業大学とは互いの特色を補完しあい「創造的思考力」を養うことを目的とし、合同ワークショップを開催しました。2013年には、「教育研究交流に係る連携協定」を結ぶに至り、象徴的な出来事として両大学学長の調印式と関連イベントがデザイン・ラウンジにて実施されました。以後、東京工業大学との合同ワークショップは毎年行われ、この積み重ねは理系の大学と美大のコラボレーションの先鞭をつけました。

2期目の活動では、主に多種多様な教育系プログラムを数多く開催しました。美大の存在理由・特色は、元来「アクティブラーニング」であり、新しい学びについてのヒントになることが数多くあるということです。その教育は、学生それぞれがある意味で苦しさを伴いながら「つくることは楽しい」と感じることが大切な部分ですので、そのことをどのように一般の方々にも認知してもらえるか考えてきました。そこで、デザイン・ラウンジでは各種イベントによりその対象を、子供から老若男女へと広げていましたが、新たにノンデザイナーの社会人のために、イベント的な学びの場として「WEデザインスクール」や「Xデザイン学校」などのタイアップや、企業に協力いただいたのワークショップを開催しました。

また同時期には並行して、数多くの産官学共同プロジェクトの最終発表展示会や関連イベントを開催しましたが、その中でも「懇親力のデザイン (Conviviality Design) ～和文化で集う“多目的ユニット (集成材)”の提案」は深く印象に残っています。

大切な事柄への決め事は正式な会議等の表舞台ではなく、むしろパーティや会食・飲み会の場を共にしながらの人間関係の潤滑なコミュニケーションから生まれます。これは長澤学長の持論でもあります。その「懇親力 (Conviviality)」に注目した展覧会を行いました。振り返ると改めてクローズアップしたいイベントであり、デザイン・ラウンジでのイベント後に催す細やかな懇親会に根強い人気があったことも、現状の世界を脅かすコロナ禍だからこそ今となっては極めて貴重な場だったように思えます。



懇親力のデザイン (Conviviality Design) ～和文化で集う“多目的ユニット (集成材)”の提案 (2015年)

3期目はすでに2期までに定番型のイベントも相当数増えていましたし、多彩なプロジェクトやイベントを積み重ね、デザイン関連イベントとしてはフルメニューに近い実績が出来ていました。学外からの企画の提案やご相談も自然に来るようになっていましたので、そういう意味では2期目までの余勢を駆っての3期目は次の市ヶ谷構想へ向けての活動・体制を整えていった時期でした。

六本木から市ヶ谷へ

デザインには様々な学びがありますが、どのようにすれば文部科学省が施行する教育改革につながるのか模索した9年間でした。日々学内では学生たちと試行錯誤を繰り返しながら学びを共有しておりますが、賛否はあるもののデザイン・ラウンジをサテライト教室にしなかった分、教育を含めて多くの実験的なことを行えたように思います。それらを助走路として新学部・新大学院の創設や市ヶ谷キャンパスへと繋がるベースや脈絡が生まれました。

デザイン・ラウンジで出会った人たちは、2000人を優に超えます。その出会いの中から期せずして、最も有力な協力者3名の方を本学クリエイティブイノベーション学科の新任教員として迎えることが出来ました。

長谷川敦士先生は「いすみ市発房総ライフスタイルプロジェクト」「SERVICE DESIGN LOUNGE」に参画いただいた株式会社コンセントの代表です。また山崎和彦先生は千葉工大で教鞭を取る傍らで一般向けにXデザイン学校を主催されていました。若杉浩一先生には、展覧会「懇親力のデザイン」に当時内田洋行のデザイン会社であるパワープレイスの事実上のボスとして参画していただきました。今その3名が市ヶ谷キャンパスにて同じ学科研究室で新しい教育に携わっています。つまり、このような強力な関係には、東京ミッドタウン、デザインハブ、デザイン・ラウンジが深く関わっているわけです。

移行後のデザイン・ラウンジ—本学100周年に向けて

本学は幸いにも2012年にデザイン・ラウンジという拠点を持ち、学外へと大きく踏み出すことが出来ました。私自身紆余曲折にご縁があってディレクターを務めさせていただきましたが、3期9年間、本当にたくさんの



サービスデザイン：手業なきデザイン? (2015年)
手業なきデザインは「デザイン」と言えるのか、という立場からサービスデザインを考えた講義を開催
講師のニコラス・ローズ氏 (ロンドン芸術大学 セントラル・セントマーチンズ・カレッジ)

協力者のご尽力により、いろいろなかたちで美大の本当の姿を理解していただくと同時に、最初に掲げた3つの活動理念のもと、都合600件以上のプロジェクト、イベント、展示会が開催出来ました。

これもひとえに、クリエイティブな社会をつくっていく、あるいはクリエイティブで何か面白いことすることにご賛同いただいた企業や、クリエイターの方、個人の方々、地域の方々のご協力の賜物です。多くの活動は手弁当型のコラボレーションというかたちで行うことが出来ました。予算的には苦勞もしましたが、お互いにその苦勞を分かち合い思いもよらぬような実績ができたことが、多くの方々とも今も繋がりを保っている大切な要因であると考えています。

一方、美大が「ブラックボックス」から「クリアボックス」へと世間の目の解像度が上がり、その多様な実態を伝えると同時に、活動範囲を広げ社会との敷居を低く出来たのではないかと考えております。「美大と社会をつないでみたら、どのようなハブニングが起こせるのだろう」という思いで活動が続ける中、実験的な取り組みの連続で成功も失敗もありましたが、今後の本学の活動の布石となっているようにも思います。

デザイン・ラウンジは、2021年度より所を変え市ヶ谷へと機能移転をします。そう考えますとこのデザインハブの縦長の展示会場は、新たな活動への「滑走路」のように見えます。今後その離陸後の新しい活動が市ヶ谷で

展開されますが、多くのデザイン・ラウンジのファンが増えてきたことについても、引き続き応えていかなければなりません。そこで現在「ネクスト・デザイン・ラウンジ」プロジェクト [仮称] ということで、六本木での集大成企画展を2年間かけて全国巡廻する予定であります。

グランドオープンの年度に開催した企画展「ムサビのデザイン」から、最後の企画展「見えてないデザイン」までの9年間の半ばには、「手業」なきデザインは本当にデザインなのか……というような論議を巻き起こした記憶もあります。それが今では社会と向き合っているデザインは、UXデザインやサービスデザインが主流になりつつあります。しかし伝統を有する美大としては、それらのデザインが「モノづくり」とパースペクティブに繋がっているということ、大切なポイントとして一般の方にも伝えていかななくてはなりません。かつこの激動の時代において、「デザイン」を未来や世界に対して必要不可欠な「創造的思考力」とする時代だと考えており、そのことを常に社会へ問い続けなければなりません。

多くのことを述べましたが、このような思想をしっかり育んだことが六本木におけるデザイン・ラウンジの活動の功績です。また今度それらを実際の具体的なかたちにすることが、市ヶ谷キャンパスでの活動だと考えております。いわばこのデザイン思想をかたちにするため、全学科で連携を取り合い、それぞれの持ち味を活かしながら本学の100周年に向けたイノベーションにつなげていければとも考えています。

またそれが本学だけのことに留まらず、この十数年世の中に広がりを見せた「デザイン思考」や「課題探求型教育」等を共有基盤として、それをしっかりと日本全体の将来ビジョンを伴った本物に育てて行くことに、美大が微力ながらも貢献していければと考えております。

最後になりましたが、デザイン・ラウンジにご来場頂いた多くの皆様、プロジェクトにご参加頂いた皆様、参画いただいた企業や地方自治体、大学の皆様に、厚く御礼申し上げます。

本当に9年間ありがとうございました。



武蔵野美術大学
市ヶ谷キャンパス
施設風景



市ヶ谷キャンパス

井口 博美

デザイン・ラウンジ ディレクター/
本学造形構想学部クリエイティブ
イノベーション学科 主任教授

専門はデザインマネジメント、デザイン
サーベイ、マーケティング。1956年福
岡県生まれ。本学造形学部基礎デザイン
学科卒業。感性工学やマーケティング手
法をベースに、自動車や情報通信機器等
ID系を中心としたデザイン評価やデザ
インマネジメントの方法論を独自に研究・
開発。基礎デザイン学会会員（設立発起
人）、日本感性工学会会員（デザイン経営
部会）、芸術工学会会員。



クリエイティブイノベーション学科 専門課程 (3・4年次)



造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコース (大学院)



ソーシャルクリエイティブ研究所



クリエイティブ
イノベーション学科
基礎課程 (1・2年次)
鷹の台キャンパス
施設風景

デザイン・ラウンジ 施設 東京ミッドタウン/東京ミッドタウン・デザインハブ

デザイン・ラウンジは2012年4月から2020年12月の期間、東京・六本木に2007年に開設した「東京ミッドタウン・デザインハブ」内にて活動しました。

東京ミッドタウンのタワー棟5階に位置しており、外景には檜町公園や赤坂のビル群を望み、入口側にはデザインハブの大きな展示空間がありました。デザインハブは、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ、公益財団法人日本デザイン振興会、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会により構成され、年間を通じて様々な企画や展示を共同で運営しました。

東京ミッドタウン：2007年3月30日、六本木で開業した、ホテル（ザ・リッツ・カールトン東京）、文化施設（サントリー美術館など）、130に及ぶ商業店舗、オフィス、住居、病院、公園などが集約された複合施設。



デザイン・ラウンジから望む、檜町公園と赤坂のビル群



東京ミッドタウン・デザインハブ
写真：東京ミッドタウン・デザインハブ第87回企画展
ゼミ展2020 見のがし卒展（2020年）



東京ミッドタウン アトリウム
写真：MIDTOWN LOVES SUMMER TOKYO MIDTOWN
KIDS WEEKS 2016 みんなでつくろう日本の夏「忍法うつしとりの術！～集めた景色でハンカチを染めよう～」(2016年)



東京ミッドタウン プラザB1「無印良品」前
写真：MIDTOWN LOVES SUMMER TOKYO MIDTOWN
KIDS WEEKS 2019 みんなでつくろう日本の夏「キラキラ！まわるクラゲくんを作ろう」(2019年)



東京ミッドタウン 外苑東通り沿い ガレリアゲート前
写真：ガチャむらやII - 六本木アートナイト2019 - (2019年)

デザイン・ラウンジ 設備

デザイン・ラウンジの内装は「そこに集まる人によって変容していく空間」をコンセプトに、本学空間演出デザイン学科の津村耕佑教授と株式会社E&Yによって設計されました。

株式会社E&Yによるデザイン・ラウンジ什器コンセプトでは、もっとも重要なスペースを利用するという点に対して、ある種の余白（空間を自由に構成できる）という意味を多く残すスペースや家具が考えられました。

スペースはパーティションでやわらかく仕切り、椅子などはオフィス色の強いキャスター仕様のものでなく、あえて通常の椅子やスツールにしました。わずかな重心の低さを意識し、また配置したテーブルは片側だけにキャスターを配置し、片側を持ち上げるだけで簡単に移動できる仕組みになっていました。これにより、空間の用途やコミュニティ次第で軽快に空間を変えることが出来ました。

また意識を落ち着かせることは重要と考えていましたが、ソファなどでのんびりする、いわゆる落ち着くためのラウンジではなく、起点としての意味を重要視し、会話や行動など「動き」がでる構成にしました。使用用途として、ミーティングや交流の場としてはもちろん、エキシビジョン的な作品展示、レクチャーやワークショップなどを考え、また、可動できるプレーンなテーブルや平台などは企画に応じて構成できるようになっていました。オフィス色の強いデザイン・ラウンジの空間を、少ない手数で機能性を保ちながら、家具のマテリアルなどの相性を考えて制作しました。什器の材料は、スチール板・角鋼、シナ共芯合板、アッシュ無垢材、合板・メラミン、をメインとし、厚クラフト紙、MDFなどを使用しました。

*デザイン・ラウンジの内装については、本書56-59頁のスペシャルインタビュー2020「デザイン・ラウンジと津村耕佑」津村耕佑（ファッションデザイナー/本学空間演出デザイン学科教授）を合わせて参照ください。



企画に合わせて緩やかに形が変えられる自由な空間。開放的でフラットな空間は開室期間中の9年間変わることはありませんでした。



交流の場



エキシビション的な作品展示

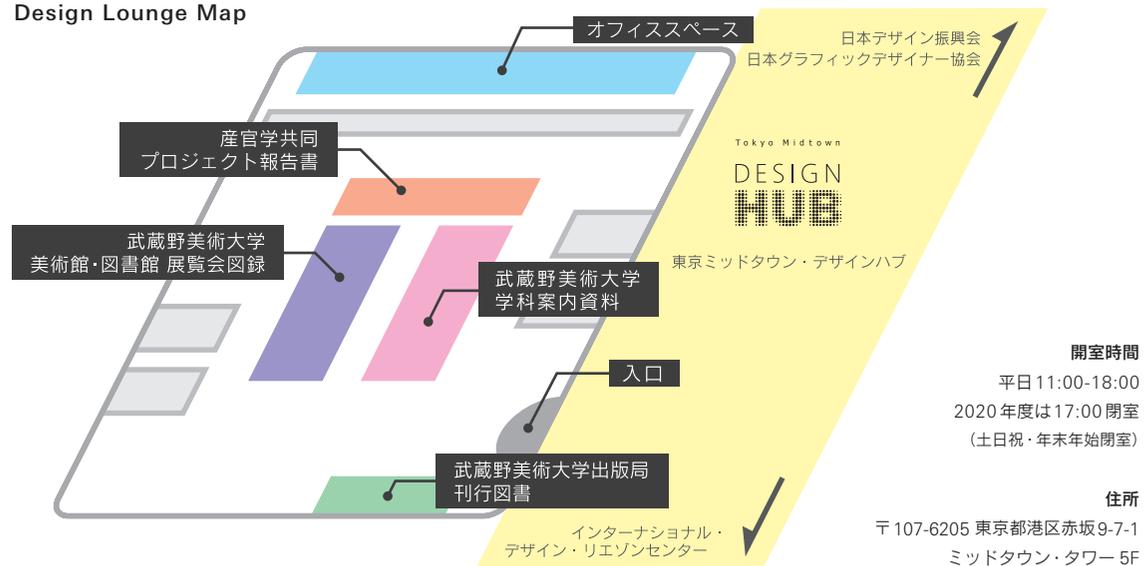


レクチャー (定員:約50名)



ワークショップ (定員:約40名)

デザイン・ラウンジ マップ
Design Lounge Map



開室時間

平日 11:00-18:00
2020年度は17:00閉室
(土日祝・年末年始閉室)

住所

〒107-6205 東京都港区赤坂9-7-1
ミッドタウン・タワー 5F

デザイン・ラウンジ web コンテンツ

デザイン・ラウンジ 公式サイト

デザイン・ラウンジのウェブサイト (<https://d-lounge.jp>) は、2012年4月の開設にあわせ決められた3つのコンセプト (1. つくる人を増やす、2. 新しい関係をつくる、3. 美大のアイデンティティを問う) に基づき、株式会社ラナエクストラクティブとともに作成しました。基本コンセプトの共有から始まり「社会実験の場」にふさわしいサイトのあり方を社会に提案することを目的に、以下の3つを基本伝達事項とし制作しました。

- (1) 今後開催されるイベント情報の効率的な伝達
- (2) 過去行われたプロジェクト・イベント情報のアーカイブ化と公開
- (3) 企業などの外部パートナーとの社会実験プロジェクトの紹介

更に、本ウェブサイト自体をラナエクストラクティブとの共同社会実験の場として機能させることで、デザイン・ラウンジの「一施設」として情報発信メディアの有用性を検証しました。また各データ、ウェブページの重さと表現の可能性の調整を行ったり、ウェブ特有の文章以外の情報で楽しむことができるコンテンツの提案などを実装しました。デザイン・ラウンジの情報発信のメディア拠点として捉えることで、実際の場所としてのデザイン・ラウンジと共に、その価値が発展をして行くことを目指しました。

*デザイン・ラウンジ web コンテンツについては、本書68-73頁のスペシャルインタビュー 2020「デザイン・ラウンジの成り立ち」山下亮 (クリエイティブストラテジスト/アートディレクター/クリエイティブディレクター) /千羽一郎 (武蔵野美術大学 専任職員) を合わせて参照ください。



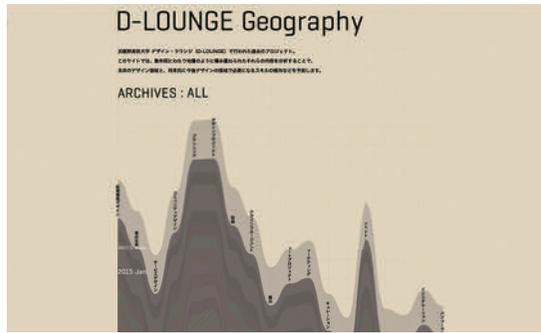
公式サイト <https://d-lounge.jp>



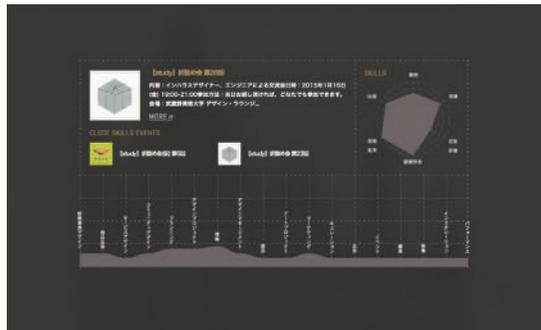
PROJECT ページ (各プロジェクトが左右からリスト状に流れる。)



EVENT ページ (個別に制作されメイン画像の下に説明が表示される。)



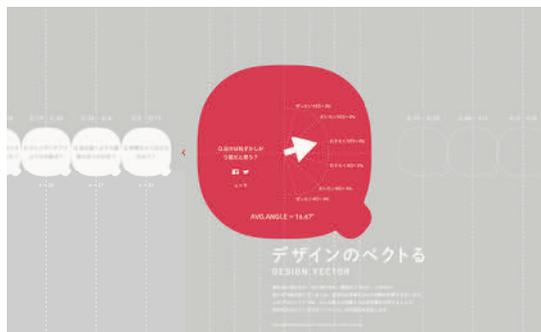
D-LOUNGE Geography (イベントが重なり地層のようにになっている。)



D-LOUNGE Geography (イベントの個別ページでは各パラメータの詳細を見ることができる。)



美大ラウンジ



デザインのベクトル

D-LOUNGE Geography

2014年度は、デザイン・ラウンジでのイベント総数が150件を超え、時系列で見た時に、過去の情報と現時点で行っているデザイン・ラウンジの活動とのリンクが見えにくくなってきた時期でした。ウェブサイトにおいても同様で、複数のカテゴリにまたがる大量の情報の中で、求めている情報(特にアーカイブ情報)へのアクセスが困難になり始めていました。そこで「デザインの視点」から「ウェブの技術」を使い「新しいアーカイブのかたち」を模索するプロジェクトを、デザイン・ラウンジのウェブサイト制作したラナエクストラクティブと共同で行いました。

そこで作られたプロジェクトウェブサイト「D-LOUNGE Geography」は、数年間にわたり地層のように積み重ねられたデザイン・ラウンジでの活動内容をビジュアル化し、それぞれのプロジェクトの要素(対象デザイン領域、実施目的)を適用させることで、活動軌跡を「かたち」で見られるものになりました。また同時に未来のデザイン領域と、将来的にデザインの領域で必要となるスキルの傾向などを予測しました。

美大ラウンジ

美大やデザイン・ラウンジのこと、アートやデザインの情報などを、手羽イチロウ(美大愛好家)とデザイン・ラウンジのスタッフがそれぞれの独自の視点でお伝えする不定期更新型ブログでした。

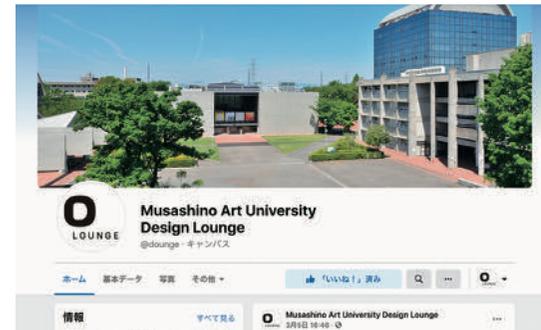
デザインのベクトル

「デザインのベクトル」は、毎週提示されるデザイン・ラウンジのメンバーが考えた「お題(広く社会に関わるデザインやアートをテーマとした質問)」に、みんなで応えて、その応えの方向性を視覚化する参加型のWEBコンテンツでした。

例えば、道を右に進むのか、左に進むのか。階段を下るのか、上るのか。個人が行動を起こすときには、身近な出来事における判断が影響を及ぼします。毎日のようにテレビやインターネットなどでニュースが配信されていますが、それを知った時に思い浮かぶ同意や批判は、



検索エンジン



Facebook <https://www.facebook.com/dounge/>



Twitter https://twitter.com/mau_d_lounge/



Instagram https://www.instagram.com/mau_d_lounge/

何を根拠に生まれるのでしょうか。アナウンサーの言葉に「確かに」と感じるのか、「違う」と感じるのか。それは、幼い頃から積み重ねられてきた価値観による判断なのかも知れません。そうであるならば、日本の総意や、世界の総意とは、一人ひとりの価値観の積み重ねの集合体であり、各が多少なりとも歴史上の大きな流れに影響を与えてきたのではないかと考えました。

そこでこのプロジェクトでは、広義のデザインやアートをテーマに、そんな個人の判断とその全体量を分析することで、世の中の向かうべき方向(ベクトル)の可視化を目指しました。毎週、参加者の思いの総体が、方向として表出されました。

検索エンジン【も - さく - エンジン】

世の中に普及している検索エンジンは、調べたい「言葉」が明確にある場合には有効ですが、そもそも調べたい「言葉」がわからない場合があります。この「検索エンジン」は、自分に合った調べたい検索ワードから検索結果を教えてくれる一般的な検索エンジンとは異なります。

「検索・もさく」とは、手さぐりで探し求めることという意味です。「今はわからない言葉でも、いつか調べたくなる言葉かもしれない。」「今は気づいていないことでも、いつか大切なことに気づくかもしれない。」「未来の可能性を今の自分だけに決めさせない。」そういった思いを具体化して、自分自身では考えなかった可能性(興味を持ちそうなことや検索ワード)を提示してくれる方法を考え、ラナエクストラクティブと共同でデザイン・ラウンジの公式サイトに検索ボックスに実装しました。

デザイン・ラウンジ 公式 SNS

デザイン・ラウンジでは、SNSを利用して広報活動を行っています。*2021年3月22日時点

Facebook

フォロワー数: 2,591人/いいね!数: 2,463

Twitter

ツイート: 6,089/フォロワー: 6,739人

Instagram

投稿: 163/フォロワー: 1,163人



謝 辞

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジは、2012年4月にオープンし9年間にわたり活動を続けてまいりました。まずは本活動にあたり、非常に多くの方々にご協力をいただきました。ここに、心より感謝の意を表します。

この9年間の活動を振り返ってみると第一期では、六本木アートナイトや、東京ミッドタウン及びデザインハブ主催のキッズワークショップなど様々なイベントに参画することで、地域住民や学生を巻き込んだ人気イベントを多数開催できました。また社会的なデザインプロジェクトや、社会人を対象とした勉強会も始動し、創設当初に掲げた3つの理念に沿った活動を着実に進めることができました。第二期では、第一期での活動を軸に、多種多様なプログラムをより具体的に実践することができました。この6年間の活動の広がりや、教育関連のみならず、展示、ワークショップ、地域プロジェクト、国際交流、企業との共同プロジェクトなど幅広いプログラムを実践することができ、周囲から一定の評価をされたことと自負しています。さらにこの6年間の活動が第三期（9年間）の活動につながり、デザイン・ラウンジの位置づけを確固たるものにできたことをとても喜ばしく思います。

ここまで順調に活動できたのは、東京ミッドタウンマネジメント株式会社、公益社団法人日本デザイン振興会、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会の方々のお力添えのおかげであると考えております。

このように9年間で新たな拠点を形成していく中で、これまで「社会」と「大学」がつながる場として発展してきたデザイン・ラウンジは、2020年12月をもって閉室いたしました。

今後は、デザイン・ラウンジで培ってきた役割・機能をさらに発展させ、2019年に開設した市ヶ谷キャンパスへバトンを受け渡し、さらに情報発信力の強化に努めることで「美術大学の新たな価値」を追求して参りますので、より一層の御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、これまで、デザイン・ラウンジにご来場頂いた皆様、プロジェクトにご参加頂いた多くの皆様、すべての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

2021年3月 吉日

武蔵野美術大学大学企画グループ社会連携チーム 澤野 誠人

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

運営メンバー

井口博美	ディレクター
山下 亮	2012-2015年度 アシスタントディレクター
加倉井美香	2016-2020年度 アシスタントディレクター
上村尚子	2012年度 アシスタント
日下真由子	2012年度 アシスタント
吉田舞衣	2013年度 アシスタント
稲木 太	2013年度 臨時アシスタント
中村 仁	2015年度 アシスタント
高橋 薫	2014-2016年度 アシスタント
高橋明日香	2016年度 アシスタント
日吉洋人	2016-2017/2020年度 アシスタント
小坂由利子	2016年度 臨時アシスタント
富樫まなみ	2017年度 アシスタント
齊藤慶美	2018-2019年度 アシスタント
畑 正太	2018-2019年度 アシスタント
杉田佳香	2018-2020年度 アシスタント

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ
プロジェクト報告書2012.04-2020.12

Musashino Art University Design Lounge
Project Report 2012.04-2020.12

企画/編集/構成：
武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ
加倉井美香
杉田佳香
日吉洋人

発行：
武蔵野美術大学
大学企画グループ 社会連携チーム
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
telephone: 042-342-7945
facsimile: 042-342-6087

印刷/製本：
プリンティングイン株式会社

発行日：
2021年3月31日
(武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ 報告書)

本書の一部もしくは、
すべてを複写複製することを禁じます。

© Musashino Art University Design Lounge 2021